

鹿児島高専だより

第 59 号

平成 20 年 10 月

〈特集〉 学生生活支援の諸活動



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目次

校長室から

1 年を振り返って	1
-----------	---

特集「学生生活支援の諸活動」

学生支援の現状	3
オフィスアワーズ等の利用状況について	5
専攻科生に対する新たな教育支援 ーBCITへの専攻科生派遣ー	6
学寮チュートリアルについて	8
学生支援GP（新たな地域連携型クラブ活動 支援プログラム）ー英語部支援ーについて	9

教務だより

創造性豊かな開発型技術者の育成を目指して	10
平成20年度 一日体験入学報告	11
授業参観（1～3年）	12
平成20年度 1年生集団研修報告	13
総合学力調査について	15

学生だより

学生の生活指導について	16
今までを振り返って	17
校内美化運動について	18
安全に対する意識を！！	19
クラスマッチ	20
全国高専大会に向けて	21
九州高専大会を通して	21
前へ、そして前へ	22
平成20年九州沖縄地区高専体育大会等競技結果	23
ロボコン近況報告	25
高専祭開催について	26

志学寮だより

御挨拶	27
寮長として	27
女子寮棟長として	28
副寮長として	28
班長研修会について	29
新入生歓迎寮マッチについて	29
ごみ分別講話について	30

避難訓練について	30
----------	----

専攻科だより

新設科目 「環境創造工学プロジェクト」の紹介	31
専攻科特別研究紹介	32

地域共同テクノセンターだより

テクノセンター報告	35
産学官連携活動について	35
「企業技術者等活用プログラム」地域産学官の連携による長期インターンシップ実施体制の構築にむけて	35
第7回産学官連携推進会議への出展	35
共同研究部門について	36
ソフトプラザかごしま「鹿児島高専産学官連携推進室」から	36

学生何でも相談室だより

学生相談インターカーセミナーに参加して	38
---------------------	----

教職員研究活動

竹炭等の自然物を利用した河川等の水質環境の改善	39
研究活動のご紹介	40
私の研究 ～学生時代から～	41
研究紹介	42

教職員の動向

新任教職員紹介	43
訃報	45

留学生だより

平成20年度留学生活動報告 (1)	47
-------------------	----

卒業生から

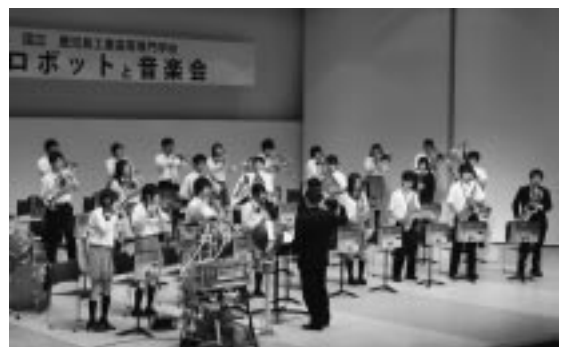
高専を卒業して	48
卒業してから思うこと	48
サービスエンジニアを目指して	49
学生から社会人へ	49
大学編入して	50
専攻科を修了して	50

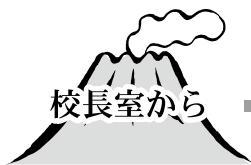
後援会だより

後援会費について	51
授業参観を終えて	51
授業参観に参加して	52
授業参観について	52
ー授業参観を終えてー	52
平成20年度授業参観 アンケート（1年生）	54
平成20年度授業参観 アンケート（2年生）	56
平成20年度授業参観 アンケート（3年生）	59
寮食アンケート	62

【表紙の説明】

ロボットと吹奏楽部が「共演」を披露した「高専ロボットと音楽会」の写真。ロボットを通じ子どもたちに理工学への興味を持ってもらおうと、鹿児島市の県民交流センターで初開催しました。





1年間を振り返って

校長 赤坂 裕

鹿児島高専校長に着任して今年度が2年目になります。昨年1年間を振り返って、印象に残っていることを幾つか取り上げてみます。ただし、今回は学習に関することは除きます。

1. 学寮

着任早々の昨年5月に、東京の機構本部に鹿児島高専の将来計画について説明に行きました。意見交換が終わった後の雑談で「大学から高専に移って何が一番違いますか？」と問われ、学寮がすばらしいと答えました。昨年10月（第57号）の「高専だより」にも、本校の学寮（志学寮）は、薩摩の「郷中（ごじゅう）教育」の流れを引き継いでいると書かせてもらいました。1年生は原則全員入寮であること、「寮生会」という学生組織が寮運営をサポートしていること、先生方が交代で当直し教育に当たっていること、上級生が下級生を教える学寮チュートリアル制度があること等、学寮では勉強だけでは到底できない人間育成の営みが行われています。初めは嫌でも慣れてくると寮に残りたいという学生が多いことや、2年生になって寮から出たら生活習慣を乱して成績を落とす学生が見られるといったことは、寮の良さを物語っています。

本校では、平成18年度から前期末試験までを夏季休暇前に終えるように授業のスケジュールを組み変えました。そのため前期が終わるのはやっと8月10日前後です。これでは寮に冷房がないと暑くて勉強できないということになり、平成19年度は冷房設備を取り付けるために機構本部と折衝を繰り返しました。その甲斐あって、今年の梅雨前からは寮でも冷房が使用できるようになっています。また、耐震強度が低かった第1志学寮と第2志学寮の耐震補強工事も昨年度終えましたし、第2志学寮の雨漏りも補修しました。残念ながら第3志学寮は強度不足

で昨年3月に取り壊しました。しかし、最近、機構本部や文部科学省にも高専の寮の良さが理解されるようになってきていて、この調子でいけば、それ程遠くない将来、第3志学寮が再建できるかもしれません。

一方、寮内では学生のちょっとした規則違反行為が頻繁に発生しているようです。そのため、寮務主事をはじめ、寮務に携わる教職員は一日気を休める暇もないような状況です。この文を読んだ学生諸君が、寮の規則や学則をよく守って行動することを願っています。

2. 高専体育大会

九州地区大会では、硬式テニスの応援に行ったことが印象に残っています。昨年7月13日（金）の午後、高専での会議終了後、事務部長の危ない運転で熊本まで行きました。そろそろ試合が終わる時間になってやっと会場に着き、残り数試合を応援しました。ところが、台風が直撃しそうだということで、協議の結果、翌日の試合は全部キャンセルされ、一週間後に延期になりました。応援に来たものの、台風の影響で鹿児島に帰ることもできず、幸い、泊っていた熊本市郊外のホテルに温泉があったことから、翌土曜日は温泉に入ったり出たりし、テレビニュースで台風の動きを見ながら過ごすことになりました。我々の応援の甲斐あってか、硬式テニスは九州地区を勝ち上がり、団体戦で全国3位入賞を果たしました。

サッカーの九州地区大会の試合会場は八代でした。本校のサッカーは強いから安心して見られる、と聞いて出かけて行きました。準決勝の相手校は佐世保高専で、かろうじて勝ちました。監督は居てもたってもおれず、例の大きな声で学生を叱咤激励して審判に注意されるし、うちは本当に強いのかと疑わせるような、はらはらさせられる試合ぶりでした。しかし、サッカー部はこの後勝ち進んで高知で全国優勝を成し遂げ、全国大会40回中優勝20回という金字塔を打ちたてました。私は準決勝の試合を応援しましたが、決勝は応援できませんでした。テニスの応援に高松に行ったのですが、決勝戦を応援するのが怖かったこともあります。本校の次に優勝回数が多いのは新居浜高専の3回ですから、理屈上、優勝回数は17年間、全国大会の半分以上を優勝するという記録は34年間破られないことになりますが、どちらもありえないことです。

3. 高専祭

平成19年度の高専祭は11月3日（土）（文化祭）、4日（日）（体育祭）に開催されました。体育祭の練習は授業終了後に運動場でやっているの、開催の1か月位前から、練習の状況を時々見ていました。話には聞いていましたが、体育祭当日の晴れ舞台での櫓（やぐら）絵と応援合戦は本当に素晴らしいものでした。鹿児島高専始まって以来の良き伝統がしっかりと受け継がれていると感

じました。多分、高専祭にこれ程打ち込んでいる高専は、鹿児島高専以外にはないのではないかと思います。櫓絵も、応援合戦も、個人ではなく学科全体で取り組まなければなりません。各学科200人程の学生がいるわけですから、取りまとめが大変だと思いますが、そのやりかたには各学科で引き継がれたノウハウがあるのでしょう。全校を仕切る学生会にとっては、更にプレッシャーのかかる大変な仕事です。その苦労は、体育祭終了時の学生委員長の涙ながらの挨拶に表れていました。

ところで、体育祭終了後に、後援会から「櫓絵は優勝チームだけでなく全チームの作品を順番に掲示したらどうですか」という暖かいご提案をいただきましたが、結局は断念しました。その主な理由は、掲示する構造体を常時設置するために安全上の問題が懸念されることと、11月のような安定した天候を通年では期待できず悪天候時の対応が難しいということでした。

4. 全国英語プレゼンテーションコンテスト

年が明け、今年の1月27日（日）に東京代々木のオリンピック記念青少年総合センターで第1回の全国英語プレコンが開催されました。前日の土曜日に久留米で第13回全国高専シンポジウムがあり、私はその夜に久留米から東京に行き、翌朝、会場に入りました。英語プレコンには個人によるスピーチ部門とチームによるプレゼン部門があり、それぞれ3位までが表彰されます。プレゼン部門では各チーム共に3人の審査員から英語による質問を受け、英語で回答しなければなりません。質疑応答も評価対象となります。本校は残念ながら、スピーチ部門、プレゼン部門共に上位3位までには入れませんでした。「では、来年に期待しようか」という気持ちになったとき、COCET（全国高等専門学校英語教育学会）の委員長が、閉会の挨拶の最後に、特別賞を鹿児島高専に授与すると発表しました。特別賞は全国1チームにだけに与えられる栄誉ある賞ですが、全国英語プレコンは今回が第1回のため、そのような賞があること自体を、私は知りませんでした。諦めていただけに、発表の瞬間は感動的でした。学生を指導し引率してきた教員は、思わず両手を挙げて万歳をしていました。特別賞を授与されたのは、3人の女子学生が行ったワシントン椰子の枝払いロボットのプレゼンテーションでした。

今回は、学寮、高専祭、及び課外活動に関して、平成19年度を通じて印象に残っている点を紹介しました。応援に行ける課外活動の範囲には限りがあります。私が応援できなかった課外活動への取り組みは、ここに挙げたこと以外にも色々あります。今年度もできるだけ多くの会場で足を運び、学生諸君を応援したいと思います。



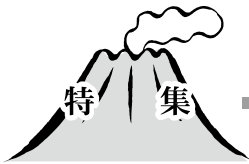
寮舎内に設置された冷房設備



文化祭（英語部による英語劇）



体育祭（騎馬戦）



特 集

学生生活支援の諸活動

学生支援の現状

学生何でも相談室長 三原めぐみ

本校の学生相談室は、すべての学生を対象として、様々な学生の悩みに応えることにより、その人間的な成長を図る人間形成を促すものと捉え、学生のあらゆる相談事に応じる「何でも相談窓口」というイメージで設置されました。その際、学生や保護者、教職員の意見に幅広く耳を傾け、そのニーズを汲み取るために誰でも気軽に利用できる相談室を目指して『学生何でも相談室』と命名されました。

学生何でも相談室は相談活動を平成14年2月に開始し、平成14年4月1日付で正式に発足し、今年度7年目に入りました。そこでこれまでの6年間（平成14年度から19年度まで）の相談室の状況をまとめてみました。

学生何でも相談室の開室時間は平常授業日の15：30から17：00までです。相談業務には相談員と看護師、本校カウンセラーがあたっています。ただ、相談は学生何でも相談室だけでなく相談員の教員室や保健室でも受けています。

図1に相談件数の推移、図2に相談時間の推移を示します。

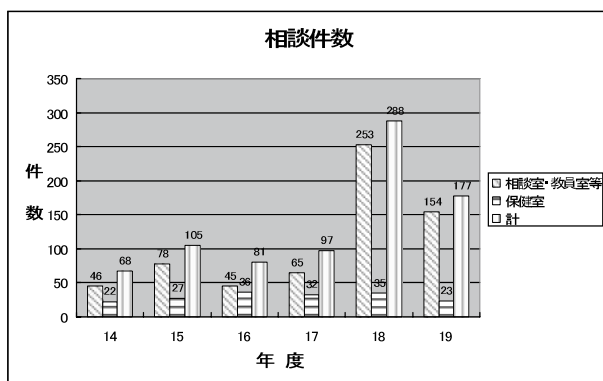


図1 相談件数の推移

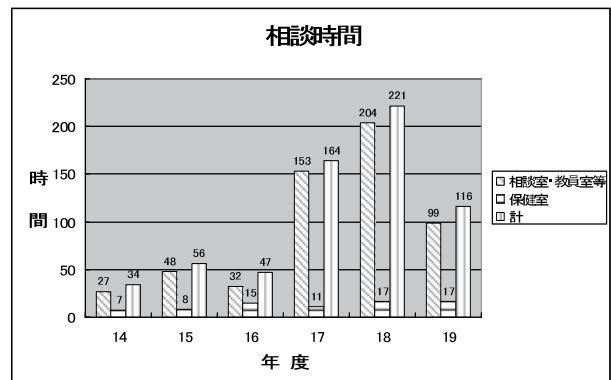


図2 相談時間の推移

どちらも発足当時に比べ増加しており、最も多かった平成18年度は相談件数が平成14年度の4.2倍、相談時間は6.5倍でした。

この結果は相談室の認知度が高まったことと問題や悩みを抱えている学生が増加してきていることを示していると思います。

次に、それぞれの年度の相談内容の状況を図3～図8に示します。

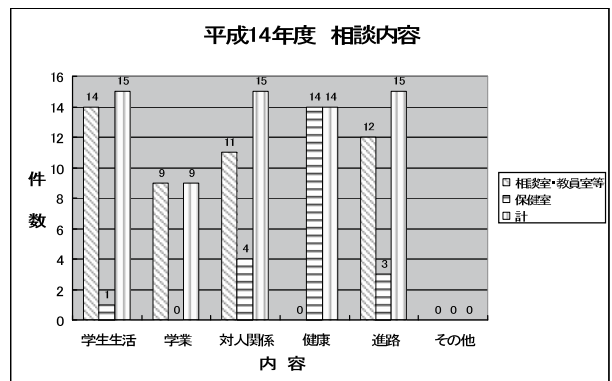


図3 平成14年度の相談内容

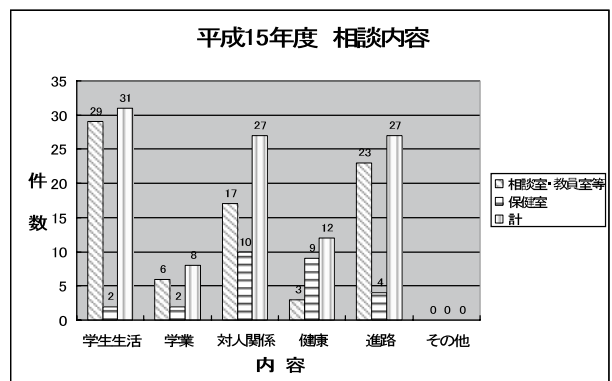


図4 平成15年度の相談内容

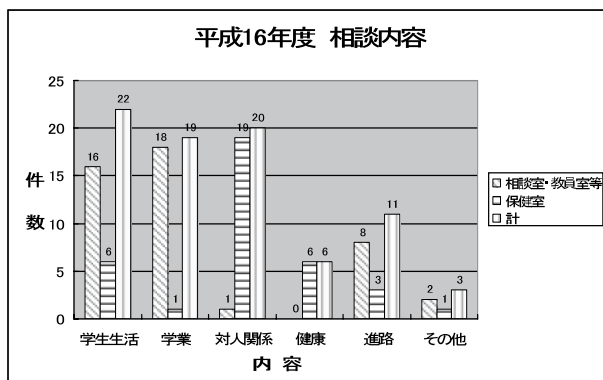


図5 平成16年度の相談内容

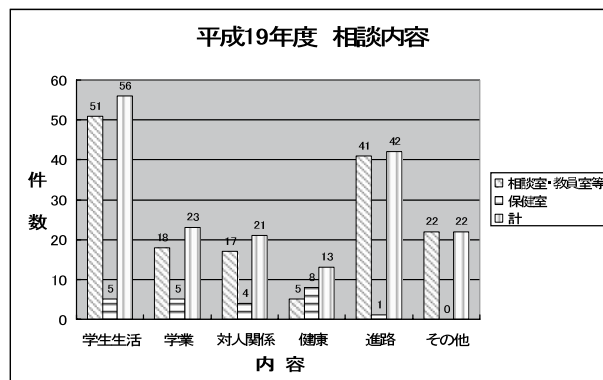


図8 平成19年度の相談内容

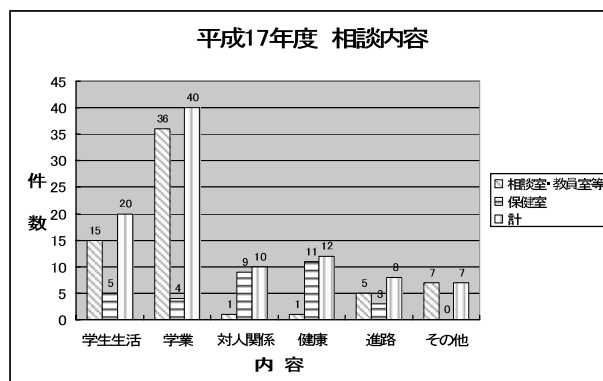


図6 平成17年度の相談内容

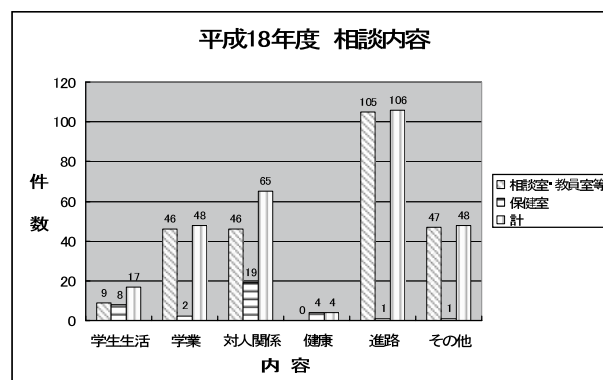


図7 平成18年度の相談内容

学生生活は寮生活や部活動等についての悩みで、“寮の同室の学生とうまくいかない”とか“部活動を辞めたい”といった問題です。学業は勉強の難しさや単位取得に対する不安等で“授業についていけない”とか“単位を取れないかもしれない”というものです。対人関係は友人や先輩あるいは後輩、男女間のトラブルやハラスメント関係で“友人の言葉に傷ついた”とか“セクハラと取れる発言をされた”とか“クラスになじめない”といったものです。健康は文字通り体調不良や病気に対する不安で、進路は進路変更や将来について“センター試験を受けて大学にいきたい”とか“専門学校に行きたい”とか“公務員になるにはどうしたらよいか”といったことで、その他は経済的な問題等に関するものです。

相談内容はそれぞれの年度で傾向は異なりますが、年々多岐にわたってきています。中には対処に困惑するような問題もあります。

カウンセラー室の総来談件数を図9に実来談件数を図10に示します。

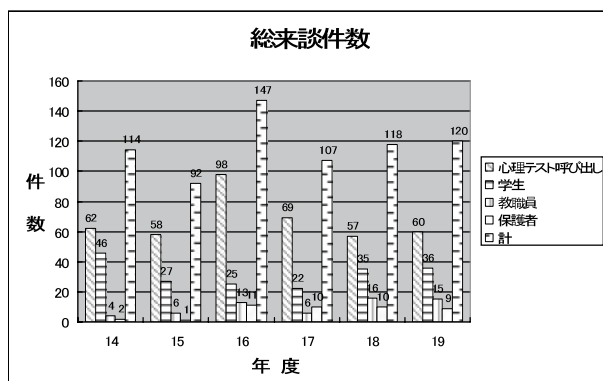


図9 カウンセラー室の総来談件数

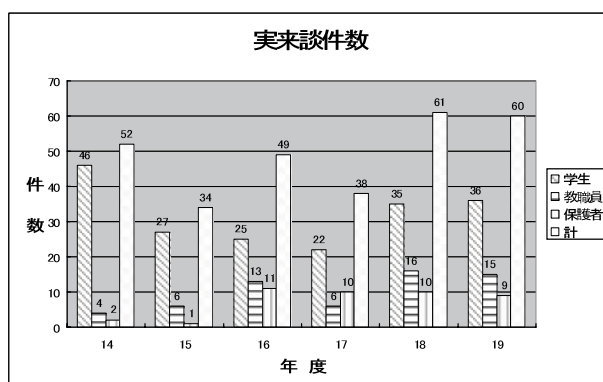


図10 カウンセラー室の実来談件数

心理テスト呼び出しとは、新1年生と全留学生に心理テストを実施し、その判定の結果ストレスが高くてた学生をカウンセリングに呼び出した件数を示しています。

図10は総来談件数から心理テスト呼び出しを除いたものです。徐々に増えてきていますが、“元気がなさそう”に感じたり、“心が疲れているよう”と感じた学生たちにはこちらからカウンセリングを勧めて受けてもらっています。そのことも増加の要因のひとつだと思います。

近年全国的に心の病である“うつ病”が増加の傾向にあります。本校においても例外ではありません。

心の問題がきっかけで不登校になったり、病気になったり、最悪の場合自殺を図るという行動につながったりします。いかにして早めに気づいてあげられるか、そしてどのように支援してあげられるかが肝心だと思っています。

学生の皆さんが心安らかに楽しい学生生活を送ってもらえるようこれからも見守っていきたいと思います。

オフィスアワーズ等の 利用状況について

教務主事補 今村 成明

本校では、「学生のための時間帯」を各先生方が確保し、学業や生活に関することなどの相談に応じる制度として、「オフィスアワーズ」を設けている。

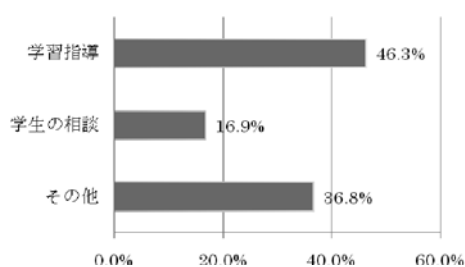
オフィスアワーズの利用状況の把握、及び、学生相談・学生指導の記録として、平成18年度より「オフィスアワーズ等における指導記録簿」を先生方に記入して頂いている。当然のことながら、学生はオフィスアワーズ時間外も先生方のところを訪れており、実際の記入に関しては、オフィスアワーズ以外の時間帯も含まれている。

平成18、19年度分の提出資料を分析した結果、平成18年度の対応件数は356件、平成19年度が129件となっている。利用状況としては、平成18年度では「学習指導」が46.3%と最も多くなっているが、平成19年度では「その他」が56.9%と最も多くなっている。これは、学習指導については毎日のように多数の学生に行っており、記録するのが大変であるというのが正直なところだと思われる。「その他」に分類されている内容としては、部活動の指導や就職試験の面接対策、進路指導などが挙がっている。

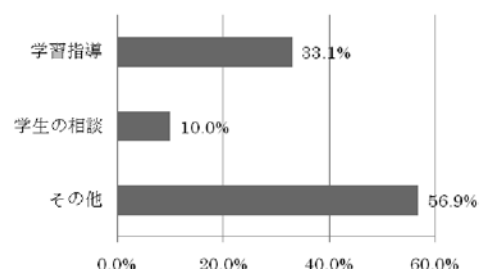
授業や研究など、日常業務の合間に夜遅くまで学習指導、学生の相談対応、部活動の指導を行っている先生方には頭の下がる思いである。

学生諸君には、オフィスアワーズ等を十分に活用し、実りある学生生活を送って欲しい。

平成18年度 オフィスアワーズ等の利用状況



平成19年度 オフィスアワーズ等の利用状況



専攻科生に対する新たな教育支援 —BCITへの専攻科生派遣—

一般教育科文系 松田 忠大

1. はじめに

ご存知のとおり、本校は、4つの学習・教育目標の一つとして、「グローバルに活躍する技術者」を掲げている。この目標の実現のために、学生の外国語教育支援の一環として、準学士課程2年生において海外語学研修を実施していることは、これまで、たびたび、この高専だよりでも報告をしているが、本年度から、専攻科生に対する外国語教育支援として、British Columbia Institute of Technology（以下、BCITという。）に学生を派遣する取組を新たにスタートさせようとしている。BCITは、Canada, Vancouverの隣市、BurnabyにあるPolytechnicで、現地の方の話によれば、British Columbia州（以下、BC州という。）の工学系教育機関では、The University of British Columbia（UBC）の工学系学科に次いで学力レベルの高い教育機関と評されている。フルタイムの学生数が1万1000人、パートタイムの学生を含めると5万人を超える学生を擁することからも、工学教育の質の高さとその人気の高さが窺える。

2. BCITとの出会いと専攻科生派遣までの経緯

昨年度（2007年度）の準学士課程2年生の海外語学研修の引率者であった、あべ松教授（一般教育科文系）と筆者は、現地の方から、本校と制度を同じくする教育機関であるBCITの存在を知らされ、同校を訪問することにした。突然の訪問にもかかわらず、同校の留学生センターの方に快く迎えていただき、同校の概要を説明していただくとともに、キャンパスを案内していただいた。その方との会話の中で、将来の本校学生の受入の可能性について聞いてみたところ、前向きな返事をいただけたので、帰国後、早速、校長、副校長および専攻科長に報告するとともに、専攻科委員会では、BCITの資料を提示してその紹介を行い、特に、関心のある学生に呼びかけていただくことになった。その後しばらくは、この取組は進展しなかったのであるが、本年3月に土木工学科の山内准教授および内田准教授より研究室の学生をBCITに派遣したいとの申出があり、翌4月から、本校専攻科生の受入についてBCITとの協議を開始した。1か月間という短期の派遣であったため、BCITとの協議は予想以上に難航したが、最終的には、BC州政府にも働きかけをしていただき、7月中旬に、ようやく専攻科生2名を受け入れていただけるとの回答を得ることができた。

3. BCIT訪問

本校学生の受入が可能である旨の回答を受け、派遣学生の履修科目等の打合せを行うため、8月上旬に、あべ松教授（一般教育科文系）、山内准教授（土木工学科）および筆者の3名でBCITを訪問した。BCITでの打合せは、8月4日及び5日の2日間を中心に行われた。BCIT側からは、建築・環境工学・天然資源学科副学科長のBarbara Dabrowski氏、同学科プログラム責任者のLorne Sampson氏、同学科教員のRishi Gupta氏の3氏に應對していただいた。

8月4日（月）は、BC州の休日のため、BCITは休校であったが、同校の会議室において、非公式のミーティングを行い、本校の概要説明、学生派遣の趣旨説明、派遣する予定の学生の紹介、本校教員の取り組んでいる研究の紹介などを行った。同校教員の話によれば、BCITは、その主たる目的を工学教育に置いていることから、教員の研究に関しては、必要な領域については部分的に行われているとのことであった（教員の多くはP. Eng.（技術士）の資格を有する）。このような教育目的は、まさに、日本の高等専門学校と同一のものであって、BCITの存在が一層身近に感じられた。また、本校教員の研究内容にも関心を示し、プロジェクト型の共同研究の立ち上げについても提案がなされた。非公式ミーティングの後は、キャンパスを見学した。広大な敷地に、多くの校舎および実習工場・実験室が立ち並び、充実した工学教育が行われていることが理解できた。

8月5日（火）は、午前9時より、公式ミーティングを行った。まず、学生の派遣日程を9月の1か月間とし、派遣する本校学生の履修科目の決定、英語の授業や学生が参加する活動についても協議が行われた。Sampson氏のご支援をいただき、BCITの学生と本校学生とで実施する共同プロジェクトも実施されることになった。公式ミーティング終了後、BCITの学内施設視察とラボツアーが行われた。学内施設は、学生の教室から福利厚生施設にいたるまで、最新の設備が充実していた。実験室にも最新の実験装置や機器が備えられ、教育レベルの高さを実感することができた。

3. 学生の派遣と今後の展望

今後の展望を述べる前に、まずは、今回BCITに派遣する学生を紹介したい。土木工学専攻1年の津曲讓太君と同専攻1年の吉田誠君の2名である。両学生は8月30日に日本を出発し、同日にバンクーバーに到着、翌31日から現地の家庭でホームステイをしながら、9月末までの1か月間BCITで教育を受ける。

今回のBCIT訪問から得た感触からは、教育内容、教員団および施設・設備面のいずれをとっても、BCITの工学教育のレベルは極めて高いものと思われる。また、BCITの教員には、本校の学生派遣の趣旨を十分理解していただくことができ、授業料は不徴収としていただく

など、本校学生受入につき、極めて好意的に準備を進めていただいている。今回の学生派遣は、いわば試行的な要素が強いが、このような環境で自らの専門分野の学問および英語を学ぶことで、「グローバルに活躍する技術者」に少しでも近づいてくれることを願うとともに、今後も、他専攻の学生を含めてBCITへの学生派遣が継続されることをも願いたい。そして、将来的には、学生派遣のみならず、双方の学生および教員の研究交流も実施され、最終的には、本校の国際交流事業の一環として、BCITとの学術交流協定の締結へと発展していくことも期待したい。まずは、今回の専攻科生派遣のためにご支援・ご尽力いただいた、土木工学科の先生方をはじめとする本校教職員の皆様、BCITの教職員の方々、BC州政府日本事務所の方々に心より感謝の意を表するとともに、今回派遣される2名の専攻科生が、どのような成果を持ち帰ってくれるのかを楽しみ待つことにしたい。



【BCITの正面玄関】



【BCITの校内】



【BCITの講義室】



【BCITの実験室】



【BCITの図書館】



【公式ミーティングの様子】

学寮チュートリアルについて

寮務主事 白坂 繁

チュートリアル（tutorial）とは、少数の学習者に指導者（tutor）が集中的に教えることで、家庭教師あるいは個人指導者の意味が本義です（お笑いコンビのチュートリアルは予備校で、これにお世話になったのが語源）。

志学寮のチュートリアルは、成績優秀な高学年（主に5年生）が低学年（主に1、2年生）に、勉学（主に試験範囲の個別質問の回答）を教える制度のことです。

*

詳述すると次のようになります：

●学習者（低学年）の行動

1. 質問がある者は中間点呼終了後か自己研修中に、必要な勉強道具を持って、多目的ホールに行く。
2. 利用者名簿に名前等を記入する（記入しないと自習点呼不在になる）。
3. チューターにわからないところを質問する。
4. 質問以外のときは静かに自習する。

（注意事項）

①移動は、中間点呼終了後か21時20分から22時までの間のみ。つまり、「中間点呼から21時20分まで」と「22時から22時50分」までは、自室か多目的ホールに居ないといけない。

②多目的ホールでの飲食や娯楽は禁止。

③質問に答える先輩も試験があります。感謝して指導を受ける。

●チューター（高学年）の行動

1. 中間点呼後、勉強道具を持って多目的ホールに移動。
2. 利用者名簿に名前等を記入する。
3. できるだけ分散して座る。
4. 質問にきた下級生に懇切丁寧に教える。
5. 静かに自習できない学生には注意する。
6. 質問が無い間は、多目的ホールで自習する。

*

チュートリアルを通じて、低学年は分からない点を理解し、高学年は教えることで自分自身の理解を深めることができ、更に、お互いの意思疎通能力や人間関係調整能力を切磋琢磨できます。これは本校の学習・教育目標に沿っており、また伝統ある「郷中教育」を引き継いでいるともいえます。

このような良い制度が寮にはありますので、寮生のみなさん（特に低学年）は大いに利用して、学習の助けとすると共に、学年を超えた交流を深めてほしいと思います。



学生支援GP（新たな地域連携型 クラブ活動支援プログラム） —英語部支援—について

一般教科文系 嵯峨原昭次（英語部顧問）

「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」は、本校が平成19年度文部科学省大学改革推進事業の学生支援GPに申請し採択されたプログラムである。

このプログラムは、学生の全人教育の観点から重要な役割を担っているクラブ活動を、地域と連携して積極的に支援するものであり、特に、地域の学校が抱えているクラブ活動指導の問題点を、地域と連携して解決しようとする試みである。具体的には、本校と密接な関係にある霧島市教育委員会、NPO法人隼人錦江スポーツクラブと連携し、地域に潜在する有能な人材を学外指導者として発掘・登用し、学生のクラブ活動を積極的に支援しようとするものである。

このプログラムは19年度、20年度の2年間の継続で、2年間は文部科学省からの予算措置がある。その間にシステムを構築し、文部科学省からの予算措置が終了したのちも、本校が自前で継続できるようにしてやっていくことを目指している。

平成19年10月から取組の準備を始め、11月から次のような本格的な取組を実施している。

- 1) 学外指導者発掘システムの構築
- 2) 学外指導者の登用
- 3) 地域住民参画型のクラブ活動の実施
- 4) その他（本校体育系・文化系クラブに関する環境整備、他の先進的なクラブ活動支援の情報収集、本取組に関するアンケート調査及び分析・評価、フォーラム及び評価委員会の開催）

現在2年目の取り組みに入っているが、今回は文化系クラブの英語部がどのようなサポートを受けて、どのような成果が出ているかについて説明したい。

平成19年度～20年度にかけて、英語部は次のような学生支援GPのサポートを受けている。

- 1) 英語学習用にパソコン14台の購入
- 2) 英語教材（発音教材、英会話教材、実用英語検定教材、TOEIC教材、その他）の購入
- 3) 外部指導者（ダニエル先生）の導入

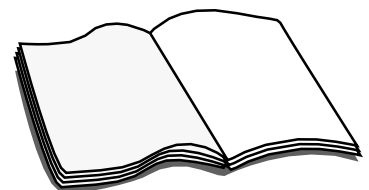
英語部学生は、普段の活動や、自宅での英語演習にこれらの教材を積極的に活用している。特に、定期的に英会話の指導をしてくださるダニエル先生はとても熱心な先生で学生からも慕われ、学生の英語学習の動機づけや英語力向上に役立っている。九州地区高専英語弁論大会や全国高専英語プレゼンテーションコンテストの出場学生に対してもきめ細かい指導をしてくださるおかげで次

のように素晴らしい成績を残している。

- 1) 平成19年度第40回九州地区高専英語弁論大会結果：弁論の部準優勝（全国大会出場）
- 2) 平成19年度第1回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト結果：弁論の部（入賞せず）、プレゼンテーションの部特別賞受賞
- 3) 平成20年度第41回九州地区高専英語弁論大会結果：暗唱の部優勝、弁論の部三位入賞

このような成果が出たことは学生支援GPの「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」からの大きなサポートがあったからだと思う。学生たちが、本校の顧問教員と外部指導者と連携して指導して見違えるほどに成長していくのを見るにつけこのプログラムが有効に機能しているのが理解できる。

今回は学生支援GPの大まかな説明と英語部の状況について説明したが、次号では2年間の学生支援GPの取組をまとめて報告する予定である。



創造性豊かな開発型技術者の 育成を目指して

教務主事 河野 良弘

平成19年10月3日に、中央教育審議会大学分科会高等専門学校特別委員会による「高等専門学校教育の充実について－ものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指して－」において、高等専門学校に関する経緯及び現状について次のような審議経過報告がなされています。「高等専門学校は、産業界からの強い要請により昭和37年以降、工業発展を支える実践的な中堅技術者の養成を目指して創設され、有能な人材を輩出してきた。その後、社会経済環境の変化に伴い、平成3年以降、専攻科が設置され、高等専門学校教育の在り方も中堅技術者の養成から、①創造性をもって自ら問題を発見して解決できる実践的技術者、②ものづくり技術のイノベーションを担う新しい創造的技術者、③高度化・複合化する科学技術を踏まえた設計思想・設計情報をもつものづくりの現場で実践できる技術者、④特色ある中小企業の将来の技術トップ、⑤更には起業の担い手など、多様な役割を果たすことが期待されるようになってきている。また、環境・資源・エネルギーの問題や、ナノテクノロジー・情報技術の進展等を背景として、科学技術の融合化・複合化が著しく進捗しており、高等専門学校における教育が、従来の中堅技術者養成を目指した実践的な教育の良さを更に伸ばしつつ、そうした動向にも柔軟に対応していくことが必要となっている。」

本校では、もう十数年前から実践的な教育の改善に努めてきました。本校の学習教育目標の下で、準学士課程における低学年のうちから、専門教育を充実させるとともに、実験・実習を重視した実践的技術者教育のためのカリキュラムを編成しています。また、実践的技術者教育を充実させる目的で、これまで、高等専門学校間、大学地域コンソーシアム鹿児島、および産業界・地域社会などとの幅広い連携を強化し、本校の教育組織内だけの教育にとどまらず、産業界・地域社会との共同教育実現のための基盤整備を実施してきました。

これらの連携の中で、特筆すべき点は、全国の高等専門学校の中での初めての取組として、「鹿児島県技術士会」との連携協力に関する協定を締結したことであります。平成19年度からは、この連携協力協定に基づき、専攻科の専門共通科目である「環境創造工学特別講義」を技術士会との連携の下で実施しています。この授業では、技術士会から派遣された技術士14名が、各専門分野に関する最新の動向やタイムリーなトピックスについて教授



するオムニバス方式の講義が行われ、専攻科学生の実践的な素養の伸張などの成果が得られています。

一方、「準学士課程」の教育課程についても、実践的技術者教育充実の観点から、カリキュラムの見直しを行い、平成18年度から新教育課程が実施されています。この新教育課程では、専門科目のこれまでの実験・実習に加えて、ものづくりを中心とした問題解決型学習法であるPBL（Problem based learning）科目が増設されました。これまで、この授業科目において、環境保全のためのヤシの枝払いロボットの開発をはじめ、自治体と協力した公園設計などまちづくりへの参画、循環型社会を目指した廃棄物利用の研究開発について、一定の成果があげられています。さらに、実践的技術者教育を推進し、充実させていくためには、このようなカリキュラムの実施とともに、本校のカリキュラム全般にわたって、豊富な実務経験を有する人材による実務的な教育支援が、今後必要であると考えています。

また、大学地域コンソーシアム鹿児島が発足いたしますが、これは鹿児島県内の高等教育機関が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域教育及び学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的とするものであります。このコンソーシアムの目的達成のため、次の事業を行うことになっています。

- (1) 県内高等教育機関相互の教育分野における連携・協力に関する事業
- (2) 県内高等教育機関相互の研究分野における連携・協力に関する事業
- (3) 県内高等教育機関の教職員・学生の交流に関する事業
- (4) 県内高等教育機関と地域社会との交流及び連携に関する事業
- (5) 県内高等教育機関と初等・中等教育機関との連携に関する事業
- (6) その他コンソーシアムの目的達成に必要な事業

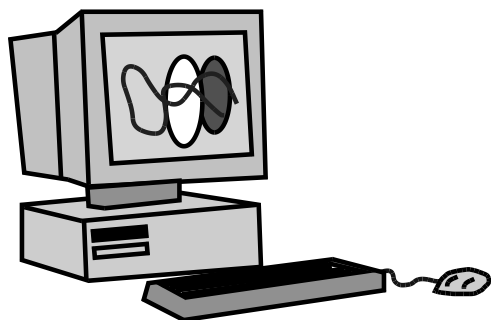
この大学地域コンソーシアム鹿児島に関連して、平成20年度文部科学省が公募した「戦略的大学連携支援事業」に応募した結果、文部科学省から、平成20年度～22年度の3年間の事業期間で採択決定の通知が届きました。この取組の名称は「鹿児島は一つのキャンパス－地域のリーダー養成のための大学連携と総合教育の構築－」であります。その概要は、鹿児島県のすべての大学等が連携し、自治体等の協力を得て、鹿児島県を「ひとつのキャンパス」と捉え、「グローバル」な発想に立って、学生の「生きる力」を醸成し、地域貢献に情熱を持つ地域のリーダー養成のための「知の拠点」の創出を目指すものであります。具体的な内容は次の通りであります。

- ① 基礎学力を養成した後、意欲的な学生を集めて共同宿授業を行い、各大学等が各々の個性を生かし

て鹿児島を素材にした教養教育を提供する。これを少人数フィールド体験教育に繋げて、異なる大学等の学生を相互に刺激させ合い、競争的に切磋琢磨させる。

- ② 専門教育等においては、各大学等の特徴的な科目や資格試験準備科目を開放するとともに、卒論や修論の共同指導を拡張するなど、入学から就職まで一貫した地域のリーダー養成の体制を構築する。
- ③ これを推進するため、ハード・ソフト両面が効率良く機能する教育ネットワークを整備する。これにより、高校生や社会人を含めた教育の社会連携も可能とする。

従来、学生の教育は一教育機関だけで実施されてきましたが、このように産・学・官・商の連携による共同教育により、高等教育の質的向上を推進することが、高等教育機関では主流になりつつあります。実験・実習・実技等の体験重視型の専門教育の養成機関である鹿児島高専では、その教育の特色を活かして、開かれた教育を目指し、教育界及び社会経済環境の急速な変化の中で、新たな高等教育の改善に努めていかなければなりません。保護者の皆様には、物心両面からの支援を今後もよろしくお願いいたします。



平成20年度 一日体験入学報告

教務主事補 今村 成明

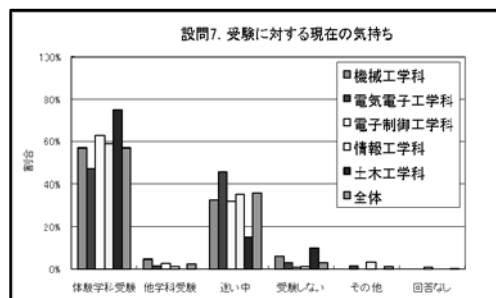
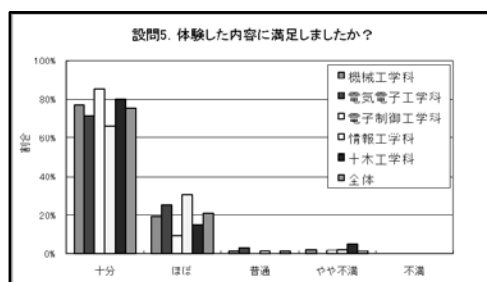
今年度の一日体験入学は、平成20年7月5日（土）に実施されました。中学生の参加数は、昨年度を40人程度下回りましたが、昨年度と同様に400名を超え、420人でありました。

例年通り、各科とも5年生が主体となって、体験実習、展示見学の補助を行ってもらい、体験実習に関する参加中学生のアンケート結果では、以下の図の通り、「十分満足」、「ほぼ満足」との回答が全体として96%でした。各科の5年生および教職員の皆様には大変感謝致します。

また、一日体験入学を通して、本校受験を希望している中学生の数が238名おり、全体の約6割の56.9%(昨年46.5%)となっています。昨年よりも本校受験希望者の割合が高くなっており、今年度の一日体験入学は、より充実したものだったと考えられます。また、36.1%が受験するかどうか迷い中であり、是非受験してほしいものです。

一日体験入学は、本校において受験生獲得の重要な行事です。年々、中学生人口が減少していますが、鹿児島高専の一日体験入学参加者が2年連続400名を超えたことは、高専への興味の高さを物語っており、今年度の受験生増加に期待が持てるものとなっています。

来年度以降も中学生のアンケート結果をもとに改善を行いながら、本校の良い点を理解していただけるようにより良い一日体験入学を行っていききたいと思います。



授業参観（1～3年）

教務主事補 野澤 宏大

鹿児島高専の授業参観は、低学年（1、2、3年）を対象に、平成17年度から実施しており、今年度で4回目となります。当初は後援会主催行事でしたが、平成19年度より（後援会の協力の下）正式な学校行事となっています。毎回少しずつ実施方法や時期を変えておりますが、今年度は「3学年すべてで実施する」、「教員の負担はなるべく軽減する」という案から、「3学年同時開催」という形で実施しました。開催曜日に関しても、今までは、主に「ついでに寮に子供を迎えにいけない便利だろう」という理由から金曜日に実施していましたが、保護者に都合のよいことが、必ずしも教員・学生に都合がよいとも限りません。仮にクラス担任が金曜7、8時限目に授業を持っていれば、クラス懇談のために時間割変更をする必要がありますが、使用教室等の理由から、すべての科目が時間割変更可能なわけではありません。変更できなかった場合はやむなく自習となりますが、そのしわ寄せは学生が受けることになります。一方、水曜日とはいうと、基本的に7時限目以降は、特別活動のある日以外はクラス担任を含め、全ての教員は授業がありません。そのような理由から、6月11日水曜の午後開催と決まった次第です。

当日の日程は学年により多少異なりますが、おおむね以下の通りです。

- ① 学生寮での試食（1年生保護者のみ）
11:30～12:20
- ② 体育館での昼食会（2、3年生保護者）
12:25～13:15
自由見学・情報交換会（1年生保護者）
- ③ 全体懇談会 13:15～14:05（5時限目）
- ④ 授業参観 14:10～15:00（6時限目）
- ⑤ 学年懇談会（2年生は実施せず） 15:20～
- ⑥ クラス懇談会 随時

参加者は、前日の晩の段階で399名、というところまではわかっていますが、当日参加も多数あったため、実際の参加者は不明です。教務係が増刷した資料の冊数から、420～430名程度の参加者があったのでは、と推定することだけはできます。私は2年情報工学科の担任をしていますが、事前集計より3名ほど多かったと記憶しています。

3学年合計で400名以上の保護者が参加したため、当初はかなりの混乱も予想されました。しかし、1年生保護者に関しては学生課職員が、それ以外は各クラス理事さんが案内役をしてくださったこともあり、全体的には

大きな混乱もなくスムーズにことが運びました。6月上旬の開催ということで、当日の天候が最大の不安でしたが、朝のうちは激しく降っていた雨も、授業参観の時間帯には奇跡的に回復し、この時期としては天候にも恵まれました。天候面も、混乱が少なかった要因の1つかもしれません。

最後に、参加人数の取りまとめ、事前打ち合わせ、および当日の受付でご協力いただいた各クラス理事、および後援会の皆さまに感謝の意を表します。



平成20年度 1年生集団研修報告

教務主事補 松田 忠大

今年度の1年生集団研修は、4月8日（水）及び9日（木）の1泊2日で、鹿屋市にある国立大隅青少年自然の家にて実施された。今回の研修には、1年生210名、学生会役員18名、教職員14名が参加した。研修の内容としては、校長、教務主事、学生主事による講話をはじめ、2つの野外活動を予定していたが、天候に恵まれず、野外活動については、やむを得ず館内でのレクレーションに変更せざるを得なかった。しかし、学生会役員のリーダーシップの下、大きな事故もなく、楽しく有意義な研修を行うことができた。以下、研修の概要を簡単に報告する。なお、日程の詳細については、研修日程表を参照していただきたい。

（1）4月9日（水）

1年生は、8時35分からの教室でのショート・ホームルームを終えた後、学科ごとにバスに乗りし、9時10分に、研修場所である国立大隅青少年自然の家に向け、鹿児島高専を出発した。バスの中では、学生会役員がリーダーとなって、自己紹介などを通して、入学後間もない学生のクラス作りが行われた。自然の家到着後は、入所式を経て、【研修1】として赤坂校長、河野教務主事および三角学生主事による講話が行われた。

午後からは、【研修2】として、野外活動としてスコア・オリエンテーリングを予定していたが、雨天のため、館内オリエンテーリングに変更した。この活動では、学生役員がアイデアを出し合って、通常の設問項目に加え、オリジナルの設問を設けるなど、活動を盛り上げるための工夫が行われたためか、1年生も楽しく課題に取り組んでいたようである。その後、夕べの集いに続き、夕食をとり、入浴を済ませた。入浴時間には、体育館で鹿児島高専の体育祭のDVDが放映され、入浴を待つ学生はその映像に見入っていた。20時30分からは、学科に分かれて、学生役員による鹿児島高専Q & Aが実施された。

この企画は、例年1年生に大好評であり、学生会役員

も相当の準備をしてこの企画に臨んでいる。今年度から、教職員は室内に立ち入らないことにしたため、どのようなQ & Aが実施されたかは不明であるが、教員には聞けないことなども多く質問され、1年生にとっては有意義な研修となったことは間違いないと思われる。この間、教職員は、自然の家を訪問していただいた1年生の保護者の方と懇談会を実施した。悪天候にもかかわらず、100名程度の保護者の方にご出席いただき、学級担任等と懇談をしていただいた。

（2）4月10日（木）

起床後、朝のつどいを済ませた後、【研修4】として、土木工学科助教の山田真義先生による環境に関する講演会が開催された。スライドを用いて、身近な環境問題に関する話題をわかりやすく講演していただき、参加した1年生も真剣に耳を傾けていた。この日も天候に恵まれず、【研修5】として予定していた野外活動は実施できなかったが、代わりに体育館でクラス対抗のドッジボール大会を開催することになった。賞品が用意されていたこともあり、大いに盛り上がり、クラスの仲間作りにとっては有意義な活動になったと思われる。その後、昼食を挟んで、【研修6】として、学生会長の講話、教務主事に総評を行っていただき、研修の日程を終了した。

この研修は、鹿児島高専の学生としての自覚を持たせること、学友との友情を育ませることを目的として実施されている。校長はじめ教職員の講話により、鹿児島高専生としての自覚と誇りを持たせ、また、諸活動を通して、5年間を過ごすクラスの仲間との友情を育むことができる。また、昨年より、学生会役員のリーダーシップにより研修内容の企画から運営までが実施されていることから、1年生にとっては刺激の多い研修となったに違いないと思われる。

最後に、この研修の実施にあたってご支援・ご協力をいただいた教職員の皆様および国立大隅青少年自然の家のスタッフの方々、そして、悪天候にもかかわらず、保護者懇談会に出席していただいた保護者の皆様に心より感謝を申し上げたい。



研修日程表

4月8日（水）		4月9日（木）		
時 間	内 容	時 間	内 容	
8:35~8:40	SHR	6:00~6:50	起 床 寝具の返却 清掃	
9:00	バス乗車			
9:10	鹿児島高専出発			
10:40	大隅青少年自然の家到着			
10:50~11:10	入所式	7:00~7:30	朝のつどい	
	(1)団長挨拶			
	(2)オリエンテーション			
11:20~11:40	【研修1】 講 話	8:30~9:20	【研修4】 講 演	
	校長講話		演題「地球環境問題について」 講師 土木工学科助教 山田真義 先生	
11:40~12:00	教務主事講話		9:30~11:20	【研修5】 活動2
12:00~12:20	学生主事講話			クラス対抗ドッジボール大会
12:30~13:30	昼 食	11:30~12:30	昼 食	
13:40~16:30	【研修2】 活動1	12:30~13:25	【研修6】 講評など	
	館内オリエンテーリング		(1) 学生会長の話	
(2) アンケート				
(3) 教務主事講評				
17:00~17:30	タベのつどい	13:40	退所式	
17:30~18:00	シーツ等の受け取り	14:00	バス乗車	
18:00~19:00	夕 食	15:40	鹿児島高専着	
18:20~20:20	入 浴			
	体 育 祭 DVD 放 映 （19:00~20:30） ※教職員は保護者との懇談 （21:30 まで）			
	20:30~21:30			【研修3】学生会による Q&A
22:00	消灯・就寝			

総合学力調査について

教務主事補 宮田千加良

平成13年度から本科5年生を対象に総合学力調査を実施しています。平成18年度までは後期中間試験時に実施していましたが、平成19年度からは前期中間試験時に行なっており、今年度は6月4日から9日までで実施されました。

試験科目は従来どおり、共通科目として基礎1（数学）、基礎2（物理、化学）、英語（TOEIC）の3科目、そして各学科の専門1～3（4）の科目となります。

今年度の結果を表1に示します。総合学力試験では、基礎的で代表的なものを偏りなく含むように努め、これだけは出来ないと困るというような事項を中心に出题していますので、もう少し平均点は高くあって欲しい気がします。

します。

このように総合学力試験の結果が良好でないのは、就職進学時期及び中間試験と重なるため総合学力試験に対する勉強時間が十分確保できないことや、この結果が卒業や成績に反映されないため、学生の総合学力試験に取り組む姿勢が低いことも、一つの原因として挙げられています。今後学生が真剣に総合学力試験に取り組むよう、その方法を検討することも必要です。またこの結果を踏まえて、学力を定着させる教育の工夫・改善を行なうことも必要です。昨年度から記憶の新しいうちに試験が受けられるよう実施時期を前期中間試験時に変更いたしました。点数上からはその効果はあまり現れていないようです。

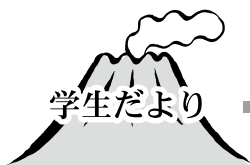
最後に総合学力調査の成績優秀者を表2に示します。これらの優秀者は校長室において表彰されます。

表1：平成20年度総合学力試験の平均点

平成20年度 平均点	基礎1 (数学)	基礎2 (物理、化学)	英語 (TOEIC)	専門1	専門2	専門3	専門4
機 械 工 学 科	37.6	46.6	288.2	1.7	60.6	64.7	58.2
電気電子工学科	45.3	55.6	290.3	39.2	56.5	46.9	
電子制御工学科	44.3	50.7	308.1	57.7	54.3	52.2	
情 報 工 学 科	42.5	48.6	309.1	55.9	63.7	63.4	
土 木 工 学 科	38.8	39.6	241.1	47.6	35.9	45.6	
全 学 科	42.0	48.7	291.5				

表2：成績優秀者

総合得点 各学科1位		
学 科	氏 名	得点(満点)
機 械 工 学 科	作道 和輝	448.4 (700)
電気電子工学科	外菌 裕仁	463.4 (600)
電子制御工学科	萱場 貴士	439.9 (600)
情 報 工 学 科	木場 俊	391.4 (600)
土 木 工 学 科	Ronald hendra	440.7 (600)
共通科目 全学科1位		
学 科	氏 名	得点(満点)
土 木 工 学 科	Ronald hendra	240.7(300)
英語 (TOEIC) 1位		
学 科	氏 名	得点(満点)
土 木 工 学 科	Ronald hendra	720 (990)
英語 (TOEIC) 一般学生 1位		
学 科	氏 名	得点(満点)
情 報 工 学 科	中園 暢	515 (990)



学生の生活指導について

学生主事 三角 利之

私が、学生主事の仕事に携わり、約1年半が経過しようとしています。この間、学生指導上の様々な問題が発生しており、このような問題にどのような対策をとり、いかに学生生活をサポートしていくべきか日々考えているところであります。そこで、本校の学生指導上、特に気になる問題やそれに対する対応について、具体的に以下に述べることにします。



(1) 交通問題について

本校学生のうち約半数の500名近くが自宅あるいは下宿先、アパート等から徒歩、自転車、バイク、自動車、電車等により通学しています。本校には、自転車やバイク等の十分な駐車スペースがないことなどの理由から、通学に使用する車両については許可制をとっています。この許可制を遵守せずに、学校近くの道路脇や周辺住民の土地にバイクや自動車を無断駐車し、その苦情が度々学校側にきて、対応に苦慮しています。このような違反行為を防止するために、無許可のバイクや自動車で通学しないように、保護者方からも子供さんに注意していただきたいと思います。また、通学途中、学校正門近くで左右も確認せず、道路に飛び出し、危うく交通事故になりかけた事例や、信号を無視して、横断歩道を堂々と渡っているとか、道路一杯に広がって通学しているといった苦情など、交通モラルが低下している学生が多数見受けられます。このような交通モラルの低下に対して、担任教員等を通じて注意を喚起しています。ご家庭でも、交通規則を遵守し、事故に遭わないように指導をお願いします。

(2) インターネットや携帯電話の問題について

本校学生の携帯電話の所有率は99%で、パソコンの所有率は81%です。ほとんどの学生が、日常、携帯電話やパソコンを利用している状況にあります。そこで、インターネットや携帯サイトを利用して困った状況になったことがあるかについてアンケート調査を行ったところ、全学生のうち約8%の学生が困った状況になったことがあると回答しています。その内容としては、振込み詐欺や架空請求にあったとか、出会い系サイトにつながったとか、登録していないところから多くのメールが送られてきたなどがあります。このような携帯電話やインターネット上のトラブルを予防する方法として、フィルタリングを設定することが推奨されています。フィルタリングとは、出会い系サイトやアダルト系など、子供に悪影響がある有害サイトにアクセスすることを制限するもの

です。本校学生のフィルタリングの設定率は約20%で、まだまだ十分とは言えない状況です。このような被害にあわないためには、親子で十分話し合い、できるだけ携帯電話やパソコンにフィルタリングを設定するようにしていただきたいと思います。また、最近学校裏サイトなどのインターネットを利用した掲示板に、特定の人を誹謗中傷する文面を書込んだり、メールを送りつけ、特定の人に精神的苦痛や不安を与える事件が、問題になっています。本校の学生の中にも学校裏サイト等に、悪口を書かれた人が何人もいるようです。今年に入って、誹謗中傷の文面を学校裏サイトの掲示板に書き込まれ、悩んだ学生が、担任教員に相談した事例がありました。このときは、鹿児島県警の少年サポートセンターに相談し、誹謗中傷の文面を削除するように依頼し、この件は無事解決しました。携帯電話や家庭や学校にあるパソコンは、全世界と繋がっています。何の気なしにいたずらのつもりで掲示板に書き込んだことが、名誉毀損や威力業務妨害という犯罪になる場合もあります。ネット上は公の場であり、ルールやマナーを守ることが大切です。また、携帯電話やパソコンによるインターネットの特性を悪用したサイバー犯罪が急増しています。このような犯罪に巻き込まれないように日頃から対応しておくことも重要であるし、また、もし巻き込まれた場合には、一人で悩むことなく、担任教員等に相談し、早期に解決するようにしていただきたいと思います。

(3) いじめの問題について

いじめが原因となって、不登校になったり、自殺する事例が教育現場で大きな問題となっています。高専に入学してからいじめを受けたことがあるかについてアンケート調査を行ったところ、全学生の約3%の学生がいじめを受けたと回答しています。この3%という数字は、1クラスに約1名がいじめを受けている割合になります。また、いじめをしたことがあると回答した学生は6%でした。いじめについては、その兆候を早期に察知し対応することが重要だと思います。本校では、担任教員や学生何でも相談室などで、学生からの相談に応じる体制を整えています。いじめを受けて悩んでいる学生から相談があれば、その解決に向けて対応致しますので、遠慮なく学生何でも相談室等に相談してください。また、保護者の方で、子供さんの状況でお気づきの点等があれば、遠慮なく担任教員等にご相談していただきたいと思います。

(4) 盗難について

今年度にはいって、校内で自転車、現金、音楽機器（ウォークマン等）の盗難が頻繁に発生しています。特に、体育や実習等の時間に教室に現金や貴重品を置いたままにしているところを狙われるケースが多いようです。そこで学校には、不必要な現金や貴重品はできるだけ持ち込まないように学生に呼びかけています。また、現金あるいは貴重品を所持している場合には、学生課前

今までを振り返って

機械工学科 4 年 学生会長 西 拓弥

に設置している金庫を利用するなど、盗難にあわないように各自しっかりと管理するように担任教員を通じて、学生に指導しています。また、自転車は、通常の簡単な鍵では、すぐ鍵が壊されて盗まれてしまうようです。頑丈な鍵を掛けたり、二重に鍵を掛けるなど、盗難の予防対策をとる必要があります。残念なことです、本校に盗みをする学生がいるのは事実です。このような不屈きな学生は、ごく少数と思われますが、多くの善良な学生が非常に迷惑しています。盗難のない安心できる学校にしたいものです。保護者の方からも、他人のものを盗むような行為は絶対にしないように、子供さんにご指導いただければと思います。

(5) 教室の美化について

本校には、1年生から5年生まで25の教室があります。授業に行きますと、しっかりと教室の清掃がなされて、気持ちよく授業ができる教室と、まったく清掃がされていないと思われる教室もあります。1週間のうち1回、校内清掃の時間がありますが、これだけでの清掃では、教室を日々綺麗に保つことはできないと思います。やはり毎日の清掃が必要です。自分たちの学ぶ環境は、自分たちで綺麗にする、「教室は、いわば修行の道場である。」という意識をもつことが大切だと思います。不思議なもので、教室がきれいであると教える側も教えられる側も、身が入り効率的な教育ができます。一方、汚い環境の下では、心もすさんで、勉学にも身が入りません。学生、教員一体となって、教室の美化に取り組むようにしたいと思います。

(6) アルバイトについて

本校では、1年～3年生については、長期休暇中以外のアルバイトは原則として禁止しています。また長期休暇中にアルバイトをする場合は、学校の許可を受けるようになっています。4・5年生については、特にアルバイトの許可を受ける必要はありませんが、アルバイトをする場合には、学生に相応しい職種を選び、深夜におよぶアルバイトは避けるべきであると思います。また、勉学に支障がでないように、平日のアルバイトは、できるだけ避けるようにすべきです。アルバイトに夢中になって勉強に身が入らず、生活が乱れてしまっている学生もいます。これまでに、アルバイトが原因で、留年あるいは退学したという事例もあります。アルバイトについては、保護者の方もその状況を把握して、適切にアドバイスすることも大切だと思います。

以上述べた以外にも、学生指導上の問題は、まだいくつかあります。これらの問題を解決していくためには、学生、保護者にも、学生生活上の問題やその対応策を理解していただき、学校と学生・保護者が連携してあたっていくことが重要であるように思います。皆様のご協力とご理解をお願いしたいと思います。

みなさん、今日は。平成20年度の学生会長をさせていただくことになりました、西 拓弥と申します。ここでは『学生会長としての抱負』やら『高専学生に求めること』などということを書くべきかとは思っていますが、堅苦しいことが苦手なもので、『今までを振り返って』ということで話を進めさせていただきたいと思います。

私は、平成17年の4月に鹿児島高専の機械工学科に入学して以来、部活漬けの毎日を送っていたのですが、ちょっとした好奇心から文化祭実行委員をすることになりました。そして、そこで一緒になった学生会の先輩の目に留まり、翌年度の学生会へのお誘いがありました。振り返ってみると、それが高専でのターニングポイントだったと思います。

2年から渉外局員として学生会の一員となり、3年では渉外局長となりました。学生会の仕事をしていくうえで、いろいろな先輩方とも仲良くなって、日頃の生活がより有意義なものになりました。そんなこんなで3年も終盤に差し掛かり、来年度はどうしようかと思っていた頃、北園裕一先生の教官室に呼ばれました。用件を伺ったところ、それは学生会長のオファーでした。はじめはあまり乗り気でなかったのですが、北園先生の熱意に負けて、今に至るというわけです。

学生会長という大役を任せられたからには、その責任を理解し、最後まで仕事を全うしていく決意です。また、学生会活動を通して、周りの仲間の大切さを実感しつつ、ただ高専生活を過ごしているだけでは絶対にすることができないような経験をたくさん積んでいけたらと思います。

最後になりますが、こんなちゃらんぽらんな会長についてきてくれている学生会役員みんな、ありがとう！あと半年ですがこれからも頑張っていきたいと思います。

校内美化運動について

学生主事補 濱川 恭央

20年度始めの4月18日（金）開校記念講演では、鎌田建設株式会社 代表取締役の鎌田善政氏が「掃除から学んだ事」について講演してくださり、学校全体の美化活動に関する意識が高まったと思います。

また、4月中旬に昨年度の予算で購入した足拭マットを学生会環境局長の細田君を中心に、「学生がどのルートでの入舎が多いか」を聞きながら足拭きマットの設置を行いました。これにより、かなり砂などの出入を少なくすることができたと思います。

さらにゴミの分別では、5月29日（木）に分別用紙を入手し、全教職員および各クラスへ配布いたしました。

これからは、ゴミを出さない努力、出しても分別してしっかりゴミを出す努力、さらには努力しないで、自然とゴミを見つけたら拾い、「きれいな学校で学校生活を送る」という意識を高めていきたいと思います。

さて、19年度から校内美化運動は、「教職員に頼らず、学生が主体的になって進める方法を探す」という考えのもと、「校内美化を学生の教育の一環として取り入れ、学生会を中心として計画・実施していく」ことで進めてきました。

19年度はチャレンジの年、本年度はその基盤づくりと実施、そしてその評価がなされる年と考えております。

本年度も半期が過ぎ、中間報告としても良い機会と考えましたので、以下その現状について、紹介します。

(1) 毎週の校内美化活動

昨年の校内美化実施計画（清掃区域、清掃作業の手順、清掃チェック表）をもとに、4月16日（水）に学生会の第一回環境委員会を開催、各クラスの総務および環境委員に説明を行い、協力を要請しました。1～3年（低学年）は、毎週水曜の特別活動前の約10分程度。4,5年（高学年）は、各クラスで授業のない時間帯を設定して清掃を行う。また清掃後は、各クラス的环境委員がチェック表をもとに清掃状況をチェックし、学生会へ提出するようにしております。

現在のところ、13クラス／25クラス（半数）より学生会へチェック表の提出がなされております。活動中に見回てみると、一生懸命清掃している学生と、そうでない学生に差があるようです。また清掃時に出されるゴミは、だんだんと分別も良くなり、出したゴミに責任を持つように記名もなされるようになってきました。

(2) 校内一斉清掃

6月9日（月）に職員による草払いが実施され、6月18日（水）に教員による草払いと1～3年による一斉清掃を実施しました。この清掃で特に草がなくなり、校内

はかなり綺麗になりました。

(3) 隼人駅ボランティア清掃

8月8日（金）前期末テスト最終日の13時から、学生会およびボランティア学生による隼人駅および隼人駅までの通学路の清掃を実施しました。総勢40名程度集まり、隼人駅長からもお礼の言葉をいただきました。

(4) 校内花盛りプロジェクト

昨年より花壇が増え、学生会が中心に水遣り、草抜き、植え替えなどを実施しております。

また5月21日（水）に後援会と学生会による花壇の清掃が行われました。

最後に今年の学生会は、団結力・行動力があり、ボランティア清掃に学生会のほぼ全員が参加してくれ、毎週のボランティア清掃のゴミの分別チェックも欠かさず参加、学校のために本当によく動き、活躍しています。

学生委員会としても本当に助かっており、この場をかりて、感謝申し上げます。

「校内美化を学生の教育の一環として取り入れ、学生会を中心として計画・実施していく」は、学生会は十分に起動しておりますが、一般学生への浸透はまだまだだと思っています。今後も学生会を中心に、自然とゴミを見つけたら拾い、「きれいな学校で学校生活を送る」と学生一人ひとりが意識をもってくれるような環境を整えていきたいと思っています。今後とも学生・教職員・保護者・学校関係者の皆様のご協力、よろしくお願いいたします。



安全に対する意識を！！

交通担当学生主事補 島名 賢児

4月から始まった前期もようやくお盆直前の期末試験で終わり、長いようで短い夏休みがスタート。開放感に溢れた夏休み。そんな時こそ、交通事故にはいつも以上に気をつけて欲しいと思います。特に、バイクの運転者は一瞬の不注意で命を失いかねない危険に晒されています。

今年も例年通り、6月14日（土）に国分隼人自動車学校で二輪車実技講習会を実施しました。バイク通学者約80名を対象に実施しましたが、10名程度の無断欠席者がおり、その大半の欠席理由が「忘れていた」とのこと。この実技講習会の趣旨は、日頃忘れがちな安全に対する意識を再度確認し、さらに未然に交通事故を避けるための技術的な指導をプロの方々から学ぶことです。自分の命に関わることを「忘れていた」で済ませることはできないと思います。こういう機会を、是非自分のために役立たせて欲しいと思います。

ところでこの講習会に参加した学生のバイクの多くに、（１）ブレーキが緩んでいる、（２）タイヤが擦り減っている、（３）タイヤの空気圧が低い、など即事故につながりかねない整備不良が見られ、安全に対する意識不足を警察の方や自動車学校の方々から指摘されました。さらに、講習中はフルフェイスやジェットヘルのヘルメットを被っていましたが、講習終了後は半キャップ型ヘルメット（以下「半ヘル」）に替えて帰宅する学生の姿も見られました。通学時だけでなく、休みの日も半ヘルではなく自分の頭部をしっかりと守ってくれるヘルメットを被りバイクに乗って欲しいと思います。

なお、4月から交通安全週間やそれ以外の期間に朝の通学指導を実施してきましたが、相変わらず半ヘルでバイクに乗ってくる学生が見られます。学校がなぜ半ヘルを禁止しているのか、注意した学生はその理由を分かっているにも関わらず、格好だけ気にして半ヘルをかぶっています。もし事故に遭った時、ヘルメットの種類が生死を左右することは十分考えられますので、自分の身を守るために、できればジェットヘルよりもフルフェイスのヘルメットを被るようにして欲しいと思います。

事故に遭ってからではなく、日頃から交通安全に対する意識を持ちましょう。



▲
二輪実技講習会
▼



クラスマッチ

電子制御工学科4年 学生会体育局長
清山 悟

鹿児島高専のクラスマッチは学生会役員、主に体育局の役員が中心となって運営します。

クラスマッチは年に前期と後期1回ずつ行われ計2回実施されます。鹿児島高専のクラスマッチは学科、学年関係なくトーナメントで抽選されたり、景品が豪華という事もありとても盛り上がります。

クラスマッチ入賞を目指して自主的に練習を行ったり、クラスのユニフォームを作ったりするクラスもあります。年2回あるクラスマッチは両方とも中間テスト終了後の約2週間後に実施されるので、テスト終了後学生会役員はすぐ準備にとりかかります。

クラスマッチの準備内容としては、全学生にアンケートをとり、男子4種目（主にサッカー、バスケ、ソフト、バレーなど）女子1種目（主にドッジ、卓球）の競技を決め、賞品を用意し要綱の作成。用具の準備、施設の使用許可届を出すなど、いろいろと多忙な2週間を過ごします。もちろん当日も忙しいのですが、クラスマッチを楽しむ学生たちなどをみると、自分たちがこの企画を運営しているのだという実感もありとてもやりがいのある役職だと思います。

特にクラスが勝つことを目標に一致団結したり、スポーツマンシップにのっとり学科、学年関係なく相手チームを気遣って競技を楽しんでいる様子はクラスマッチならではのものだと思います。

このように学生達が楽しめ、クラスの仲が深まるようなクラスマッチを伝統として続けていき後輩達にも引き継いでもらいたいと思います。



全国高専大会に向けて

機械工学科4年 テニス部 田上 康平

僕たちテニス部は九州沖縄地区高専体育大会テニス競技で団体、個人シングルス、個人ダブルスのすべての種目において優勝することができ、全国高専大会への出場権を手にすることができました。

全国大会へ出場するのは3年連続、3回目になります。僕の最初の全国大会は3年前で、団体、個人ダブルスでの出場でした。成績は団体戦は2回戦で、個人ダブルスは初戦で負けてしまいました。また、昨年は今年同様に九州沖縄地区高専大会で団体、個人シングルス、個人ダブルスで優勝し、全国大会では団体で3位、個人ダブルスでベスト8と最初に出場したときより、良い結果を残すことができました。全国大会においても年々良い結果を出すことができているので、今年はさらに上を目指して頑張りたいと思います。これまでは、全国大会という名前に押されて、緊張感から思うような試合ができていなかったと思います。今年の全国大会では思いっきり楽しんで悔いのない試合をしたいと思っています。



九州沖縄地区高専体育大会テニス競技にて

九州高専大会を通して

電子制御工学科5年 榎園万沙弥

今年度の九州沖縄地区高専大会ソフトテニス競技は福岡県北九州市の穴生ドームで行われた。昨年の大会では個人戦は優勝を果たしたものの、団体戦では10年ぶりの予選敗退という結果に終わってしまった。その悔しさをばねに、一年を通して安楽監督の指導の下、部員全員一丸となって毎日練習に取り組んできた。今年は自分にとって最後の大会でもあり、主将という立場でもあったので絶対に負けられない大会だった。なんとしても絶対に勝ちたい！そんな熱い闘志を胸に秘め、会場入りした。

試合会場は独特の雰囲気があり、何回か大会を経験しているにも関わらず、自分は緊張を隠せなかった。試合前の練習でもあまり調子が出ず、監督から叱られることが多々あった。自分は何をやっているんだ、ここまで来て何を弱気になっているんだと考えるたびに試合への不安が募っていった。そんな期待と不安が入り混じる中、僕らの試合は始まった。男子団体の予選では北九州高専と都城高専に難なく快勝し、決勝トーナメントへと駒を進めた。そして準決勝では八代高専を2-1で破り、決勝戦は再び北九州高専とあたり2-0で勝利し、見事団体優勝。また、個人戦でも、男子個人では高橋・森山ペアが優勝、女子個人では山元・今蘭ペアが準優勝という快挙を果たし、全国大会への切符を手にすることができた。優勝が決まった瞬間のあの感動は今でもはっきりと覚えている。本当に今まで頑張ってきて良かったと心から思った。しかし、これで満足してはいけない。あくまでもこの九州大会は一つの通過点でしかないのだ。今度は一ヵ月後の全国高専大会に向けて調整を進めていかなくてはならない。今年の全国大会は北の大地、北海道で開催される。自分は九州大会では思うようにプレー出来ず、力を発揮することができなかった。だから、全国では自分の力を100%出せるように全力を尽くしたい。もちろん目標は団体、個人共に優勝すること！そのために再び部員全員一丸となって、精一杯練習に取り組みたいと思う。

最後に、この高専大会で毎年のように思うことが一つある。それはたくさんの人達の支えのありがたさと、応援の心強さである。保護者の方々やOB、そして部員全員の応援は、試合中辛いときや苦しいときに何度も励まされ、助けられた。そして何よりも、この部活を続けさせてくれた両親に感謝したい。普段の生活では到底得られないことを、5年間このソフトテニス部で学んだような気がする。だから、全国優勝という報告が、お世話になったたくさんの人達へ今自分にできる最高の恩返しだと思うので、悔いが残らないように最後の一球まで諦めず頑張りたい。



前へ、そして前へ

電子制御工学科 4 年 陸上競技部 中島佑太郎

「位置について・・・」

《ドクン・・・ドクン・・・》

心臓の音がだんだん速まる・・・

「用意・・・」

一瞬の静寂・・・神経を研ぎ澄ませる。

「バン！！！！！！！！」

両足のエンジンを一気に吹かし、勢いよく駆け出した。

思えば 3 年前の秋、私は友人の紹介で陸上競技と初めて出会った。当初練習はかなりハードで、ついて行くのもままならなかった。そんな私に優しく接してくれたのが専攻科 1 年生だった T 先輩である。T 先輩の専門は私と同じ 400m で、県内でも有名な程速かった。私はそんな T 先輩に憧れ、吐くような練習を何度も経験しながら必死で T 先輩の背中を追いかけた・・・。

第 1 コーナーに差し掛かり、私はリラックスを心掛け

先頭に立った。

応援の声が聞こえる。チームメイト、先生方、外部指導者、家族。

こうやって私が記録を狙えるのは、私をサポートしてくださる方々のおかげである。特に、顧問の先生方と外部指導者の方々には感謝している。

内先生は選手がベストの状態試合に臨めるようにマッサージをしてくださる。

妻鹿先生は私の練習メニューの考案、短距離、専門の指導をされ、今季私をよりいっそう強くしてくださった。

先生方には引率や大会関係の仕事、部員の指導など大変お世話になっている。そして、親。

私が 1 番感謝している人である。こうやって今、健康な状態でスポーツを楽しめるのは親のサポートがあってこそだ。遠方から応援に駆けつけてくれると「今日は絶対勝つぞ！！」という気持ちになり、おのずと力強い走りになる。

第 2 コーナーを曲がり、気持ちを切り替え徐々にスピードを上げていく。

この試合の 2 週間前、ずっと痛いのを我慢してだましだましやってきたひざがとうとう悲鳴をあげ、1 週間走れない日々が続いた。不安でつぶれそうな私を妻鹿先生はずっと支えてくれて、つきっきりで練習を見てくださった。

ひざに不安は残っているがやることは全部やった。後はこの日のためにやってきた努力を結果へと変えるだけだ。そういう気持ちで私は九州高専大会に臨んだ。

第 3 コーナーを抜け、いよいよラスト 100m。狙うは大会記録。全ての力を振り絞る！！・・・ラスト 50m・・・腕がふれない。足が重い。力がでない・・・それでも足を前に出す。・・・ゴール！！！！

400m、優勝はしたが満足のいく結果ではなかった。200m、4×400m リレーも優勝。4×100m リレーはわずかに 4/100 秒差で負け、2 位。惜しくも 3 冠だった。自分の力のなさを実感した。自分にはまだ課題が残されている。ということはまだ強くなれる。その課題を練習で 1 つ 1 つ潰し、次こそは九州 4 冠！全国 3 冠を狙う！！！！

平成20年九州沖縄地区高専体育大会等競技結果

◎第45回九州沖縄地区高専体育大会

成績 種目	団 体 戦				個 人 戦		
	1位	2位	3位		1位	2位	3位
陸上競技	佐世保	鹿児島	北九州		200m:中島佑太郎	100m:黒江拓也	100m:大坪純也
					400m:中島祐太郎	200m:黒江拓也	5000m:大田昌孝
					800m:田崎力也	走高跳:津之浦奨太	砲丸投:市野拓郎
					やり投:富奥竜司 4×400mR: 黒江・田崎・松浦・中島	4×100mR: 加藤・黒江・大塚・中島	
ソフトテニス	鹿児島	北九州	佐世保	八代	男子:高橋・森山組	女子:山元・今蘭組	
バドミントン	北九州	有明	八代	沖縄			
水泳	有明	八代	久留米			男子200m自由形:鼓島佳	
						男子400m自由形:赤崎正真	男子400m自由形:中村彰
ハンドボール	八代	北九州	都城	熊本電波			
硬式野球	佐世保	熊本電波	大分	北九州			
バスケットボール(男子)	佐世保	北九州	久留米	鹿児島			
バスケットボール(女子)	沖縄	有明	熊本電波	八代			
卓球	有明	北九州	久留米				
剣道	北九州	鹿児島	佐世保				
サッカー	鹿児島	佐世保	大分	熊本電波			
柔道	大分	佐世保	熊本電波				
バレーボール(男子)	佐世保	都城	鹿児島	八代			
バレーボール(女子)	佐世保	都城	有明	八代			
テニス(男子)	鹿児島	佐世保	沖縄	都城	シングルス:田上康平		シングルス:内門知博 倉山直晃
					ダブルス:内門・田上組	ダブルス:倉山・追立組	ダブルス:内門・織田組
第38回西日本地区弓道大会	熊本電波	鹿児島	松江				
第14回西日本地区空手道大会	北九州	佐世保	大分				
第30回全国通信弓道大会	熊本電波	新居浜	鹿児島	有明			
第41回九州沖縄地区英語弁論大会					暗唱の部:下野梨華		
							弁論の部:島岡健太

◎第43回全国高等専門学校体育大会

(1) テニス

開催日:平成20年8月22日～24日

会 場:花咲スポーツ公園テニスコート

結 果:団体戦 優勝

個人男子シングルス 3位

個人男子ダブルス 優勝

個人男子ダブルス 1回戦敗退

(2) サッカー

開催日:平成20年8月23日～26日

会 場:苫小牧市緑ヶ丘公園サッカー場

結 果:準優勝

(3) 陸上

開催日:平成20年8月16日～17日

会 場:函館市千代台公園陸上競技場

結 果:400m 5位

800m 4位

5000m 7位

4×400mR 2位

(4) ソフトテニス

開催日:平成20年8月23日～24日

会 場:釧路市民テニスコート

結 果:団体戦 3位

個人の部(男子) 3位

個人の部(女子) 2回戦敗退

(5) 水泳

開催日:平成20年8月24日

会 場:北海道立野幌総合運動公園温水プール

結 果:自由形200m 予選敗退

自由形400m 予選敗退

自由形400m 予選敗退

◎第30回全国高等専門学校通信弓道大会

開催日:平成20年6月28日

会 場:霧島市営隼人弓道場

結 果:男子団体 3位

◎対都城高専との親善試合

第45回の都城高専との親善試合を平成20年5月10日(土)に実施した。結果は次のとおり。

鹿児島高専会場

競技種目	試合結果
サッカー	第1試合 鹿児島 (4 — 1) 都城 第2試合 鹿児島 (1 — 0) 都城 第3試合 鹿児島 (0 — 1) 都城 第4試合 鹿児島 (2 — 1) 都城
ハンドボール	第1試合 鹿児島 (18 — 25) 都城 第2試合 鹿児島 (7 — 7) 都城
男子バスケットボール	第1試合 鹿児島 (34 — 35) 都城 第2試合 鹿児島 (57 — 32) 都城 第3試合 鹿児島 (18 — 10) 都城 第4試合 鹿児島 (42 — 35) 都城 第5試合 鹿児島 (52 — 38) 都城 第6試合 鹿児島 (20 — 13) 都城
バドミントン	第1試合 鹿児島A (2 — 1) 都城A 第2試合 鹿児島B (1 — 2) 都城B 第3試合 鹿児島C (3 — 0) 都城C
ソフトテニス	交歓会
剣道	団体戦 第1試合 鹿児島 (1 — 4) 都城 第2試合 鹿児島 (4 — 2) 都城 第3試合 鹿児島 (2 (3) — 2 (2)) 都城 第4試合 鹿児島 (2 — 3) 都城 第5試合 鹿児島 (2 (5) — 2 (3)) 都城 第6試合 鹿児島 (3 (8) — 3 (7)) 都城
水泳	総合点 鹿児島 (286 — 152) 都城
女子バスケットボール	第1試合 鹿児島 (37 — 24) 都城 第2試合 鹿児島 (40 — 19) 都城

都城高専会場

競技種目	試合結果
陸上競技	総合点 鹿児島 (202 — 128) 都城
硬式野球	第1試合 鹿児島 (8 — 12) 都城 第2試合 鹿児島 (10 — 11) 都城
男子バレーボール	第1試合 鹿児島 (2 — 1) 都城
卓球	団体戦 第1試合 鹿児島A (3 — 0) 都城B 第2試合 鹿児島B (3 — 1) 都城A 第3試合 鹿児島B (3 — 1) 都城B 第4試合 鹿児島A (3 — 2) 都城A 第5試合 鹿児島E (0 — 3) 都城A 第6試合 鹿児島F (0 — 3) 都城B 個人戦 1位 外園 (鹿児島) 2位 大塚 (鹿児島) 3位 木村 (都城)
テニス	男子団体戦 第1試合 鹿児島 (3 — 0) 都城
柔道	団体戦 第1試合 鹿児島 (1 — 4) 都城 第2試合 鹿児島 (1 — 3) 都城
弓道	男子団体戦 第1試合 鹿児島 (12 — 9) 都城 第2試合 鹿児島 (13 — 8) 都城 第3試合 鹿児島 (13 — 10) 都城 女子団体戦 第1試合 鹿児島 (3 — 0) 都城 第2試合 鹿児島 (4 — 4) 都城 第3試合 鹿児島 (9 — 2) 都城 男子個人戦 1位 福永 (鹿児島) 2位 川邊 (鹿児島) 3位 山角 (都城) 女子個人戦 1位 竹下 (鹿児島) 2位 川 (都城) 3位 上野 (鹿児島)
女子バレーボール	第1試合 鹿児島 (25 — 20) 都城 第2試合 鹿児島 (20 — 25) 都城 第3試合 鹿児島 (14 — 25) 都城

◎高校総体県大会結果

団体戦	H20県高校総体結果	H19県高校総体結果
陸上競技	800m(3位) 田崎 力也 (県大会6位までが南九州大会出場者) 1600mR(6位) (加藤、大坪、田崎、松浦)	400m(4位) 中島 祐太郎 1600mR(8位) (松浦、黒江、田崎、中島)
サッカー	3回戦 敗退	1回戦 敗退
硬式テニス	団体戦 1回戦敗退 個人戦 5回戦敗退 倉山 直晃 個人戦 6回戦敗退 原口 健一郎	団体戦 4回戦敗退(ベスト8) 個人戦 5回戦敗退 内門 裕紀 個人戦 5回戦敗退 田上 康平
バレーボール(男子)	2回戦 敗退	3回戦 敗退
バスケットボール(男子)	1回戦 敗退	2回戦 敗退
ハンドボール	—	—
ソフトテニス(男子)	団体戦 3回戦敗退 5回戦敗退 森永・竹下	団体戦 2回戦敗退 4回戦敗退 森満・地福
ソフトテニス(女子)	団体戦 5位 3回戦敗退 今箇・越智	団体戦1回戦 敗退 4回戦敗退 山元・今箇
卓球(男子)	団体戦 1回戦敗退 ダブルス3回戦敗退 外園・久保田 シングルス4回戦敗退 外園 大悟	団体戦 2回戦敗退 ダブルス3回戦敗退 大塚・細箇 シングルス3回戦敗退 大塚外2名
卓球(女子)	— シングルス1回戦敗退 肥後 直子	— —
柔道	— 81kg級(1-1) 奥 大都志	予選 敗退 73kg級(1-1) 奥 大都志
バドミントン	団体戦 2回戦敗退 シングルス6回戦敗退 岸園 浩大 ダブルス5回戦敗退 岸園・鶴田	団体戦 2回戦敗退 シングルス5回戦敗退 岸園 浩大 ダブルス3回戦敗退 緒方・岸園
弓道(男子)	団体戦 7位 準決勝敗退 福永 龍輝	予選 敗退 準決勝敗退 泊 悠太
弓道(女子)	—	—
剣道(男子)	団体戦 1回戦敗退 個人戦 1回戦敗退 森 翔哉 個人戦 1回戦敗退 米盛 諒	— — —
水泳	—	—
自転車競技	団体戦 3位 スクラッチレース5位 樋口 藍 スプリント2位 前田 晃佑 個人ロードレース4位 島岡 健太	— — — —

◎高校総体地区大会結果

団体戦	H20高校総体地区大会結果	H19高校総体地区大会結果
陸上競技	800m(8位) 田崎 力也 (南九州大会6位までが全国大会出場者) 1600mR(予選敗退) (加藤、大坪、田崎、松浦)	400m(8位) 中島 祐太郎 1600mR(予選敗退) (松浦、黒江、田崎、中島)
自転車競技	ロードレース 20位 島岡 健太 1km 24位 島岡 健太 1km 30位 大原 涼平 1km 32位 前田 晃佑 3km 24位 樋口 藍 4km 予選敗退 島岡 健太 スクラッチ予選敗退 樋口 藍 スプリント予選敗退 前田 晃佑	— — — — — — — —

ロボコン近況報告

学生主事補 椎 保幸

平成20年度の高専ロボットコンテストは、九州沖縄地区大会が10月19日（日）に大分市で、全国大会が11月23日（日）に両国国技館で開催されます。今年度の競技課題名は「ROBO-EVOLUTION 生命大進化」です。競技の内容は3つの課題で構成されており、まずは「多足歩行の障害物レース」というもので、動物や昆虫に見立てて4本以上の足を持つロボットで歩行し、パイロンの周りを一周し、さらには高さ20cmのハードルを越えるというものです。続いて「変身パフォーマンス」のゾーンでは、ロボットが多足から2足へ変身パフォーマンスをしなければなりません。まさに生命が進化する様子をいかに表現するかがポイントになります。また、ここでは地域の特色を生かしたパフォーマンスが要求されますので、アイデアと遊び心の勝負所です。そして最後が「2足歩行」。3.5m先のゴールを目指して2足で歩行します。競技時間は3分間で、2チームのマシンが同時にスタートし、先にゴールした方が勝ちとなります。以上のように、今回の競技はタイムを競うと同時にいかに会場を魅了するパフォーマンスが出来るかが鍵となり、これまでに無く大変高度で難しい内容になっています。

ここ数年、鹿児島高専は連続して全国大会へ出場していましたが、残念ながら昨年はBチームが初戦敗退、Aチームが2回戦敗退となるなど両チームとも本来の性能が出せないまま終わってしまいました。昨年うまくいかなかった点を徹底的に分析し、今年のマシン作りに生かして欲しいものです。ロボット製作を手掛けるメカトロニクス研究部は、現在、部員数46名で、部長である機械工学科4年の堤君を中心にして夏休み中も精力的にマシンづくりに取り組んでおります（8月末現在）。部員数46名と大所帯ではありますが、これまでの経験とノウハウを生かし、大変統率のとれたチームワークですべての学生が効率よく作業を行っております。これも一重に顧問の先生方および技術職員の方々の指導の賜物と感銘しております。地区大会まで残り2ヶ月を切りましたが、それまでに2回のOB等視察も予定されており、外部の経験豊富な技術者のアドバイスも受けながら今後さらにマシンの完成度が高まっていくことと思います。これからもロボコン活動を通して、学生のさらなる成長を願うと同時に鹿児島高専チームのご活躍を祈念しております。



ロボット製作の様子

高専祭開催について

体育祭実行委員長 電気電子工学科4年
福永 文太

今年も例年通り高専祭を開催します。高専生が1年間で、最も力を入れ、最も盛り上がる行事です。年に1度だけやたら活気づく高専生を見に来ませんか！？詳細は以下の通りです。

- 日時
文化祭・・・平成20年11月1日、8時40分頃開始
体育祭・・・平成20年11月2日、8時40分頃開始
- 場所：鹿児島高専
- 高専祭テーマ
『1日、2日は高専祭』

文化祭ではとても多くの企画を実施しています。中でも注目なのは、学生による露店、女装コンテスト、軽音学部によるライブ、各学科の展示、大抽選会、今年から始まるミニ四駆大会などです。

露店ではまさに、祭りのように色々な店が並び学生たちが活気づいています。

グラウンドでは、一般のお客さんも参加可能な様々なイベントが開催され、ステージでは、練習を重ねてきた軽音楽部のライブ、男たちが女っぽさを競う女装コンテスト、さらに、最後にある毎年超豪華なプレゼントが当たるかもしれない抽選会など、見所盛りだくさんです！！

きっと楽しい1日が送れること間違いないので是非いらしてください。

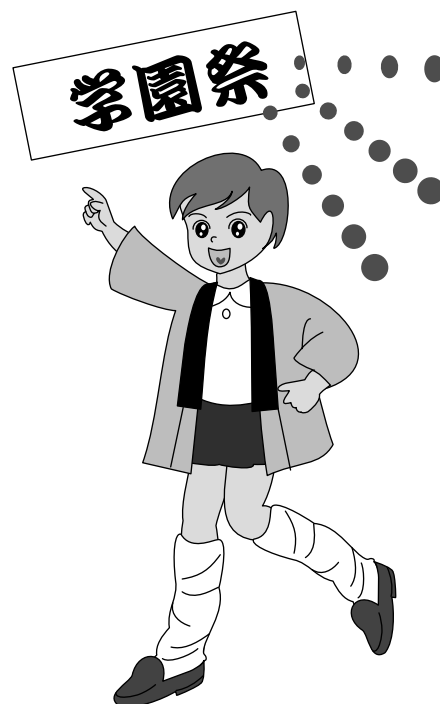
体育祭では学科対抗で応援団長を中心に、競技、櫓絵、応援合戦などで1番を決めます。

中でも見所は応援合戦と櫓絵です。櫓絵は校舎の一面くらいのベニヤ板に描かれた大きな大きな絵です。一学科2種類の絵を約1ヶ月かけて製作し、グラウンドに展示します。その圧倒的な大きさと存在感は言葉には表せず、見ないと分からないと思います。

また、各科応援団による応援合戦も、1ヶ月以上厳しい練習を積み重ね、一学科100人近くの人数で迫力の演舞を行います。これも言葉では表せない、心に直接届くなにかがあります。

櫓絵は午前と午後で絵が変わります。午前は普通の学校では見られない独特の競技、午後は応援団の心を打つ応援合戦があり、1日中見所満載です！！

テーマのように11月1日、2日は是非高専祭にいらして下さい！！普段は見られないものがたくさん見られると思いますよ。



御 挨 拶

寮務主事 白坂 繁

【自己紹介】 寮務主事の白坂（数学科）です。よろしくお願いします。

私は屋久島の宮之浦でのんびり育ち、鹿屋で3年間で3軒の下宿生活を送りました。その間、熊本の人吉、大隅半島の田代、内之浦等を転々とししました。縁あって鹿児島高専に来て今年で21年となります。

【挨拶】

●寮生の皆さんへ

私が皆さんにお願いすることは次の3つです：

- (1) 自分のことは自分です。
- (2) 他人に迷惑をかけない。
- (3) よく考える。

寮生活は集団生活です。今までと違う生活を強いられて辛いことと思います。しかし、本校の卒業生、特に寮生が社会で高く評価されているのは、寮生活で養われた意思疎通能力や環境適応能力といった「人間力」を持っているからです。

寮生活の良さはすぐには体感できませんが、良さがわかるまでは、何事も勉強と思って寮生活を満喫してください。

それでも困ったときは、寮生会、寮務係り、寮務委員に相談してください。

●保護者の皆様へ

入寮式でもお話ししました通り、また保護者便りにも書きました通り、寮生活は集団生活で、ストレスも溜まり、不便な生活です。しかし、寮生活は人間性・社会性を育てる生活でもあります。

皆様の大切なお子様をお預かりしました以上極力、寮生が良い環境で生活できるように努力いたしますので、ご協力ください。

心配な点がありましたら、寮務係りにご一報ください。

*

寮長として

寮長 機械工学科4年 丸山 輝

寮長となって、半年以上が過ぎました。

この間に様々な行事があり、とても忙しかったように思います。

入寮式では挨拶もさせていただきましたが、自分が入学したときにまさか挨拶をするなんて思ってもいませんでしたし、寮長などなれるとも思っていませんでした。

寮長になりまず変わったことは、一つ一つの行動に責任を持つということでした。今まで責任のある環境に自分の身を置いたことがなかったため、初めは押しつぶされそうになりました。また去年は、補佐として先輩方の計画した行事の準備をするなど、敷かれたレールの上をただ走るだけでよかったのですが・・・。

今年は自分が先頭に立ち、行事等を計画しなければならず、はじめのうちはとても苦労しました。正直、先輩方はこんなに大変そうにしていなかった気がして、少し寮長になる覚悟が甘かったかなと思いました。

しかし半年間、入寮式や避難訓練、寮生マッチなどいろいろな行事を経験し、気がつきました。僕の周りには、寮生会役員というとても心強い味方がいたのです。僕が悩んでいたときにそっと気の利いた一言をかけてくれた統括委員長、少しだらけているときに尻をたたいてくれた副寮長など、とても感謝しています。みんなが協力して、半年間を乗り越えられたんだと実感しました。またある日一年生が、僕の部屋を訪れてきてくれたときは、頼られているんだなと感じました。

僕に残された期間は残りわずかですが、それまでに僕が寮長として出来ることをしっかりとしていきたいと思っています。そしてこの鹿児島高専志学寮寮長を終えたとき、寮長をやってよかったと思えるよう後悔しないようにしたいと思います。

女子寮棟長として

女子棟長 電気電子工学科 4 年 高牟禮志帆

今年度の女子棟長を務めることになり、気づけばもう半年が過ぎようとしています。

はじめは、棟長として何をしたら良いか分からないまま始まり、“頑張らなくては”という焦りの気持ちが大きく、不安だらけでした。しかし、寮母さんや寮務主事の白坂先生、女子寮の担当をしてくださっている塚崎先生らの助言やサポートもあって、この半年間を大きな問題もなく過ごせたと思います。

また、寮内各部屋にエアコンが設置されるなど、寮をより住みよくするために先生方も寮生の意見を取り入れてくださっていて、寮生と寮務の先生方との距離感が少しは軽減されてきたように感じられます。

特に女子寮では、寮母さんや塚崎先生が女子寮生一人一人の声に耳を傾けてくださり、すぐに寮務主事等に伝えてくださるので、ひとつひとつ問題が解決されていてとても助かっています。ありがとうございます。

私が女子棟長になるときに、目標にしたのが、“過ごしやすい寮にしたい”というものでした。志学寮ですから、勉強や規則正しい生活を送ることも然りですが、けじめをつけて、学ぶときはしっかりと学び、(特に女子寮は人数が少ないので)楽しむときは先輩後輩関係なくみんな一緒になって楽しめる場所にしたいと思いました。また、ひとりひとりが女子寮の一員としての自覚を持ち、寮をより良くして行けたらと思い、この半年を過ごしてきました。

この半年間、先生方や寮生会の仲間達、時には近くの寮生や元寮生会の先輩方に助けられてきました。はじめあった大きな不安もなくなり、人はいつでも誰かに支えられて生きているのだと思いました。そして、自分を支えてくれている人たちに感謝して自分も誰かを支えられるようになりたいと思いました。いまは、まだ寮生活に慣れきっていない低学年寮生の手助けを少しでも出来ればと思います。

まだまだ力不足ですが、残り半年間、一日一日を大切にして、過ごしやすい女子寮に、また寮生の生活をよりよいものにしていきたいです。

副寮長として

副寮長 情報工学科 4 年 上野 恭平

3 年のときから寮生会に入り、今年は副寮長になった。副寮長としての 1 番大変な仕事は前期・後期の班長決めである。特に前期はペナルティポイントも関わってくるので大変だった。なかなか決まらずテスト期間に入ってしまうかなりきつい思いもしました。

でも正直言うと副寮長のこれといった仕事はほかにはない。しいて言うなら寮長のサポートくらいだろう？寮長の代わりに朝の放送をしたりとそれくらいだった。あとは部屋替えなどの行事をしっかり把握し指示を出すことくらいだった。

昔はあまり感じなかったが副寮長になって感じたことは、土足で寮内に入る寮生が多いということ・・・出来るだけ注意しようと心がけ、最近は前と比べ減ってきたと思う。

次に昔と比べて寮内がきれいになったと思う。他の高専の寮生会の人々が視察に来たときも「こんなにたくさん人がいるのに寮がきれいだ」と言ってもらい鹿児島高専の誇れるところだと思う。

僕は寮生会に入ってよかったと思う。一番よかったのはたくさんの友達ができた事。いまの寮生会はとても仲がよくそれは誇れることだと思う。先輩も後輩もみんな気兼ねなく話せてとてもいいことだろう。

あと半年間副寮長として寮のために少しでも貢献し、そしてみんなが住みやすく感じる寮に出来るように寮生会みんなで協力し頑張りたい。



班長研修会について

統括委員長 電子制御工学科 4年 清山 悟

班長研修会とは寮生会、寮務委員の先生、班長とでグループを作り、改善すべき寮の問題を討論し、よい解決案を模索する場です。

今年度もこの鹿児島高専志学寮は約550人の寮生を抱え、班の数も約50と厳しい状況です。寮生会だけでは細かいところまで目が届かず、そのため、集団生活を快適に送るためには寮生各自のモラルに依存しているところもあります。特にこの志学寮は家を出たばかりの一年生が半分近くいることも関係しています。

これらを踏まえた上で、寮生会と班長は何ができるか、そして寮生活をよりよくするためには何を改善していくべきかなどを主な議題として話し合いをしました。

話し合いを通じて感じたことは、寮の問題点について、班長たちが活発に意見を出していたという事です。このことから、寮生会だけでなく班長たちも寮のことをよく考えている事が伺えました。寮生のどのような行為が迷惑になるかでは、多種多様の意見がでて、班長たちもお互いにいい刺激になったのではないかと思います。

今回の班長研修会では、班長一人一人が仕事に対する責任感をつけることはもちろん、寮生会としてもたくさん得るべきものがありました。寮務委員会と寮生会の意見を繋げるという立場がいかに重要かという事を改めて自覚しました。

班長、寮生会、寮務委員それぞれ得るものがあり、とても有意義な研修が行えたと思います。これからも、お互いに住みよい寮を目指してがんばっていきましょう。



班長研修会

新入生歓迎寮マッチについて

文化委員長 機械工学科 4年 榎木 慶太

平成20年4月19日土曜日に新入生歓迎寮マッチがありました。種目は一年生の歓迎マッチとゆうことで事前に一年生だけにアンケートを取り、そこで決まった男子はサッカー、ソフトボール、女子はバドミントンを行いました。

去年はチーム数や参加者がほぼ一年生だけでしたが、今年はほかの寮生にも早く告知ができたため去年よりも3チームほど多く参加してもらえました。

当日は、朝から一年生がグラウンドでまだ慣れていないクラスメートとパス練習やキャッチボールをしていて、それを見て「準備は大変だったけど、寮マッチやってよかったな」と思いつつ、まだ終わっていないコートでの準備をしていました。

試合が始まり、新入生も最初は遠慮してプレーしていましたが、だんだんと本気でプレーし、上級生が「一年には負けない」と必死にがんばる姿が印象的でした。

結果は、上級生が意地を見せサッカー、ソフトボールともに一位、二位独占でしたが、一年生のチームがサッカーで三位に入るなど、上級生と下級生それぞれの頑張りが見られたそんな寮生マッチになりました。

今回の歓迎寮マッチでは参加した一年生同士はもちろん、上級生が普段あまり親しみのない一年生とのコミュニケーションの場に少しはなったのではないかと思います。そしてこれをきっかけにまたいろいろなことにみんなで取り組める大切さを感じてほしいと思います。



新入生歓迎寮マッチ

ごみ分別講話について

衛生委員長 電気電子工学科 4 年 徳澄 智明

今年 4 月に霧島市役所の方によるごみ分別講話がありました。

寮生の皆さん真剣に話を聞いていたと思います。自分も一応寮でのごみ関係の責任者として真剣に聞かせてもらいました。

正直な話、衛生は今年で 2 年目なので分別のことはだいたい把握できていると自分で思っていたのですが、今まで間違っていたことや、新たに学べたことなどがあり、本当に良かったと思っています。しかし、「質問ありませんか?」と言われたときに、代表として積極的に質問したほうが良かったのかもなぁ。と今となって後悔している部分もあります。

そのことを踏まえた上で、この講話は自分の役職の責任や手本となるべきことを学べたと思います。皆さんにとってもいろいろ学べた良い講話だったんじゃないかなと思います。

しかし、今の分別の状況は決していいものとは言えません。自分の呼びかけがまだまだ足りないのかも知れませんが、3 年の時に反省したペナルティ清掃の時の自分の態度ですが、正直非常に悪く、何人の寮生が不満を抱いているか分かりません。分別状況が悪いのも自分のこのような態度に責任があると思っていますので、これからは態度や行動を改めて、寮生の皆さんが気持ちよくペナルティ清掃に参加してもらえるように頑張りたいと思います。そして、分別状況を良くしていきたいです。

最終的には、忙しい中わざわざ講話しに来てくださった霧島市役所の方のためにも、ごみの分別状況をペナルティ清掃しなくても良くしたいと思っています。

それには皆さんの協力も必要です。1人1人が責任や高専生という自覚と、協調性を持っていれば簡単なことだと思います。自分も努力しますので、後半年間、こんな衛生委員長ですが、協力をお願いします。



ゴミ分別講話

避難訓練について

報道委員 機械工学科 4 年 菖蒲谷直人

4 月 17 日の短縮 8 限終了後に志学寮避難訓練が行われました。この日は、あいにくの曇りでしたが雨の心配もなく無事に避難訓練は始まりました。

出火場所は 5 志 2 階の自習室、火のかわりにドライアイスが使われました。そして非常ベルは鳴り出しました。一斉に出火元と避難場所の知らせる放送が鳴り、寮生は部屋を飛び出しました。予定では朝点呼の場所に集合でしたが、いつの間にかキックボードの裏で整列 & 点呼。そして、何もなかったかのように、避難訓練は続けられていました。寮生会がしっかりと誘導できなかったのが原因なのですが…。

この後、消防署の方のお話がありました。寮生は、いつものように?まじめに?話を聞いているようでした。次に避難訓練恒例の消火器を使った消火訓練でした。消火器訓練は、いつものように寮生や職員らしき人たちの代表がそれぞれ「火事だぁー」と叫び消火器を使って火を消していました。消火器訓練が終わると寮務主事である白坂先生のお話がありました。まず一言、「避難場所が違う!」と。寮生会がもっとしっかりとやっていれば寮生会が怒られることはなかったのに…と。本当に反省しています。そして白坂寮務主事の話も終わり無事に避難訓練は終了しました。

ここ何年かはこの鹿児島高専では大きなボヤ騒ぎはないですが、先生方の話によると何年か前にドライヤーのつけっぱなしで危なかったことがあるそうで、結構危なかったとか…寮生には熱を発する電気製品については、特に気をつけてほしいです。



避難訓練

新設科目

「環境創造工学プロジェクト」の紹介

専攻科長 岡林 巧

平成20年度専攻科入学生から新設科目として「環境創造工学プロジェクト」が開講されました。教員は、植村先生、椎先生、樫根先生と岡林の4名で担当いたしております。専攻科1年次・前期・必修科目・1単位で、機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻および土木工学専攻の異分野の学生が横断して複数のグループを作り、今まで準学士課程で学んで来た互いの専門知識を素地にP.B.L(Project Based Learning)手法を用いて提示された課題の「ものづくり」に挑み、(1)問題を自ら見い出すことができること、(2)問題点の解決手段を見い出すことができること、(3)問題点を解決できること等の能力の自己開発を目標とした「ものづくり科目」です。このP.B.L手法による「環境創造工学プロジェクト」は、機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻および土木工学専攻の学生が将来個々に立ち向かうであろう異分野の事例に対し、臆することなく知恵を駆使して問題解決にあたることを可能とする総合教育プログラムといえます。今年度の提示課題は、「環境に配慮した福祉機器の開発」です。以下にこれまでの活動状況をスナップ写真にてご紹介いたします。



福祉機器販売会社実施 研修



福祉施設体験実地研修



鹿児島大学病院リハビリテーションセンター実地研修



3次元CAD実地講習会



中間発表会



本発表会：技術士や企業審査員の前でホバークラフト車椅子実機の実演例

専攻科特別研究紹介

機械・電子システム工学専攻2年 石堂 健二

現在、われわれの周りでは様々な電気・電子機器が使用されている。それらの機器はわれわれの日常生活を便利にし、オフィスや工場における作業効率を大きく向上させている。これらの機器からは微弱といえども必ず漏れ磁界や電磁雑音などの発生がある。また反対に、外部からの磁界や電磁雑音があるレベルを超すと、機器が誤動作や動作不良を起こす恐れもある。このような電磁機器からの電磁界の発生の抑制と、外部からの電磁妨害に対する耐量、すなわちイミュニティの向上をバランス良く保つことは、電磁両立性として特に大きな関心がもたれている。そこで、機器・回路設計や実装技術に加えて、磁気シールドが重要な技術として位置づけられる。医療現場においてMRI（Magnetic Resonance Imaging：磁気共鳴画像診断装置）における磁気シールドは、磁氣的静寂を必要とするMRIにとって非常に重要である。よって部屋全体を磁性体で厳重に囲う必要がある。しかしながら、その事によって被験者が圧迫感を感じ、検査結果に影響を及ぼす。そこで本研究では角筒磁性体を積層することによってMRI室内を開放的にし、被験者のストレスを低減させるため、以下のModelでシュミレーションおよび解析を行った。

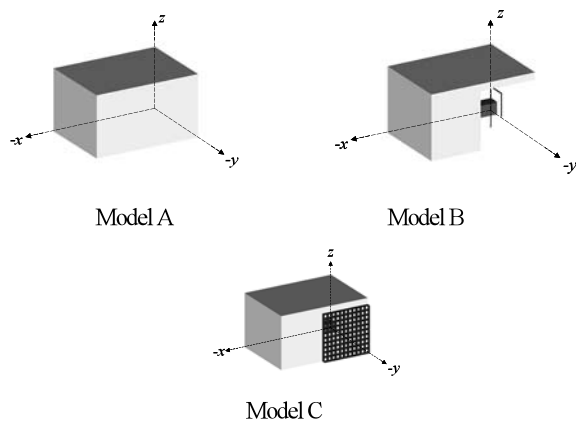


図1 比較モデル（1/8モデル）

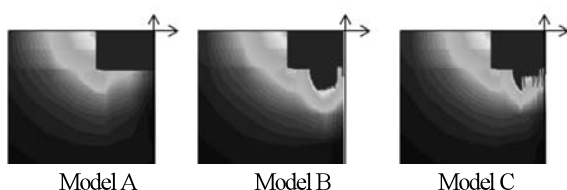


図2 解析結果（y-x平面コンター図）

専攻科特別研究紹介

機械・電子システム工学専攻2年 松田 信吾

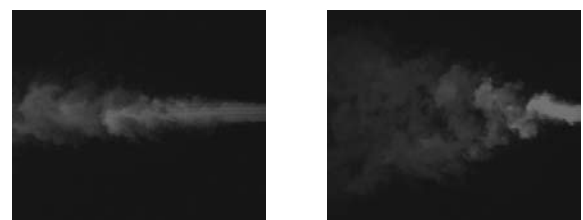
私は現在、「往復振動流を付加した噴流の拡散制御」というテーマのもと研究を行っており、“噴流”の拡散を促進することを主目的としています。このテーマにある“噴流”とは、速度をもつ流体が比較的小さな出口（小孔）から、空間に存在する流体中に噴出する現象のことをいい、下流に行くにしたがって徐々に拡散していく性質をもっています。この性質をもった噴流は、各種物質の拡散・混合、燃焼および伝熱など様々な現象に密接に関係しており、特に工業的に多く使用されています。応用が考えられる例として、

- ①自動車の塗装や鉄板などの加熱・冷却など広範囲にわたって噴流を一度にかつ、広範囲に吹き付ける場合
- ②攪拌・反応槽、燃焼器での流体混合を促進し、攪拌効率、反応速度を早める場合
- ③近年の原子力発電所近辺の海洋で問題視されている温暖排水などの混合促進による、排出口近辺の海洋温暖化の防止

などがあげられ、噴流の拡散を促進することにより、様々な効果が期待されます

また往復振動流とは、シンセティックジェットと呼ばれる噴流（ジェット）の一種に代表されるように、流体中で物体を高周波で往復振動させることにより、流体へ流れを与えるアクチュエータです。この往復振動流は物体が往復で振動することにより流れを発生させるため、小孔から流出する流体の正味流量が0となり、しかも通常の噴流と比較して少ないエネルギーで同じ性質をもつため、近年注目されているアクチュエータです。そして、この往復振動流を噴流に付加することにより噴流の拡散をより促進する目的できると考え、研究を行っています。

現在までに、噴流へ往復振動流を付加することにより、噴流の拡散が下流位置で促進されることおよび、往復振動流の周波数を増減させることにより、噴流の拡散割合を制御できることを確認しています。したがって、今後の研究課題として、往復振動流を噴流付加することにより発生する流体の流動特性を調査していきたいと考えています。



通常の噴流 往復振動流を付加した場合の噴流

噴流の可視化の様子（図の右から左へ噴流が流出している）

専攻科特別研究紹介

電気情報システム工学専攻2年 高橋 直樹

私の研究テーマは「高温超伝導薄膜に対する結晶化アニールの効果」である。超伝導体の応用は、様々な分野で期待されており、電気電子分野における強電系分野では、超電導マグネットを使った磁気浮上列車(リニアモーターカー)などの開発が行われている。また弱電系分野では、半導体では実現できなかった高速動作や並列処理が可能なコンピュータなどの研究、さらにSQUIDは高感度磁気センサとして医療用機器では一部製品化されているものもある。近年、超伝導転移温度が液体窒素よりも高い高温超伝導体が発見され、応用化に現実味が増してきた。高温超伝導体は多元素化合物であり結晶構造が複雑なため、厳密に結晶制御しなければ超伝導特性を示さないことが多く、作るのが難しいが、弱電系の応用であるデバイスにするための薄膜なら、半導体製造技術の蓄積により作製が可能である。薄膜作製法にはレーザーアブレーション、MBEやスパッタリング法などがある。前者は原子レベルでの結晶制御が可能であるが、高価・複雑で、成膜面積が小さいので、安く大量に生産するには向いていない。一方後者のスパッタリング法では、装置が比較的安価・シンプルで、大量生産することができるが、厳密な結晶制御が難しいという特徴がある。そこで本研究では、安くシンプルなスパッタリング装置で、安価/大量生産向きの薄膜作製法を確立するために、特にスパッタリング後のアニール(熱処理)について様々な条件で薄膜を作製している。また作製した薄膜をX線回折により薄膜の結晶構造、抵抗率測定により薄膜の超伝導特性を評価し、超伝導になるBi系高温超伝導薄膜を作るための最適条件の決定にも取り組んでいる。

専攻科特別研究紹介

電気情報システム工学専攻2年 篠崎 佑介

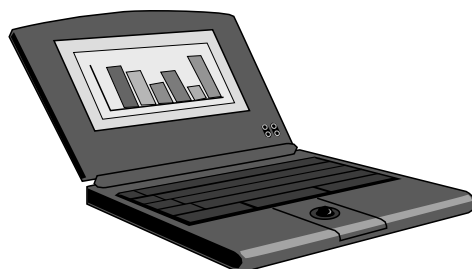
私は、画像圧縮についての研究をしています。

画像圧縮の技術は皆さんの身近なところで使われています。例えば、携帯電話で写真を撮ります。この写真を保存する際、携帯電話によりたくさんの画像を保存することができるように写真のデータの大きさを小さくしてから保存します。また、ホームページ等で見る画像もそのほとんどが圧縮されており、すぐ画像が表示されずにイライラすることがなくなります。また画像圧縮の技術は動画圧縮の技術にも応用されており、Youtube等のインターネットを用いた動画配信や、地上デジタル放送のような公共性の高いものまで様々な物に現在では画像圧縮の技術が用いられています。

このように画像圧縮は現在のデジタル社会を支える大事な技術の一つとなっており、画像圧縮の進歩により社会は大きく変化してきました。また、これからもさらに大きな変化を遂げていくでしょう。

私はその画像の大きさを小さくする手法に関する研究を行っています。これまでにない新しい手法を考える、とまではいきませんが、現在提案されている手法を既に発表されている論文を読むことによって学び、これらの手法の改良点を見つけ、現在発表されている手法と比較してより効率の良い圧縮方法の提案を行います。

現在、画像圧縮の研究は世界各地で行われており、日々進歩しています。私の研究している画像圧縮の分野では世界一の性能を競って世界中で研究が行われています。世界を相手にする、ということではなかなか簡単にいかない研究ではありますが、日々研究に勤しんでいます。



専攻科特別研究紹介

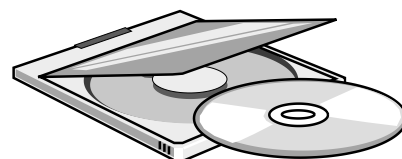
土木工学専攻2年 竹ノ内孝嗣

私は本科5年生から今日まで、「立体格子状回転円板法による廃水処理」というテーマで研究をしてきました。回転円板法とは円板の表面に付着・繁殖した微生物群を利用して廃水を浄化する生物学的廃水処理技術の一つです。回転円板法では、微生物を廃水と大気に交互に接触させることにより有機物の摂取、酸素の吸収を行っています。

円板槽（水槽）に円板面積の約40％が浸漬するように円板を取り付け、この円板をゆっくり回転させながら通水し続けると、円板表面に各種の微生物が付着・育成し生物膜を形成します。円板の回転に伴い生物膜は円板槽中で廃水と接触し、有機性汚染物質を吸収するとともに廃水を空気中に運び上げます。これらの廃水は膜状になって生物膜表面を落下する間に酸素を吸収し、生物膜はこの膜状液から酸素及び有機性汚染物を吸収します。円板表面には水質環境に応じた微生物が生育するので、高濃度から低濃度の広い範囲の廃水の処理に適用することができます。また、廃水処理において生物膜を形成する微生物は処理水水温30～40℃において最もその働きが活発になるといわれています。

そこで現在、反応槽内処理水水温を強制的に変動させたときの廃水処理能力の挙動について調べるため、各水温時でのBOD濃度（生物化学的酸素要求量・水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したもので最も一般的な水質指標のひとつ）、COD濃度（化学的酸素要求量・水中の被酸化性物質を酸化するために必要とする酸素量で示したもので、水質指標のひとつ）等の測定実験を行っています。

この研究ではより多くの実験データを必要とするため、研究室に入ったばかりの時期は日々実験を繰り返し行う事がとても大変に思いましたが、今では自分で実験を行った分だけの成果を得ることができるので、研究に対して日々積極的に取り組むことができるようになりました。学生生活も残り約半年余りとなりましたが、今後とも良い成果を残せるよう取り組んでいこうと思います。



テクノセンター報告

地域共同テクノセンター長 芝 浩二郎

鹿児島高専「地域共同テクノセンター」は、地域の中小企業と連携し、共同研究や技術相談、技術者のリフレッシュ教育を行うための拠点施設です。本校がこれまでに蓄積した技術開発や研究成果を元に、共同研究、技術相談、技術者教育を集約的に行うことにより、地域の技術力を高め、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力の向上に貢献することを目的としています。

本センターの特色は「地域交流部門」、「共同研究部門」、「創造工房部門」、「研究促進部門」の4部門を設けていることです。地域の中小企業及び行政と連携して、共同研究や技術相談、技術者の再教育機能を強化し、産学官連携機能や地域の活性化を図っています。また、ものづくり基盤技術の教育研究機能を高め、より高度な専門性、創造性を持った実践技術者の養成も図っています。すなわち、本センターは研究機能と教育機能とを融合させて、その一元化を図っていることに特色があります。

さらに平成20年度にテクノセンターの各部門を支援する産学官連携コーディネーターが2名配置されました。今後、コーディネーターの支援のもとにテクノセンターの活動をより活発に行っていく所存です。

産学官連携活動について

産学官連携コーディネーター
遠矢良太郎 中原義毅

地域社会・産業界等から、大学・高専等へ求められる産学官連携活動の展開はますます重要な意味を持っていますと同時に、社会からさらに大きく期待されています。文部科学省が推進する産学官連携活動は、平成20年度に「産学官連携戦略展開事業」として模様替えし、新たに「鹿児島大学・鹿児島高専」の両校を担当する遠矢良太郎コーディネーターが着任しました。遠矢コーディネーターは、上記事業の「地域の知の拠点再生担当」として活動を展開しています。また鹿児島高専は独自に地域産学官の連携による長期インターンシップ等を活用する平成20年度「企業技術者等活用プログラム」に採択され、中原義毅コーディネーターが着任しています。

上記事業はいずれも、高等教育機関として地域社会・産業界等との連携を通じて、地域社会の活性化に貢献することを目的としています。研究シーズの応用展開、共同・受託研究の推進、地域の知の拠点再生等で、大学・高専との協力関係構築は言うまでもなく、地域行政機

関・公的研究機関等とも協力し、新たなイノベーションの創造等をめざした活動を展開して参ります。平成18年に着手した経済産業省委託事業である「中小企業若手技術育成事業」については、平成20年度中小企業ものづくり人材育成事業【実践的な農水工連携支援自動化機器システム設計のための専門技術者育成プログラム】として、3年目を迎えたプログラムを推進中です。

「企業技術者等活用プログラム」 地域産学官の連携による 長期インターンシップ 実施体制の構築にむけて

地域共同テクノセンター副センター長
内容 保

本校は実践的・創造的技術者の育成を目的としており、そのためには学校内教育だけでなく他の教育機関や産業界・地域社会との連携を深め、体験重視型の専門教育を更に推進していく必要があります。そのための有効な方策の一つに地域産学官の連携による長期インターンシップが考えられることから、その実施体制の構築は重要な課題であるといえます。このような長期インターンシップの実施体制を構築するためには、産業界や地域社会とのパイプ役を担ってもらうコーディネータの存在は極めて有意義なものであることから、地域共同テクノセンターでは本年度高専機構募集の「企業技術者等活用プログラム」に応募し、採択されて中原コーディネータの継続勤務が実現しました。このプログラムは主として専攻科生を対象とした長期インターンシップの実施体制の構築を目的としたものですが、今後中原コーディネータの協力を得ながら、その実現に向けて鋭意努力していくつもりです。皆様のご協力、宜しくお願い致します。

第7回産学官連携推進会議への出席

地域共同テクノセンター長 芝 浩二郎

「第7回産学官連携推進会議」が平成20年6月14日・15日に国立京都国際会館で開催されました。「産学官連携推進会議」は、内閣府、文部科学省などが主催し全国の大学、高専、公的機関、企業などが出展する会議で、高専全体としての地域連携の紹介・PRの場となってい

ます。鹿児島高専では、高専の活動を全国の関係者へ紹介することの出来る絶好の機会として、毎年、この会議に出展しています。

本年は、「地域共同テクノセンターの概要」の紹介パネル展示、鹿児島高専の支援組織である「錦江湾テクノパーククラブ ～10周年の主な活動～」の紹介パネル展示とビデオ放映、「経済産業省委託事業・高専等を活用した中小企業人材育成事業」の紹介パネル展示と平成19年度人材育成事業の講義・実習風景のビデオ放映を行いました。また、平成19年度人材育成事業で受講生が設計・製作した簡易昇降ロボットの実物展示も行ないました。



第7回 産学官連携推進会議での鹿児島高専の展示
会場：国立京都国際会館イベントホール

共同研究部門について

地域共同テクノセンター共同研究部門長
室屋 光宏

昨年度より共同研究部門長を拝命しその業務にあたっ
てまいりました。本部門は基本的にはその名が表すよう
に共同研究推進が主たる担当ではありますが、現センタ
ーの方針として特に部門の枠にとらわれない活動が行わ
れていたこともあり、他部門の担当に関わるような活動
も多かったように思います。以下に、昨年度の活動状況
を例に本部門について紹介いたします。

高等教育機関として高専も地域への貢献や産学連携の
重要性が高まっています。これを体現するように本センタ
ーのスローガン「地域に技術で貢献」を掲げておりま
すが、昨年度本部門においては、地域との連携や貢献を
重点的に業務にあたっ
てまいりました。その一つとして、
毎年技術シーズ集を発行し、錦江湾テクノパーククラブ
(KTC) 会員企業などに紹介しており、これにより地域
社会や地域経済界との協力関係を築く糸口としておりま

す。昨年度はセンター広報誌との合冊としてセンターの
活動にもより一層理解を深めていただけるようなものと
しました。また、連携推進の積極的な活動として県内外
への企業訪問を強化しました。この企業訪問はニーズの
発掘などを目的として全学的に実施をお願いしているこ
とですが、まずはセンタースタッフによる全てのKTC会
員企業への訪問を目標に取り組みました。結果的には目標
の半数強にとどまってしまいましたが、例年の倍以上の
訪問企業数であり、KTCへの新たな入会企業もあり、地
域との連携においてはある程度の成果は得られました。
また、新たな試みとして、鹿児島高専産学官連携推進室
を置くソフトプラザ鹿児島において「研究シーズ」の発
表会を実施しました。ここでは、ソフトプラザに入居す
る企業をはじめとする県内中小企業に対して本校の電気
情報関連をメインとして本校の研究シーズの紹介を行
いました。発表会終了後は聴講していた企業から関心がい
くつか寄せられ、後に共同研究や研究会へと繋がるなど、
大きな成果が得られました。

以上のような活動は今年度も引き続き実施して参ります
ので、今後ともご理解ご協力の程よろしく願いいた
します。

ソフトプラザかごしま「鹿児島高専 産学官連携推進室」から

地域共同テクノセンター研究促進部門長
中村 格

本校は、鹿児島市情報関連産業育成支援拠点施設「ソ
フトプラザかごしま」に平成13年4月のオープン当初か
ら「鹿児島高専産学官連携推進室」として入居し、技術
相談、共同研究、産学連携等の打合せ、セミナーを実施
し、かごしまITビジネスフェアへの協力等、地域への貢
献に努めています。産学官共同セミナー、共同研究・寄
付金の受け入れ、かごしまITビジネスフェア2007、ネッ
トワーク環境の整備につきまして、「地域共同テクノセ
ンター広報誌2008年版」より転載してご紹介します。

■産学官共同セミナー 平成19年12月14日(金)

演題：「遠隔コミュニケーション支援のためのインタ
ラクション解析」

講師：新徳 健 先生 (情報工学科)

概要：対面コミュニケーションでは、単に言葉だけで
なく、顔きや身振り・手振りなど身体的なリズムを共有
することにより、円滑なコミュニケーションを行ってい
ます。この身体的なリズムの共有を、情報機器を介した
コミュニケーションに応用することで、円滑な遠隔コミ

コミュニケーションを支援するシステムの開発が期待されます。このような身体的コミュニケーションを解析するには実環境だけではなく、各種情報を制御可能な仮想環境を用いることが有効です。本セミナーでは、身体的コミュニケーションを解析するためのバーチャルコミュニケーションシステムを紹介し、その応用についても紹介します。(鹿児島市作成「産学官共同セミナー開催案内」より)



産学官共同セミナー(於ソフトプラザかごしま)

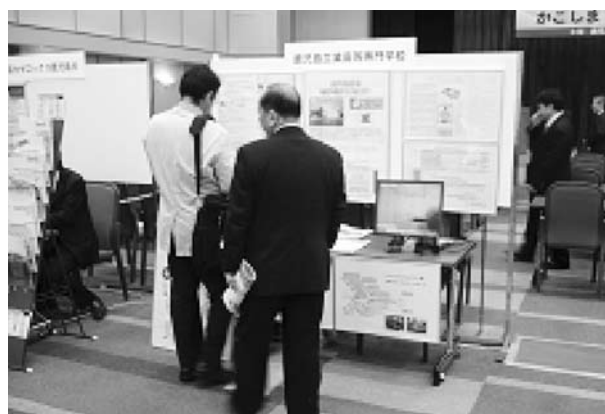
■共同研究・寄付金の受け入れ

本年度からの試みとして、鹿児島市の主催で地域のIT関連企業の皆様に向けての鹿児島高専 I T 関連技術シーズ発表会を開催しました。発表会を契機として、画像処理技術に係る研究(平成19年12月4日(火)付共同研究)、IT関連技術に係る研究会(平成19年11月16日(金)付寄付金)、以上2件の共同研究・寄付金を受け入れました。発表会は好評で、本年度は2回実施予定です。第1回目は平成20年9月24日(水)に開催し、上記2件の申込者による事例発表も行います。

■かごしまITビジネスフェア2007 平成19年11月20日(火)

鹿児島市内中小企業のビジネスチャンスの拡大やマッチングを行うとともに、市内中小企業の情報化促進を図り、鹿児島市の経済が活発化する事を目的として、鹿児島市、かごしまITビジネスフェア2007実行委員会の主催により自治会館で開催され、本校も実行委員会のメンバーとしてフェアの運営に携わり、パネル展示、ロボコンロボットの展示・デモンストレーションを行いました。

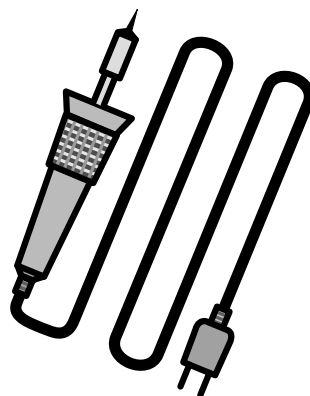
本年度は、平成20年12月12日(金)～14日(日)の3日間にわたり「かごしまITフェスタ2008」として発展開催され、本校も後援として積極的に係わっています。



かごしまITビジネスフェア2007(於自治会館)

■ネットワーク環境の整備

鹿児島高専産学官連携推進室のネットワーク環境が鹿児島高専の情報教育システムセンターの全面的な支援により本校キャンパスと同等レベルに整備されました(平成20年7月上旬)。今後、パソコンの台数確保等の整備を行い、人材育成、県教委パワーアップ研修、公開講座、技術者を対象としたハイレベルセミナーでの使用を考えています。校内会議室と同様、グループウェアでの予約により教職員の皆様に広くご使用頂けるよう、レイアウト等を鋭意整えています。



学生相談インターカーセミナーに 参加して

学生何でも相談室 相談員 池田 正利

宿泊したホテルが中央区築地に近く、セミナーの開始時間も午前10時からなので少し距離はあるけどセミナー会場まで歩くことにした。築地の路地を抜けるとユニークな形をした橋にさしかかった。地図を確認すると勝鬨橋とある。歴史を感じさせる綺麗な橋だ。勝鬨橋は跳開型可動橋で両端がアーチ橋、中央部は上方に開く構造になっている。しかし、現在は開閉を行っていない。それにしても意外に行き交う人が少ないことに驚いた。勝鬨橋を渡ってから約1時間歩いた。会場までは、だいぶ距離が残っている、しかし疲れた。目の前をゆりかもめの車両が通過した。出発したときの気持は萎え乗ることにした。豊洲の市場前駅からゆりかもめに乗車した。(市場前？何もないが。ここが築地の移転先か。有害物質を含んだ土壌が問題視されていた所か。東京オリンピック誘致の幟が至る所にあったような気がする。一時期の報道に比較してこの頃あまり見聞きしないな。) そんなことを考えているうちに目的地の船の科学館駅に着いた。

セミナー会場である独立行政法人日本学生支援機構東京国際交流館施設内の国際交流会場メディアホールに入ると300名程の参加者が席に着いていた。私にとって何でも相談室関係の研修は今回で4回目になる。過去3回の研修がいずれも3日間と長く、日程もハードで研修が終了した時の開放感は今でも忘れられない。それに比べ今回の研修は少し気分が楽である。セミナーの日程は、午前中が講演Ⅰとパネルディスカッション、昼食を挟み午後は講演Ⅱと参加者交流プログラムとなっていた。

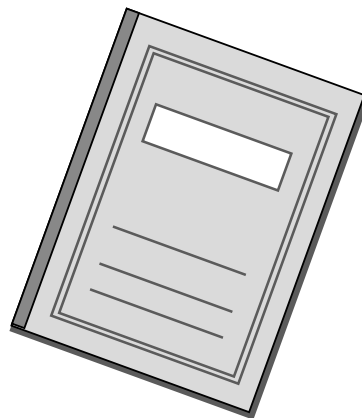
研修タイトルにある“インターカー”という言葉は知っていました。これでも研修は4回目です。インターカー：最初の相談を担当する人のこと。本校の組織に当てはめると何でも相談室の相談員、つまり自分を含めた相談員のことだと。

講演Ⅰは、「学生支援の基本的な考え方ー連携・協働のために」といった演題を東工大の齋藤憲司先生が講演された。インターカーの心構えや役割は、過去の研修で学んだように、相談者の話をまず聞くこと、適切な担当者への振り分けを見分ける事の重要性を話されていた。今回の講演の中で少し戸惑いながら、印象に残ったのは、“最初に学生に関わったとき学生をよく観て、外面的な細かい変化をきちんと観察しておくこと。顔色や表情一つでも状態を推測できる、推測ははずれている場合もあるので話しの中で質問し、確かめていくようにして思い込めないことが必要である。” あと一つ “自分の考えや思いよりも学生の考えや思いを中心に考えることが大切。つまり、「こう言ったら学生はどう思うか、また

どう反応するか」を考えた上で話し、話した後に学生がどう受けとったかを観察し、認識してみることが大事です。”と話された点です。できそうでなかなか難しい。相談員はそこまで求められているのだろうか。

次に、パネルディスカッションで東北大大学院の布柴達男先生が、何でも相談室室長として取り組んだ相談室主催の新入生交流会について報告された。新入生交流会を開催したことにより予想を上回る効果があった趣旨の話だった。東北大学大学院では、大学院生は研究科独自の研究棟がなく4、5カ所のキャンパスに分散し、同級生同士の交流も少なく、この状況が原因としてか途中退学、不登校学生が少なくなかったそうだ。そこで1年先輩の院生の協力を得て新入生交流会を開催したところ、新入生の不安材料の軽減につながり、途中退学、不登校学生がその年減少したという。また、研究室以外の先輩院生も含めた学生間ネットワーク形成のきっかけになっていると話された。本校でも新入生に対してオリエンテーションや1年生研修が行われる。また学寮では寮マッチが行われている。私も学生委員や学寮委員を務めた経験があるが、新入生の立場になって催しに臨んでいただろうか。今振り返ってみると新入生に対して早く本校のシステムを理解してもらおうとする押し付けに似た意識が強かったのではないかな。反省するとともに、学生何でも相談室でもハイキングや少人数でもいいから交流を深められる催しを考えてみてはと思った。

以上は、平成19年12月18日に行われた平成19年度学生相談インターカーセミナーの報告と参加した感想である。



竹炭等の自然物を利用した 河川等の水質環境の改善

一般教育科理系・化学 大竹 孝明

平成17年度及び18年度の2年間にわたり、科学研究費補助金（基盤研究（C））として、「竹炭等の自然物を利用した河川等の水質環境の改善」の研究が採択されました。

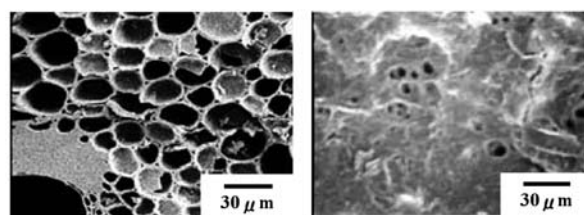
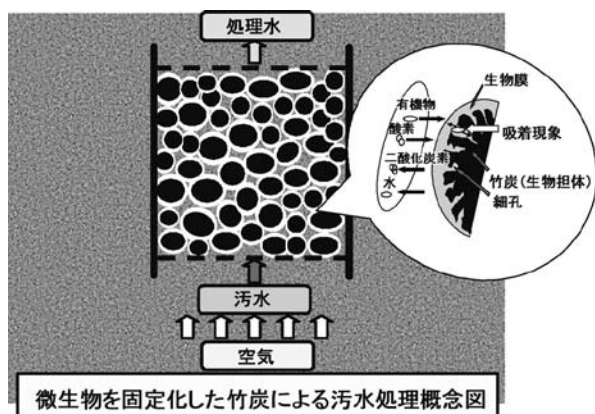
竹炭による河川の水質浄化に関連する研究は、すでに(株)みともコンサルタントと鹿児島大学地域共同研究センターが共同研究として進められていました。そのため、残された課題の解明を含めこの研究をさらに発展させるべく、今回さらに鹿児島高専の土木工学科岡林研究室及び鹿児島大学工学部応用化学工学科幡手研究室の協力を得ながら、実験室規模の水質浄化装置を設置し、浄化能力、機構などの解明を進めることとしました。

近年、河川流域の産業の発展に伴い、汚濁排水が農業用水にも排出され、水域の有する自然浄化作用を上回る汚濁負荷が流入する結果、河川の水質が悪化し続けている所は少なくありません。鹿児島県内の各中小河川についても、流域産業による水質悪化が問題となっており、

現在も農業用水として利用され、その汚染は広がりつつあり緊急に対応する必要があります。

そこで本研究では、鹿児島県の有数な地域素材である竹炭及び南九州に広く分布する自然物である軽石を水処理に用いることを提案しました。竹炭は多孔質であり、木炭などに較べても比表面積が大きく、ろ過機能や吸着能力に優れています。また、軽石は第四紀地質時代における噴出源を始良火山由来とし、垂水市及び鹿屋市を主要分布地として甚大に埋蔵し、竹炭と同様に多孔質であり比表面積の大きな素材です。従って、生活排水や河川等の汚れや悪臭、不純物を吸着するとともに、竹炭や軽石に付着した微生物が水質汚染となる有機物を分解し、水質を浄化することが出来ると期待されます。本研究では、竹炭や軽石の細孔内に生物膜を付着させ、この付着微生物の基礎的な浄化処理能力を調べ、さらに実際の小規模河川に応用してその処理性能を検討しました。

2年間でより多くの研究成果が得られましたが、これらは、ひとえに本研究の研究分担者の各先生方ならびに本校及び鹿児島大学工学部応用化学工学科の職員のご協力によるものであります。ここに、改めて謝意を申し上げます。



微生物付着前

微生物付着後

竹炭の電子顕微鏡写真

研究活動のご紹介

電気電子工学科 中村 格

平成18年度～19年度、「環境調和型変圧器を想定した新しい絶縁材料の誘電・絶縁特性の評価」という研究課題で、本校小迫雅裕先生（現 九州工業大学）と科学研究費補助金（科研費）基盤研究（C）へ共同申請を行って採択され、先日、研究期間を終え、研究成果報告書を提出致しました。概要をご紹介します。

現在、安定した電力供給には欠かせない送配電設備における変圧器は、油入変圧器（液体絶縁）が圧倒的に多く、次いでモールド変圧器（固体絶縁）、その他、ガス絶縁変圧器（気体絶縁）の順となっています。石油製品である「鉱油」を使用している油入変圧器では、「カーボンニュートラルなものへの転換」への要求が今後強まっていき、菜種油等の適用が要求されると私たちは強く確信しています。一方で、近年、ガス絶縁機器に用いられている六フッ化硫黄ガスは「地球温暖化効果」が高く（二酸化炭素ガスの約24,000倍あります）、大気中への拡散が禁止されています。このような動向から、今後はガス絶縁変圧器が減少し、モールド変圧器が増加していく傾向にあります。しかしながら、そこには樹脂類の絶縁劣化に係わる課題があり、その革新技術としてポリマーナノコンポジット材料の適用が要求されると私たちは強く確信しています。

上記のような先端的機能材料を適用した「環境調和型の変圧器」が市場に投入される事になれば、地球環境保護との相乗効果で加速的に増加していく可能性があると私たちは確信しています。本研究では、環境調和型変圧器を想定した新しい絶縁材料の誘電・絶縁特性について検討し、将来的に液体と固体の複合絶縁システムを市場投入する事の可能性を実証するべく基礎的研究を行い、次の成果を得ました。

1. 菜種油の誘電・絶縁特性評価

菜種油の絶縁破壊強度は、比較材料として用いた鉱油とほぼ同程度であり、菜種油、鉱油ともに、真空脱気により絶縁耐力が上がり、安定度も向上する事、また、古い油ほど水分を含み、酸化するため、真空脱気の有無による絶縁特性の差が大きくなる事が明らかになりました。

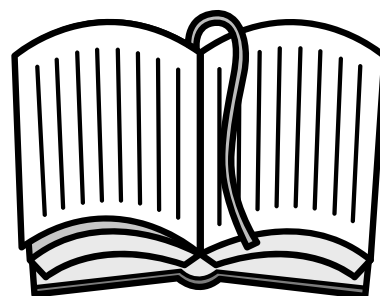
2. ポリマーナノコンポジットの誘電・絶縁特性評価

ポリマーナノコンポジット材料を実験試料に成型・加工し、試料内におけるナノフィラーの分散性を確認し、ナノ粒子を用いるナノコンポジットが耐部分放電性に優れる事が定量的に明らかになりました。この事は、粒子

間距離および電界歪歪に深く関係がある事を突きとめました。

3. 液体・固体複合材料を用いた絶縁システムの絶縁特性評価

ガラス球を電極の高さ以下に充填した場合、絶縁破壊強度の大幅な低下なしに油量を減量できる事、また、ガラス球と菜種油の誘電率は差が大きく、誘電率の高いガラス球に電気力線が集中しガラス球と球電極間に高電界が生じるため、菜種油の破壊強度を超え、ガラス球の沿面を辿って絶縁破壊が起きる事が明らかになりました。



私の研究 ～学生時代から～

土木工学科 山田 真義

私は16年前に土木技術者を目指し、群馬高専土木工学科に入学しました。当時は橋やダムなどを建設する土木技術者に憧れていました。しかし、本科の4年生の時に土木の衛生工学（環境分野）に興味を引かれ、群馬高専専攻科、長岡技術科学大学大学院修士課程、企業、長岡技術科学大学大学院博士課程、東北大学を經由し、現在に至るまで環境工学について学んでいます。

私が教員になるに至った経緯は、長岡技術科学大学大学院博士課程在学時に本高専土木工学科の山内正仁准教授らとの共同研究でした。この共同研究によって、実際に学生と研究を遂行する楽しみを覚え、教育者&研究者の道を志望し、現在に至っています。

私の研究は、主に水処理を核として行っています。下水などの生活雑排水処理、工場などから排出される排水などからエネルギーを回収する技術開発です。一例として博士課程在学時に本高専との共同研究を行っていた時の研究を紹介します。この共同研究は、焼酎蒸留粕液画分からの超高速エネルギー回収技術の開発と高濃度固形物含有廃水からのエネルギー回収技術の開発です。

前者の多段型高温上向流嫌気性スラッジブランケット（MS-UASB）リアクターによるエネルギー回収技術の開発に関する研究では、焼酎粕液画分からのエネルギー回収を目的として焼酎粕液画分の超高速メタン発酵処理を行っていました。図1は国分酒造協業組合さんの敷地内に設置させて頂いた実証実験プラントの全景です。この研究は平成14,15年度の経済産業省地域新生コンソーシアム研究開発事業（平成16～18年度は補完研究）の一環として長岡技科大、鹿児島高専、鹿児島県工業技術センター、複数の企業と共同研究を行ってきました。この多段型高温UASBリアクターは焼酎粕に含まれる有機性物質を酸生成菌やメタン生成菌の働きによってメタンガスに転換し、エネルギーを回収する装置です。この研究成果は、一般的なメタン発酵よりも4～6倍の速さでエネルギー回収が可能であることが実証されました。

後者の可逆流嫌気性バッフルドリアクター（RABR）によるエネルギー回収技術の開発に関する研究では、固形物を高濃度に含んだ焼酎粕全画分からのエネルギー回収を目的として、焼酎粕全画分のメタン発酵処理を行っています。図2は高専内に設置してあるRABRの全景です。リアクター内の有用な微生物を高濃度に保持することが出来る構造になっており、汚泥滞留時間を長く確保し、高濃度SS含有廃水からエネルギーを回収する技術開発を行っています。

以上のように、私の今までの研究は、焼酎粕からのエネルギー回収技術の開発を行ってきました。今後も、過

去の研究を継続するとともに、新しい研究テーマへ発展させ、研究室メンバー一同、日夜研究活動に励んでいます。



図1 高温多段型UASBリアクターの全景



図2 RABRの全景

研究紹介

技術室 原田 正和

現在取り組んでいる研究活動について紹介いたします。研究テーマは「共削り加工の加工面品位に関する研究」です。「共削り加工」について、始めて耳にする方が多いと思いますが、二つ以上の異なる特性の材料を一つの切削工具で「同時に切削する」ことを意味します。

共削り加工は身の回りでも多くの製品の加工で採用されています。例えば、以前は自動車のエンジンのシリンダブロックは鋳鉄製の物が多かったのですが、最近では、燃費向上等を目的とした軽量化のために、アルミ製の物が主流となっており、必要な部分のみを鋳鉄や他の素材にして構成されたものがあります。また、電気部品では、電気基盤部の導体と絶縁体を組み合わせたものがあります。これらを加工する場合に、「共削り加工」が行われます。「共削り加工」は、今後も頻繁に使用される加工法の一つです。

「共削り加工」で問題になる事は、材料ごとの物理的・機械的性質が異なるため、適切な工具材種の選定や、最適な切削条件の設定が難しく、表面粗さや寸法精度に関して優れた加工精度を得ることが困難となります。また、切削加工を行ったとき異材の接合部に加工段差ができやすく、被加工面に異材粉末の圧入や溶着が発生しやすいなどのトラブルが発生します。

本研究では、加工段差について着目し、この原因について解明するとともに、その発生が小さくなる加工法について検討を行いました。被削材に、金属の銅と非金属の亚克力樹脂を組み合わせた材料について、ドリルの穴開け加工やマシニングセンタを使用したエンドミル加工を行っています。

これに関連する研究として、平成19年度は「最新ものづくりにおける異種材の共削り加工の最適条件を導き出す工作実習の検討」のテーマで科学研究費（奨励研究）に採択され、その研究結果を報告しました。今後もこの加工法について深く研究し、学生の実験実習時での技術指導や、地域共同テクノセンターを通じての技術相談等で地域に貢献していきたいと思っています。

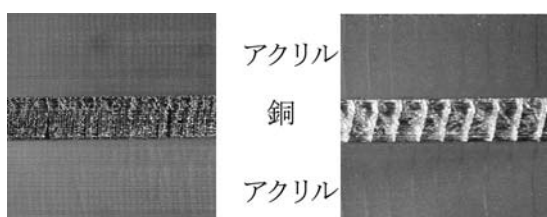
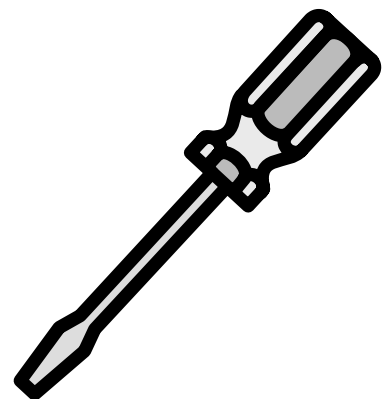


図1 加工条件の違いによる共削り加工面の違い





新任教職員紹介

一般教育科理系 拜田 稔

事務部長 上原今朝生

はじめまして。4月から教員交流で東京高専から参りました拜田（はいだ）です。1年間のドイツ留学を含めて14年間東京高専で勤務してきましたが、一度外の空気を吸ってみたいくなり、応募しました。行き先が鹿児島高専に決まったのは偶然ですが、どうせ行くなら遠いところの方がいいと思っていたので、ちょうどよかったと思います。担当は数学です。1年間の予定ですが、どうぞよろしくお願いします。

鹿児島高専に来て最初に驚いたのは、全校生が体育館に一堂に会し、始業式が行われたことです。そこで学生会メンバーの紹介や、新入生との対面式が行われました。東京高専では始業式はなく、集会もせいぜい3年生以下が集まる程度だったので、これぞ学校だと思いました。さらに、昼休みには、勇ましい、威勢のいい校歌が毎日放送され、新入生のつもりで一緒に頑張ろうという気持ちになりました。

また、鹿児島高専は寮生も多く、東京高専の4倍ほどいる割にはうまく管理されており、自習時間もまじめに勉強しているのには感心しました。課外活動も盛んで、全国大会で優秀な成績を収めているのもうなずけます。私は学生の同意も得ずに勝手に女子バレーボール部の顧問の仲間入りをさせてもらいましたが、女子部員に叱り飛ばされて右往左往しながらも、何とか今日まで練習についていくことができました。地区大会では、優勝した佐世保高専から1セットをとったのは鹿児島高専だけでした。

鹿児島の人はみんな親切で、本当に来てよかったなあと思いました。町や人の雰囲気もほのぼのとしていて、こういう環境に育まれて素直に成長した子たちが県内から集まって来てくれているのだなあと思うと、あたたかい校風の背後にあるものが何となくわかる気がしました。

初めて授業に行った頃は、学生はまじめで私語も居眠りもなく、同じ高専でこんなにも違うものかと思いました。最近では、教室へ行くと、

「みのるが来たぞう！」

「せんせえ、今日お腹空いたから早く終わろう！」

とかいう具合です。

授業のペースが早い、わかりにくい、試験が難しいなど、学生からの評判はあまりよくないようなのでこんなことを言うと叱られそうですが、来年3月が来てほしくない、できればずっといたいと思っています。

今後とも、どうぞよろしくお願いします。

私は、平成20年4月1日付けで事務部長として赴任してまいりました 上原 今朝生 と申します。

これまでに京都工芸繊維大学、名古屋工業大学、大分大学、大分医科大学、大島商船高等専門学校、諫早少年自然の家、琉球大学、九州工業大学、宮崎大学に勤務し、この4月から、10番目の機関として鹿児島高専に勤務させて頂くこととなりました。どうぞ、よろしくお願い致します。

赴任して、まず、感じたことは教職員も学生も皆さん、勤勉であるということです。

このことは、人として最も大切なことで、仕事や勉強をする上でも欠くことのできない基本条件だと思います。

先日、鹿児島県の歴史を調べましたら、19世紀の中ごろには近代工業化発祥の地であったと記されておりました。

このことは、本校の校歌の2番にも「日本の夜明け呼ぶ国の 伝統胸に 堅持して」と具体的に謳われており、日本における近代工業の魁であった国（鹿児島県）で勤務できることを嬉しく思い、感謝しております。

近年、高等教育機関を取り巻く社会経済環境は、あまり良い状況ではありませんが、教職員、学生の勤勉さにより、日本の魁を堅持し、本校が掲げている4つの学習・教育目標に適った人材を育成していけば必ず道は開けると信じております。

そのための一助として力を尽くしたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願い致します。



総務課長 栗田 耕

平成20年4月1日付けで大分大学から総務課に異動して参りました。大分大学在任中は、平成19年4月から平成19年12月までは、医学・病院事務部総務課で医学部・大学附属病院運営事務総括に携わり、平成20年1月から平成20年3月までは、研究・社会連携部国際交流課で国際教育研究センター運営業務に従事いたしました。

趣味は、テニス、ソフトボール、散歩、映画鑑賞、読書です。最近では体重が増えてきましたので、真孝の高専宿舍の周りを散歩しております。

皆様の意見を聞きながら、積極的に高専機構本部との連携を行い、特に予算要求の面においては、必要最大限努力し、鹿児島工業高等専門学校の建物の改修及び耐震補強工事を行い、環境整備を中心に積極的に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【略歴】

H18.4～大分大学財務部資金管理課経理係長

H19.4～大分大学医学・病院事務部総務課総務第一係長

H20.1～大分大学研究・社会連携部国際交流課副課長

学生課教務係長 日高 達也

平成20年4月1日付けで鹿児島大学から異動になりました日高達也と申します。よろしくお願いいたします。

私は人事交流は2度目であり、以前は鹿屋体育大学に勤務しておりました。鹿屋体育大学も体育大学だけあってスポーツが盛んでしたが、鹿児島高専も学生のみならず勉強が非常に大変にもかかわらずスポーツが非常に盛んであり、高専体育大会におけるすばらしい成績にびっくりしております。私もスポーツが非常に好きであり鹿児島県内各地のランニング大会、マラソン大会、MTBのレースや今は無くなってしまいました霧島ジャンボリー（自転車のヒルクライムレースです）にも出場しておりました。

現在、私は学生課教務係に所属していますが、教務係の仕事は初めてであり、非常に忙しい毎日を送っており、訳がわからないことばかりで、とても運動をしようという気になりません。もうしばらくして、仕事に慣れてきましたら運動もまた再開したいと思います。

最後になりましたが、現在はまだ仕事になれずに皆さんにご迷惑をかけることもあると思いますが、一生懸命がんばりますのでよろしくお願いいたします。

総務課財務係 美坂 英樹

4月1日付けで鹿児島大学から赴任してまいりました美坂です。総務課財務係で、予算・決算・会計監査・外部資金受入などの業務を担当しております。

私は、隣町の加治木町出身で、現在も加治木から通勤しており、また、同級生に鹿児島高専に進学した者も多かったため、以前から本校には親近感を持っておりましたが、この度、縁あって本校に勤務する機会を得て、大変喜んでおります。

高等専門学校は、5年間の課程で主に工学系の専門教育を通して実践的技術者を養成する事を目的としたユニークな教育機関であり、本校にも、高校生から大学生に相当する幅広い年齢層の学生さんが在籍しており、赴任当初は、高校とも大学とも違う独特の雰囲気新鮮な印象を覚えました。

本校のほとんどの学生さんが寮生活を経験し、また非常にサークル活動が活発であるとお聞きしております。私が申し上げるまでもなく、規律ある寮生活やサークル活動での鍛錬を通して得られる社会性、責任感、忍耐力などは社会に出てからの貴重な財産となります。私自身も寮生活の経験こそありませんが、中学から大学まで続けた部活動を通して貴重な経験と友人（先輩・同期・後輩）を得ることができ、社会人生活を送る上での心の支えとなっています。そして、寮生活やサークル活動は、本分の学業にも有形無形の好影響を及ぼしてくれると思います。

本校には、非常に内容の濃い学生生活を送ることのできる環境があり、本校の卒業生も各方面で高く評価されておりますので、在学生の皆さんも鹿児島高専生であることに誇りを持ち、素晴らしい学生生活を送られることを期待しています。

私も微力ながら自分の仕事を通して、本校の教育研究活動に貢献できるよう精進する所存です。よろしくお願いいたします。

訃 報



弔 辞

中島正弘先生の告別式にあたり、鹿児島工業高等専門学校を代表して、先生のご霊前に謹んでお別れの言葉を申し上げます。

中島先生は、昭和46年3月長崎県立大村高等学校を卒業後、鹿児島大学工学部機械工学科に入学され、昭和52年3月に同大学院工学研究科機械工学専攻を修了され、1年間民間企業に就職された後、鹿児島高専機械工学科の助手として採用されました。その後、昭和56年10月に講師、昭和62年4月に助教授、平成8年4月に教授に昇任されました。平成3年6月には、大阪大学より工学博士の学位を授与されておられます。

中島先生の専門分野は流体工学であり、研究面でのご活躍はめざましく、国内学会はもとより、国際学会でも積極的に論文発表を行い、平成10年と平成17年には、可視化情報工学会のグッドプレゼンテーション賞を授与されています。文部科学省の科学研究費補助金にも継続的に採択され、平成17年度から3年間の科学研究が修了し、平成20年度からは新たな課題で科学研究費を獲得されたところでした。

本校の管理運営面でも、平成10年度からの2年間と、平成19年度から現在に至るまで、機械工学科長を務められました。平成13年度から2年間は寮務主事を務めていただくなど、多忙な業務にもいとわず取り組まれました。

現在、本校では専攻科の充実を目標として、専攻科の進学生を増やすことに取り組んでいますが、この件にもっとも共鳴し、学生を説得して自ら6名、7名と多くの学生を受け入れ、指導していたのも中島先生でした。

先生は、本校のこれからの専攻科の改組についても、鹿児島県の産業構造の特性を考慮し、分野横断的な農工連携の専攻を立ち上げることを提案し、昨年度から高専機構の予算を獲得して、具体的な専攻の計画に入っていたところでした。

本校の卒業生は、社会で高く評価され、学生数の30倍にも及ぶ企業からの求人がきている状況です。

少子高齢化の中で、科学技術創造立国を支える人づくりの重要性はますます高まっています。独立行政法人という厳しい枠組みの中で、これからの鹿児島高専の役割をどう果たしていくかについて、もっとも深く考え、そして行動していたのは中島先生でした。

5月11日の朝、学寮の当直明けに、先生はベッドの中でも膜下出血を起こされ、意識が回復されないまま帰らぬ人となりました。先生の訃報に接し、教職員、学生一同驚きと哀惜の念に堪えない次第です。

本校の次代のリーダーとして、これからの鹿児島高専を共に作っていかねばならないときに、本当に残念でなりません。

まだ55歳という若さであり、しっかりしたビジョンをもって行動される先生であっただけに、無念な思いであらうとお察しします。

ここに、謹んで先生の鹿児島高専へのご貢献に感謝の意を捧げますとともに、先生のご冥福をお祈り申し上げ弔辞といたします。

平成20年5月24日
鹿児島工業高等専門学校長 赤坂 裕

追悼の言葉

機械工学科長 江崎 秀司

機械工学科にとって本当に大事な先生を亡くしたものである。中島先生は教育研究に精力的に取り組むとともに、学校運営及び地域貢献の面でも多大の業績を残されるなど、その活動が大変アグレッシブであっただけに本当に残念でなりません。

学術研究の面では、ノズルなどの噴出口から勢いよく流出するような噴流分野において、流れを可視化するためのYAGレーザー、高速度カメラ及び高解像度カメラを早くから導入し、PIV解析やベクトルウェーブレット多重解像度解析など、最新のデジタル画像処理による流れの特性を解明する研究において、学会でも中心的活動をされ、多くの研究業績を残されている。

教育面においては、鹿児島高専専攻科に進学する学生を積極的に数多く受け入れ、懇切丁寧な研究指導を行うとともに、国際会議においても活発に学生を発表させる指導をされていた。その研究成果等が高く評価されて、これまでに多くの専攻科修了生を東京大学や九州工業大学などの大学院に推薦進学させる実績を作っられ、

専攻科における機械・電子システム工学専攻の充実に果たした役割は極めて大きい。

学校運営面では、急逝されるまで約3年間、機械工学科長を務めたほか、機械工学科の学級担任も合計で6年間務め、まずは学生を第一に考えて親身になって指導されることから、学生からの信頼は篤いものがあった。また、教務主事補及び学生主事補を8年間務められたのち、平成13年度には寮務主事に任じられ、薩摩の郷中教育に倣って、上級生が下級生を学習指導する学寮チュートリアルを導入し、低学年の学力向上に努力された。

地域活動においては、平成9年度から鹿児島県人材育成センター運営委員会委員を務められているほか、「風に向かって走る風力車」の製作キットを自主開発して、子供たちの理科離れを防ぐ「ものづくり理科教育」活動にも精力的に取り組まれていた。

最近では、鹿児島の地域特色を考慮した鹿児島大学農学部と鹿児島高専との教育連携を模索する新たな取り組みである農工連携にも努力されるなど、鹿児島高専機械工学科における先生の存在は非常に大きく、また本当にこれからという時でもあっただけに、急逝は返す返すも残念でならない。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌

中島正弘先生への約束

九州工業大学大学院 情報工学研究院
機械情報工学研究系 瀧脇 正樹

故中島正弘先生のご霊前に、謹んで哀悼の辞をささげます。

中島先生の講義を初めて受講したのは、三年生の材料力学でした。基礎科目から専門科目の講義が増えていく中で、機械工学の最も基礎である材料力学を丁寧に説明して頂いたのを鮮明に覚えています。後に、先生のご専門が流体力学と聞いて、大変驚きました。その翌年、先生は大阪大学に留学されていたために、次に講義を受講したのは、五年生のエネルギー変換工学でした。材料力学の基礎的な内容とは異なり、実現象を例に挙げ、説明されていたのを覚えています。就職を目前に控えた五年生ですから、企業での事例や実機を挙げて説明させていただいたのだと思います。高専時代には、先生の2つの講義を受講しただけであり、卒業研究を担当して頂いていないのですが、先生の工学に対する情熱を少なからず感じていました。

鹿児島高専を卒業後、九州工業大学情報工学部機械システム工学科に編入し、四年生になると流体力学を専門とする研究室に所属しました。流体力学に関する講演会

で、先生と再びお会いした際に、「これから全力で研究に励みなさい。」という言葉頂いたのを覚えています。その後、多くの国内の講演会や外国で開催された国際会議でお会いし、私の研究に対する貴重なアドバイスを頂きました。また、鹿児島高専－韓国海洋大学－九州工業大学のジョイントセミナーも開催して頂き、我々の研究室としても非常に貴重な経験をすることができました。

2006年9月には、ベルギー・ブリュッセルにあるvon Karman Institute for Fluid Dynamicsにご一緒させて頂き、流体機械に関する世界最先端の研究を聞くことができました（写真）。その後、一緒にドイツ・ゲッティンゲンに移動し、そこで開催された12th International Symposium on Flow Visualization に参加し、会議終了後の帰国前には、電車でリュウデスハイムへと移動し、先生お勤めの白ワインを飲みながら、今後の研究について熱く議論したことを覚えています。

今では、我々の研究室と共同研究という形で研究を行わせて頂き、高専の卒業研究のテーマとしても組み入れてもらっています。母校の学生達と共に実験し、ディスカッションすることが楽しみであり、このような環境を作って頂いた先生には大変感謝しています。

お会いする度に、鹿児島では焼酎を、外国ではビールやワインを飲みながら、流体力学について、また、教育者・研究者としてのあり方を教えて頂きました。また、歳が離れているにも関わらず、いつも兄弟のように接して頂き、暖かい言葉で励まして頂きました。その中で、いつも仰っていた言葉が、「アクティブに研究に励みなさい!」という言葉でした。先生から頂いたこのお言葉を胸に、今まで以上に努力し、教育・研究に励むことを先生に約束したいと思います。





平成20年度留学生活動報告 (1)

一般教科文系 あべ松伸二

日頃より留学生活動にご理解、ご協力くださり、誠に有難うございます。本年度は新たに2名の留學生が入学し、現在4名の留學生が在籍しております。以下に紹介致します。

- 3S ゴー・テー・ギア (ベトナム)
- 3I サイカー・カオヤン (ラオス)
- 4E リム・キムスルン (カンボジア)
- 5C ロナルド・チェンデラ (インドネシア)

次に、本年度前期の留学生活動を報告致します。

1) 学内

- ・月ごとの留学生会合、チューター会合
- ・日本語教師(清水先生)・留學生担当教員(3S福添先生、3I入江先生)・あべ松留學生統括員との会合
5/19(月)
- ・1年生との国際交流 7/9(水)、7/16(水)
- ・里親の会 7/22(火)

2) 霧島市内

- ・新霧島市国際交流協会設立総会(隼人町国際交流協会解散) 4/7(月)
- ・山下内科クリニックで抗体検査 5/20(火)、5/21(水)
- ・霧島警察署管内国際化対策協議会総会 6/18(水)
- ・富隈小児童クラブ小学生との交流 6/28(土)

3) 霧島市外

- ・各大学等の留學生担当者意見交換会(鹿児島市)
4/22(火)
- ・多国籍合宿(鹿屋市) 6/14(日)~15(日)
- ・ザカリア・ムスタファ国際交流員送別会(吹上町)
7/4(金)
- ・JICA(青年海外協力隊)研修会(3Iカオヤン君)
7/5(土)~6(日)
- ・留學生交流研究協議会(東京) 7/10(木)~11(金)
- ・ホームステイ(財部町・吉留様) 5/3(土)~5(月)
(知覧町・内園様) 7/19(土)~20(日)
8/28(木)~31(日)

留學生諸君が学内外を問わず諸行事に積極的に参加しております。後期においても様々な行事が開催される予定です。今後も専門分野の勉強だけでなく、諸行事を通して多くの方々との交流を深めて欲しいと切に思います。



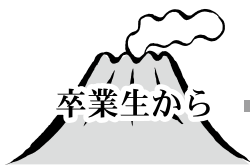
留学生活動報告



里親の会 平成20年7月22日(火)



2008新春・国際親善ナンコ大会 平成20年2月1日(金)
キム君、見事3位入賞!



高専を卒業して

九州工業大学 情報工学部
機械情報工学科 瀬戸口誠司

鹿児島高専を卒業して半年が経ちました。急に執筆依頼が来たので、何をかこうかと悩みましたが、高専時代の思い出と大学生活について書きたいと思います。

高専の5年間の生活で最も印象に残っているのは寮生活と高専祭です。

最初寮に入ったときは時間には縛られ、点呼はあったり、風呂はとても混んだり、あいさつ運動があったりと嫌なことばかりでした。しかし、クラスメイトととても仲良くなれました。いつも友達の部屋に集まって話をしたりトランプしたり漫画読んだりしてとても楽しかったです。またテスト期間は一緒に集まって勉強してお互い教えあって乗り切ることができました。私はペナルティーポイントが多すぎて1年で退寮してしまいましたがとても楽しい寮生活でした。

高専祭もとてもいい思い出です。私は4年の時応援団をしたかったのですがクラスのほとんどが応援団を希望したため私はしかたなく櫓絵の隊長をしました。ちなみに絵はルパン三世とF1を描きました。クラスのほとんどが応援団をしているので少ない人数で絵を描かなければいけませんでしたが、応援団をしているメンバーが練習を終えた後に手伝いに来てくれとても助かりました。高専祭はクラスの団結力が深まるいいイベントでした。

私は今大学に編入して勉強しています。大学に入った時すぐに友達ができるか不安でしたが編入生がたくさんいたのですぐに友達はできました。友達にはいつも鹿児島独特のイントネーションを馬鹿にされています(笑)。大学は高専と違って授業数が少なく暇な時間が増えます。その暇な時間をどう使うかが大学では重要だと思います。サークルや部活に入って活動したり、バイトをしたり、勉強したり、友達と遊んだりして時間を有効に使ったほうがいいと思います。自分もバレーボールのサークルに入って週に2回運動しています。サークルに入れば友達ももっとたくさんできると思います。

最後に就職した友達はみんな「学生のときが懐かしい」と言っているのでも学生の皆さんは悔いのない学生生活を送ってください。

卒業してから思うこと

電気電子工学科 第41期卒業生 西村 裕樹

鹿児島高専を卒業してから4ヶ月が過ぎました。毎日が充実していたせいか、こんなにも4ヶ月という月日を短く感じたことは今まで無かったような気がします。そんなときに高専だよりの執筆依頼を頂き、自分も鹿児島高専のOBになったのだなぁ…と改めて感じました。

5年という長い期間を高専の枠の中で過ごしていた私にとって、大学に入ってから生活というのは本当に新鮮でした。初めての1人暮らしや大学の講義はもちろんですが、新しくできる友達やサークル、研究活動、そしてその合間のバイトなど、忙しくも本当に楽しい毎日です。その中で私が再認識させられたことが、時間の使い方です。どんなに頑張っても1日24時間しか無いわけで、その中で自分がやりたいこと、やらなければいけないことを考えます。何を優先して何を我慢するか。これが本当に大事なことで痛感しました。今は、やらなければいけないことが多く、結果的にやりたいことの我慢も増えます。でも我慢ばかりでは楽しくは過ごせません。何事もメリハリが大事で、やるときはやる。遊ぶときは遊ぶ。これが毎日を充実させる一番の方法だと思います。高専時代、今くらいこのことを意識できていれば、高専生活はもっともっと充実していたと思います。やりたかったことも、あのときこうしておけば～と思うこともたくさんあります。でもふと振り返ったときに、そう思えることが成長なのかもしれません。とにかく、これからの大学生活を満喫したいと思います。

さて在校生の皆さん、皆さんは今何かに必死になっていますか？これだけは誰にも負けない！！と言えるものを持っていますか？何に必死になるかは自由です。勉強でも部活でも趣味でも何でもOKです。もし何も無いなら必死に遊べばいいと思います。ただしちゃんと単位は取ってくださいね。大事なことは一生懸命になること。結果はどうあれ何かに必死に取り組んだその過程は必ず自分の自信になり、成長につながると思います。私の場合それは部活でした。毎日の練習、合宿、試合、ミーティング…部活を通して学んだ多くのことは、今も自分のベースであり自信です。皆さん、早くそう思えるものをもてるように、何かに一生懸命打ち込んでください。メリハリのある毎日を過ごしてください。そして今しかない高専生活を満喫してください。在校生の皆さんのこれからの活躍と、鹿児島高専のさらなる発展を期待しています。

サービスエンジニアを目指して

電子制御工学科卒 野川 拓希

僕は、今年の春に電子制御工学科を卒業しました。現在は、日立メディコという会社で、医療機器を取り扱っています。僕は学生時代に部活動をしていて、怪我をすることが多く、よく病院のお世話になっていました。病院に通う内に医療に興味を持つようになり、今度は自分が、怪我をした人、病院の力になりたいと思い、この会社を選びました。

日立メディコは、レントゲン装置、MRI、超音波装置等を取り扱っています。病院にある自社の製品に不具合が生じていないか、定期的に点検を行ったり、病院から故障の連絡が入れば修理に向かいます。全国に営業所があり、僕は鹿児島で県内の病院を回っています。まだ始めたばかりで分からないことだらけですが、病院に足を運び、医療現場に近づくことが出来て、とてもやりがいを感じています。

会社には、大卒、院卒の人がほとんどです。僕は学生時代、あまり真面目に勉強をしていなかったこともあり、基本的な知識は劣っています。しかし、会社に入ってから必要とされる技術は、皆同じスタートラインです。逆に自分が22歳になった時、大卒の人の今より確実に仕事が出来るとわかったので、そういった面で高専卒は有利だと思います。

勉強が嫌だから就職する人、やりたいことが見つからないから進学する人、皆それぞれだと思います。正直、就職してからも毎日が勉強です。やりたい仕事が出来たら、就職するのもいいと思います。高専という狭い世界から抜け出し、もっと自分を見つめなおすために進学するのもいいと思います。それは最後は自分で決断しなければなりません。まだ何がしたいか分からないという人もたくさんいると思います。言ってしまうと、転職も出来るし、仕事を辞めてもう一度学校に通うことも出来るわけです。少し遠回りになってしまっても、最終的に自分に合ったことが出来ればそれが一番だと思います。ただ高専は就職に有利ということは、頭に入れておいてください。

部活動に燃える人、バイトを頑張る人、精一杯遊ぶ人。何を喜びと感じて、そのために何をするかは自分次第です。どれが正解ということはありません。喜びを感じられる生き方が出来れば、それでいいと思います。まずは、今を一生懸命に過ごしてみてください。いろんなことに興味を持ってください。そうすれば、自分のやりたいことも見つかるはずです。

学生から社会人へ

富士通株式会社 千知岩達也

振り返ってみると、5年間の高専生活はとても早く過ぎた気がします。入学したときの期待と不安が入り混じった気持ちがつい先日のように感じられます。

私は富士通株式会社に入社し、現在はSE新人研修を受けています。富士通のSE新人研修は11月までであり、とても長いです。それは配属されたら即戦力になってほしいとの思いが込められているからです。研修の始めの頃は「同僚には大学院卒も多くいて、高専卒である自分のスキルが通用するのか」と心配でした。しかし、実際には高専で習った知識や得た技術というものはかなり実用的で、十分通用するレベルでした。高専にいたときには分かりませんでした。実は高専の授業ではとても難しいことをやっていたと思います。ですので、皆さんも学生時代にがんばっておけば、会社に入ったときに楽だと思います。「どうせこんな知識使わないだろう」なんて思わず、勉強しておくことをお勧めします。

次に学生から社会人になって感じたことは「自由な時間が少ない」ということです。私はまだ研修中なのでそんなに時間に追われているとは言えませんが、学生時に比べると自由な時間は確実に減っています。例えば、学生の時は勉強が分からなくても、テスト前に一夜漬けして、結果的に単位が足りて進級できれば問題ありません。しかし、社会人になるとそんな考えは通用しません。分からないことは自分で学習していくことになり、その結果、自由な時間も減ることになります。皆さんは現在時間が余っていませんか？もしも余っているならその時間は有意義に使ってほしいと思います。今のうちに将来役立つ勉強をするのもいいでしょう。勉強が嫌な人は精一杯遊んでください。学生は遊ぶことも仕事です。宿題やレポートといったやるべきことを終わらせたあとは遊びまくってください。

いろいろと言ってきましたが、結局私が言いたいのは「悔いの無い高専生活を過ごす」ということです。人間である以上後悔しないことはおそらく無理でしょう。しかし、「やらないで後悔」することは「やって後悔」するよりずっと後悔します。ありきたりな言葉ですが、大事なことからこそよく言われているのだと思います。

どうか皆さん、悔いの無い高専生活を送ってください！

大学編入して

名古屋大学社会環境工学科3年 上三垣かおり

高専を卒業し、編入し、早半年が経ちました。入学前は新しい環境に上手く馴染めるか心配でしたが、実際に入ってみると、すぐに新しい友達もでき、意外にも普通に大学生活を開始していました。

講義に関しては、第一回目の講義でほとんどの内容が高専で習ったものと重複しているように思えた為、“これならなんとかやっていけるかも”と安心していました。しかし、そんな気持ちは最初のみで、板書を書き写すのに精一杯の講義もありました。ある科目は高専で2年間かけたものを2ヶ月弱で習い、講義内容の濃さに驚かされることもありました。大学は高専と比較すると、事の理論を学ぶことが多いのですが、同じようなシラバスであっても担当教官が変わるだけで教え方や例え方が変わり興味深く講義を受けています。

前期はコマ数が若干多く、自由な時間を上手く作れなかったため想像していたような大学生らしい大学生活は過ごせていないかもしれませんが、新しい土地で新しい知識が増えることや新しい体験が出来るのが楽しく、充実した日々を過ごしています。

大学編入したことにより、就職するまで2年、院へ進学すれば4年の時間が生まれました。この作り出した時間の間に、土木に少しでも関わっている仕事で自分の役立てる仕事を探し、その仕事に就くために最低限必要な基礎知識を身に付けたいと考えています。

高専での5年間を振り返ると友達・バイト・学業と有意義なものだったと思います。高専で編入する道を見つけられたからこそ今の自分がありますし、高専で基礎を学んでいたからこそ今の講義について行けているのだと思います。しかし、5年間もの間、同じ空間で教育を受けるとその環境に慣れすぎてしまい、物事の考え方が偏ってしまったり、他のことに目が向けられにくくなったりするとも考えます。なので、そのように頑固にならずに、バイトやサークルなどで色々な人と交流し、異文化に触れ、しっかり遊び、少しでも広い視野で後悔のない進路選択をして欲しいと思います。

専攻科を修了して

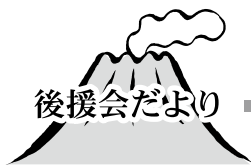
機械電子システム工学専攻卒 四郎園啓希

高専での生活も残り2ヶ月ほど、学位授与の小論文試験の準備が忙しい中この文章を書いています。本科での学生生活も含め高専に入学してすでに7年が過ぎようとしています。小学校の6年を超えるととても長い期間ではありましたが、あっという間に過ぎたように思います。この長い期間を過ごした高専を離れると思うと感慨深い思いでいっぱいです。

他の高校や大学に比べ忙しかったのかそうでなかったのかは分かりませんが、今までを振り返ってみると自分にとってはとても充実した学生生活だったと思います。専攻科の1年次は本科に比べ少人数で専門的な内容の濃い多くの講義を受けることができ、やはり本科での講義とは違うものだと感じました。また、夏季休業中にはインターンシップに参加しました。インターンシップを通して、少しではありましたが社会のことについて学ぶことができました。2年次は講義の時間は少なくなり、代わりに特別研究に従事する時間が多くなりました。そのため特別研究に集中することができ、また、自己学習に割り当てるなど時間の使い方は自分で決めなければなりませんでした。このおかげで自主性を育てることができたと思います。また、学会発表、大学院試験など重要な行事が多くあり、多忙ではありましたがとても充実した学生生活を送ることができました。また、クラスの仲間たちとキャンプに行ったり、高専祭では露店を出店したりしたことなどもいい思い出となっています。

そんな高専での学生生活も残り僅かで終わろうとしています。専攻科終了後、私は大学院へ進学する予定です。高専での経験を生かすことができれば、来年からの大学院での学生生活もとても充実したものになると思います。

文章が支離滅裂になってしまいましたが最後にこの場を借りて一言。高専でご指導いただいた先生方、そして、ともに学生生活を過ごした専攻科の仲間たちには本当に感謝しています。本当にありがとうございました。



後援会費について

後援会会長 花田 義隆

本高専の後援会予算は、各年度により多少の増減はありますが、学生諸君の活動費等の補助として大変有効に活用されております。

内容としては、文化系クラブで主に全国英語プレゼンテーションコンテスト・ブラスバンド部県内各地施設訪問・ロボットコンテスト・プログラミングコンテスト・エコノパワー燃費競技大会等に、また体育系クラブで陸上・テニス・サッカー・ソフトテニス・野球・バスケット・バレーボール・水泳・卓球・剣道・弓道等の大会に活用されます。

文化系では特にロボットコンテストがテレビ放映され、全国の高専のなかでも有名になっており、また体育系ではテニス部、陸上部、サッカー部、ソフトテニス部などの活躍が目を見せます。このことは鹿児島高専の教育理念とも言える「技術者として要求される技術や知識の教育に加えて、学生の人間的な素養の涵養をはかり、リーダーシップ、協調性、自主性を育てる」ことで、世界の舞台で活躍できる人材を育み送り出そうとする素晴らしいものであります。

ロボットコンテストやエコノパワー燃費競技大会、全国高専体育大会等での活躍が我が鹿児島高専の活性化を図り、もって県内各地の中学生らが鹿児島高専を目指してやってくるのです。平成20年度の九州沖縄地区高専体育大会も無事に終了し陸上部の12種目やソフトテニス部（男女共）の出場を皮切りに、水泳部の3種目、テニス部（男子）、サッカー部なども優秀な成績をあげ、全国高専体育大会に出場することが決定いたしました。今年は例年以上の全国大会出場が決定し、後援会としては非常にうれしい半面予算の心配をしなければならなくなりました。今年度このようなうれしい悲鳴を上げなければならなくなった理由は、2年前から鹿児島高専が取り組んできた「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」による「学外指導者登用」の効果が顕著に現れてきたものであります。現在バスケット部を始めとして卓球部、陸上競技部、弓道部、水泳部、ソフトテニス部、合気道部、極真空手部、少林拳部、硬式野球部、ブラスバンド部、バドミントン部、テニス部、ハンドボール部、英語部の各部活に合計19名の学外指導者を招聘し、各部活の指導に積極的に関わっていただいております。今後この取組について各部活の先生方や関係者の方々の意見を、クラブ活動への意欲、技術的な指導、技術面・体力面の向上、クラブ活動の安全面、学外指導者の安全面への配慮の各項目に取り纏め調査してみましたところ、75%から80%の高い確率で評価・支持していただきました。さらに鹿児島高専の先生方のクラブ活動指導上の課

題解決への効果という観点及び学外指導者登用に関する意識の変容という観点から、教員のクラブ活動指導への対応、クラブ活動指導の負担軽減、学外指導者登用の必要性学外指導者の有効性という項目についても調査してみました。このような結果をふまえ後援会としても積極的なバックアップ体制を築いていかなければならないことが必要とされます。いまからのち少子高齢化を迎え今までと同じように鹿児島高専の発展を考えると、学校の活性化（元気良さ）にあっては、たくさんの部活動が活気をおび、内外に知らしめる活躍の場があり、リーダーシップをとれる優秀な人材を送り出し、県内外からたくさんの新たな学生を集めることだと考えます。

以上のように「今まさに鹿児島高専の更なる発展の時期」ととらえ、後援会の皆様には来年以降新たな負担をお願いする事になるかもしれませんが、現状をご理解いただき今まで以上に後援会活動にご理解とご協力を賜りますよう宜しく御願い申し上げます。

※ 文中「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム～学外指導者登用の効果～」報告書より引用した部分があります。

授業参観を終えて

機械工学科3年理事 茶園かおり

去年は、保護者の願いむなしく、二年生の授業参観は実施されませんでした。

今年は、六月十一日に、三学年同時の授業参観が実施されました。

当日は、あいにくの雨模様。参加者が減るのでは？と心配されましたが、大勢の方が参加してくださいました。

体育館での全体懇談会では、単位取得や学校の概要、学生生活、寮生活について話がありました。服をたたんで片付けられない学生がいること、一部の学生による盗難があることに、少々不安を覚えました。

授業参観は、自由見学でした。校内をあちこち見学される方、ご子息の授業をずっと見学される方等様々でした。校長先生も、各教室を見学されていました。高専だけあって、授業内容は難しいものでした。睡眠学習している学生も居ましたが、殆どの学生は、熱心に耳を傾けていました。

学年懇談会は、会場を広い場所に変更しましたが、それでも入りきれない程の方が参加してくださいました。

近年の進級状況、単位取得等について話されました。

忙しい中、三年部の先生方が、事前打ち合せ、資料の準備をしてくださったことに感謝します。三年部の担任は、情熱を持った若手ばかりなので、これからの指導と学生の変化が楽しみです。

クラス懇談会では、クラスの様子、進級規定、就職や進学について話されました。

機械工学科は、一年おきに三年生での留年が多い年がくる傾向があり、今年は多い年に当たるので、そのジンを払拭したいと話され、親として緊張感を感じました。

三年時から、就職か進学かをきちんと考え、その目標に向かって行くことも励まされました。いざその時になってからでは遅いのです。

三年は、中堅で勝負どころの学年です。学科の先生方も、クラス全員の進級を望んで取り組んでくださっていますので、親として、子どもとしっかりコミュニケーションをとりながら、この一年を過ごしたいと思います。

今後とも、学生の指導をよろしくお願いします。

最後になりましたが、雨の中、授業参観、懇談会に足を運んでくださった保護者の皆様の努力と協力に感謝します。本当にありがとうございました。

授業参観に参加して

機械工学科 3 年 保護者 森 義彦

二週間振りに休暇となり下船。明日息子の「授業参観」があるからと、妻に誘われ夫婦で参加させて頂きました。仕事柄、子育てや学校行事、地域の交流など、全て妻任せの船乗り稼業でございます。子育てもあとわずかな年月。寮生活や授業風景、部活動など親として興味の湧くところでございます。当日は生憎と、天気には恵まれませんでした。片道二時間の道程も苦にならず高専の門をくぐりました。平日にもかかわらず、思った以上の保護者の参加に内心びっくり致しました。クラス単位でお弁当を食べながらの、ざっくばらんな昼食会。場慣れしていないので少々緊張気味でしたが、世話役の方の気さくな声かけに、いつの間にかリラックスモード。いろいろな地域から参加されており、お互い顔を拝顔しながらの昼食会となりました。今後のコミュニケーション作りにも良い企画だなと感じました。また、その後の全体懇談会では、学校の状況や進級問題、就職状況や寮生活の話等、保護者が知りたい情報を説明して頂きました。この懇談会を通じて、理解が少し深まった気がします。さて、いよいよ三年機械工学科「物理」の授業参観です。既に授業は始まっており、ホワイトボードには難しそうな

計算式が書いてありました。生徒の皆さんは真剣に授業を受けておりましたが、参観している保護者の方は、頭が少々オーバーヒート気味です。その後のクラス懇談会では「クラス全員で進級していきたい」と担任の先生からお話がありました。ちゃんと授業について行けるか、進級できるのかと、保護者として一番心配するところです。久しぶりに再会した息子を交え、夕食を摂りながら、近況や懇談会の話など致しました。機会があれば今後も夫婦二人で参加したいと思います。最後になりましたが、先生方を始め当日お世話頂きました後援会の皆様方に感謝致します。

授業参観について

情報工学科 1 年 理事 新村 節子

入学式から 2 ヶ月半たった 6 月 11 日に授業参観が実施されました。この日は大雨だったにもかかわらず、ほとんどの保護者の方が参加していらっしゃいました。

学生の授業の様子も小・中学校時代とは違い、親の前でとても恥ずかしそうに授業を受けていました。

全体懇談会では、藤崎先生が楽しい口調で説明してくださいました。しかし、自分の高校時代とはまったく違って、別世界のような事ばかりでまだ半分も理解できていません。担任の先生も忙しい中、朝早くから個別懇談会を設けてくださり感謝しております。

保護者の方も、この授業参観に参加されて安心されたのではないのでしょうか。

— 授業参観を終えて —

1 年 保護者

「お母さん、もう大丈夫だよ！」と 4 月の入寮日の午後にあっさり息子に言われて以来、週末に時々顔を見せに帰って来てはいても口数の少ない我が子は「どんな寮生活をしているのだろう。」「クラスや学校の雰囲気には馴染んだらうか。」「部活は?」「病気は?」・・・などと心配しながら約 2 ヶ月が経ち、学内での様子を見られる初めての機会、授業参観の日がやってきた。

当日の朝、時折激しい雨が打ち付ける中、クラスの 9 割ちか保護者の方が出席されており、ご家族お二人の参加が多いのも印象的でした。

高専入学をきっかけに、息子がこんなに早い年齢で寮生活をするとは考えてもいなかった私は、戸惑うばかり。

しかし、今回の懇談会で寮務主事や担任の先生から「ほとんどの学生さんは、既に寮生活・学校生活には慣れていますよ。」とのこと。少し安心いたしました。

一方「学生は単位修得や進級についての心配や不安の方が、今はあるようだ。」とお聞きし、私たち保護者にも単位履修について学年主任や担任の先生から説明して頂けたことは、とてもよかったと思います。確かに全体会・学年・学級懇談と重複することもあったのですが、高専の特殊性を考えると、大学や高等学校とも違い、簡単に説明を受けただけではわかりにくいところがあり、学年末に成績表を見て理解する上でも役立つお話でした。

授業参観の後半、学生課のご協力を得て学内を案内して頂きました。他のクラスの授業・校内・上級生の様子などを初めて目にしたのですが、学習態度及び校内は、伸び伸びとした雰囲気でありながら、落ち着いた穏やかな様子をうかがい知ることができました。雨上がりの中庭は、新緑も鮮やかで美しく「木々の多いこの静かな環境で子ども達は学習できるのだな。」と思うと同時に、息子が体験入学後「高専に行きたい!」と言った理由の一つに、この高専独特の校風に惹かれたのではないかと感じました。

丁度、社会を震撼させたあの秋葉原事件から間もない参観でした。事件の背景には様々な事由があるようですが、勘案しますと、この高専での5年間の過ごし方如何も、子どもの将来を大きく左右する時期だと思わずにはいられない事件でした。子ども自身が友人・先生方・家族・そして多くの人に支えられていることを理解できる年齢になった今、入学式の日には電気電子科の何人もの先生方が「家庭との連絡を密」に、と言って下さったありがたい言葉を思い出し、子ども達がここ高専で学び得る多くの学習・体験から学力のみならず人として心身共にさらに逞しく成長してくれることを改めて願う一日となりました。

最後に、このような授業参観は3年ほど前から始まったとお聞きしています。今年の実省を踏まえて、今後も諸先生方、後援会の上学年の理事の方々のお力添えを頂きながら、より充実した参観が継続されることを希望しております。



平成20年度授業参観 アンケート（1年生）

参加者170名

1. 日程について

① 3学年同時開催はいかがでしたか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
問題ない	21	25	24	23	14	107
別々がよい	0	0	1	2	0	3
その他	0	0	1	0	0	1
	21	25	26	25	14	111

○理由・その他○

- ・学年懇談会だけでよいのでは？
- ・誰についていけばよいか分からなかった。

② 実施時期についてはいかがでしたか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
今頃でよい	21	19	24	20	14	98
他の時期がいい	0	4	0	4	0	8
その他	0	2	2	1	0	5
	21	25	26	25	14	111

○理由・その他○

- ・5月がよい（3名）
- ・時期は6月でいいと思いますが、月末月初は忙しいので中旬にしてほしい。
- ・曜日を金曜日にしていただけたら子供と一緒に帰省ができた。（2名）
- ・雨のあまり降らない時期に是非。梅雨前の時期にでも。（3名）
- ・秋頃がよい。梅雨や暑い時期を避けて欲しい。（2名）

2. 全体懇談会について

① 全体懇談会は必要だと思いますか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	17	13	20	16	11	77
不要	3	7	5	8	2	25
その他	1	5	1	1	1	9
	21	25	26	25	14	111

○理由・その他○

- ・学年懇談会と重なる部分が多い。どちらか一方でよいと思う（10名）
- ・今後（2、3年生時）どのようなことに気を配ればいいのか予定等も分かるので。（2名）
- ・進級のこと、全体のことを知ることができるので。
- ・学校の様子や寮の情報が分かりよかったと思います。（4名）
- ・人数が多すぎて広すぎる。

- ・学校全体の様子も聞いてみたいと思いました。
- ・情報が欲しい（2、3年、その先についても）
- ・他学年の情報（語学研修のことなど）が分かってよかった。（2名）
- ・入学式の内容と大体一緒であり、新しい情報は学年のほうで得られるから。
- ・学内や他の学年の授業の様子を見る時間に当てて欲しい。又は個人面談の時間に当てて欲しい。

② 全体懇談会で取り上げて欲しかった事項

3. 学年懇談会について

① 学年懇談会は必要だと思いますか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	20	21	23	24	12	100
不要	1	1	2	0	1	5
その他	0	3	1	1	1	6
	21	25	26	25	14	111

○理由・その他○

- ・子供の様子が少しだけ分かった。
- ・はじめての懇談会なので、学習面・生活面等の報告があつてよかった。
- ・単位等の説明も良かった。（2名）
- ・学生たちの現状、及び寮生活の様子などが聞けてよかった。（4名）
- ・進級の内容など。
- ・1年生なので色々な情報はたくさん聞きたいので。（2名）
- ・寮生活など色々知りたいです。
- ・1学年において分からないことや行事等の説明はまとめて行っても良いと思います。
- ・クラス懇談会で同じ内容を詳しく聞きたいので。
- ・親の注意しておくべきことを漏らさず知っておきたい。
- ・成績表の見方などとても勉強になりました。（2名）
- ・他の高校とはかなり異なるので分かりやすかったので。
- ・クラスだけで十分だと思う。
- ・興味のあることを詳しくお聞きできて良かったので。

② 学年懇談会で取り上げて欲しかった事項

- ・今後の行事についてなど。

4. クラス懇談会について

① クラス懇談会で取り上げて欲しかった事項

- ・全体学年懇談会での話をまとめてして下さると時間短縮になって助かります。

- ・担任の先生がクラスの子供たちのことをとても気にかけてくださっていることが分かりありがたいと思いました。
- ・寮やクラスの様子を詳しく聞かせて頂きとても安心しました。ありがとうございました。
- ・子供たちの様子を色々聞いて安心しました。実際我が子はどうかかと心配。予想通りほとんど連絡なし。戻ってきません。
- ・クラス懇談会後の先生との面談は事前申込制にしたほうがよくないですか？
- ・いろいろお聞きできてとても良かったです。
- ・クラスの状態、子供の様子

5. 授業参観について

① 授業参観をされて感じたこと

- ・もう少し授業の内容が見たかった。(M)
- ・初めての授業参観で楽しみにしておりましたが、途中で子供たちがそれぞれの指定された場所へ行ってしまう、残された保護者は
 どういう動きをして良いのか分からなかった。後から学校内を案内してくださいましたが、子供たちの授業が見たかったです。
- ・他の授業も自由に見学することができて良かったです。
- ・我が子の授業が見学できず少し残念でした。一般科目のほうが良かったかなと思いました。
- ・授業が見れなくて残念でした。でも授業参観はいらないと思います。
- ・学生の自由な雰囲気が感じられたが、思っていたよりもまじめで安心した。
- ・久しぶりの授業参観で緊張した顔を見ました。
- ・テスト返しでしたので通常の授業を見たかったです。
- ・自由な雰囲気の中での授業だなと感じた。
- ・子供たちも熱心に静かに授業を受けていて良かったです。
- ・普段離れているので授業参観見れて良かったです。(13名)
- ・思ったよりまじめに勉強していたが、中には眠っている子もいて残念。
- ・姿勢がみな悪い。
- ・子供の様子がよく分かりました。
- ・国語の授業でしたが、みな真剣に聞いている姿に感じました。(最初1人寝ているようでしたが、後から起きていました)
- ・漢字が読めない学生には驚きましたが、我が子も…残念です。(C)
- ・静かな授業でした。

② 今後の授業参観ではどのような授業を参観したいですか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
上級生の専門科目	2	5	7	6	0	20
実験・実習	10	17	16	19	7	69
卒業研究	0	3	1	1	0	5
その他	1	0	0	1	1	3
	13	25	24	27	8	97

○理由・その他○

- ・一般科目の授業
- ・専門科目の授業
- ・1年生の他の学科の教室

6. 学校に対する要望

- ・何の心配もしておりません。学校、寮に育てていただいていると安心しております。今後の生活は社会に出てきっと役に立つと思います。よろしくお願い致します。
- ・ほとんど子供からも情報が入らず、帰省もしないのでもっと学校の様子、部活動の様子も知りたいです。ホームページをもっと充実していただけたら。せめて試合日程や結果などでも。
- ・寮の様子をもっと分かるといいのですが。(2名)
- ・部活に入っていますが、大会等の日程の情報などが分からない。
- ・学生生活、寮生活について新聞等あったらよいと思いました。
- ・寮の状況を知るためにも部屋の見学を予定してもらいたい。(4名)
- ・寮の窓掃除をさせて欲しいと思います。何年分もの汚れがついていてまったく外が見えず驚きました。不衛生です。
- ・寮の洗濯機の清掃を保つために清掃等を月1回くらいはしてほしいと思いました。最初(入寮時)見ましたがすごく不潔に感じました。
 また、子供の洗濯物に返ってしみが付いているものもありました。
- ・寮、建物の耐震郷土は基準を満たしているのかお知らせください。
- ・自由な校風なのは分かりますが、あまりにもだらしない格好の子供さんがいてビックリします。(ピアスや髪型)1年生によい影響を与えないのではと思います。
- ・長期休暇前後の入寮・出寮の日が(火)や(水)等平日になっているようですが、学校の都合だとは思いますが、かってとは思うものの(土)、(日)あたりでしたらとてもありがたいのですが…(荷物の出し入れだけでも)
- ・学校便り等定期的に発行されているのでしょうか？

ちょっとした情報でも伝えていただける手段としてお願いできればと思います。

- 1年生なので制服の開衿シャツがどこに売っているのか知らないで教えて欲しいです。
- 月1回でもいいのでクラス便り（学校の様子等、担任から一言）を発行して欲しいです。

7. 後援会に対する要望

- お世話になっております。これからよろしくお願いいたします。（2名）
- 迷路のような学校内が見れてとても良かったです。実習見てみたいです。
- 偶然隣になったクラスの保護者の方と話ができたのが今日一番の収穫でした。多人数で懇談会より。
- またこのような機会をもうけてほしい。
- 今日の出欠の連絡を電話でしようと思ったのですがなかなか通じなかったので手紙で郵送しました。常にいらっしゃるのではなかったのですね…。
- この出席の電話を差し上げたとき丁寧に対応してくださりありがとうございました。
- 今回出席のメールを送ったところすぐに対応していただきました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

平成20年度授業参観 アンケート（2年生）

参加者105名

1. 日程について

① 3学年同時開催はいかがでしたか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
問題ない	19	23	16	15	15	88
別々がよい	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0
	20	23	16	15	15	89

○理由・その他○

- 3学年同時は特に無いが、全大会で出できれば1学年を別けなくてもよいのでは。（いろいろな意味での配慮が欲しい）
- 他の学年や科の授業参観もできて楽しかったです。
- 昨年は1年と3年在学していたので、1年の参観だけいたしました。
- ネームが色分けされていて分かりやすかった。
- 特に問題はなかったのですが、昼食時間が暑かったです。

② 実施時期についてはいかがでしたか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
今頃でよい	18	18	12	14	15	77
他の時期がいい	1	4	4	1	0	10
その他	1	1	0	0	0	2
	20	23	16	15	15	89

○理由・その他○

- できれば金曜日がよい。遠距離で親と一緒に帰宅できるため（4名）
- 5月末頃。梅雨の時期で蒸し暑かった。（3名）
- 6月下旬頃。中間テストの結果が出てからがよい。
- 10月頃。蒸し暑かった。涼しくなってからが良い。テストの解答が終わった後がいい。
- 日曜日にしてほしい。出席者が増える。

2. 全体懇談会について

① 全体懇談会は必要だと思いますか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	15	15	14	13	14	71
不要	2	1	2	1	1	7
その他	3	7	0	1	0	11
	20	23	16	15	15	89

○理由・その他○

- 1年生は必要かと思いますが、2－3年生は不要な気がします。
- 上下の学年等学校全体のことが分かるので必要だと思います。

います。

- 全体的な連絡事項などがあるので必要だと思う。
- 学校全体のことが知りたい（聞ける）ので。（5名）
- 普段親の方とのふれあいが少ないため。多くの方を見て心強い。
- 教務主事、学生主事、寮務主事の方のお話が聞けて大変良かったです。
- クラスごとでよいと思います。
- 入学式以外では全体で集まることがないので、総体的な事を聞きたいので。
- 全体か学年のどちらかでもあると、色々な情報が得られて良いと思います。
- 各先生方の話が聞けてよかったです。情報が少ないので必要です。
- 他学年で問題になっていることがあるなら知りたい。

② 全体懇談会で取り上げて欲しかった事項

- 大学進学した学生の進路と就職先。

3. 学年懇談会について

① 学年懇談会は必要だと思いますか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必 要	7	12	6	6	6	37
不 要	5	8	5	2	6	26
その他	8	3	5	7	3	26
	20	23	16	15	15	89

○理由・その他○

- 他の学科の方と顔を合わせる機会があったほうがよい。
- 寮に入っていたり、口数が少ないので情報を提供して欲しい。
- 2年では特に必要ないが、1・3年生では必要だと思う。
- その時間をクラス懇談会（個人）に当てたほうが良い。（2名）
- 同じ中学からこられた方となかなかお話できないので。（学科が違うため）
- 最近の近況情報が欲しい。
- 全体とクラスで補えると思います。（2名）
- 進級について詳しく理解できました
- 他の高校のように学期に一回程度集まる機会が無いので、あったほうが良い。
- 学年の情報を知りたい。
- 先生の話が聞けてよかったです。ありがとうございます。

② 学年懇談会で取り上げて欲しかった事項

- 各学科それぞれ『今やってること、取り組んでいるこ

と』等教えていただければもっと有意義になると思います。

- 個人面談もしていただきたい。

4. クラス懇談会について

① クラス懇談会で取り上げて欲しかった事項

- 今回は副担任の先生のお話で違った方向からの視点での指導は参考になりました。教科の先生からの話を聞くことも参考になるのではないのでしょうか？（M）
- 子供のこと、学校のこととても分かりやすく心あるお話に感謝。（M）
- 楽しい会の進行でいろいろなことを教えていただきました。ありがとうございました。（M）
- クラス全体ではなく個々の学校での様子や授業態度など。（S）
- クラス内のことがとても分かり不安や安心が入り混じった感じです。参加できて本と良かったです。（S）
- クラス懇談会前の各部屋の掃除の様子を見て安心しました。（元気盛りですので散らかしても片付けることが大切）（C）

5. 授業参観について

① 授業参観をされて感じたこと

- 授業中の無駄話がおしゃべりが多かったことにビックリしました。（M）
- 普通科目の授業だったからか、半分くらいはまともに聞いていないようでした。（M）
- 前の席の学生はしっかり授業を受けていたが後ろの席はずっとおしゃべりしていたので残念でした。（M 3名）
- もう少し真面目に聞く態度が必要だと感じた（我が子）。（M）
- 2クラスの授業で板書がされてあるため進行が早いと先生がおっしゃっていたのですが、子供たちは理解できたのかな？（M）
- 2クラス合同での授業でしたが、静かに受けている姿は成長したなと思いました。（M）
- 堂々と顔を机につけて眠っている学生がいて正直驚いた。他の学生は真面目に受けていた。（E）
- 自分の子供の教室は入っていったが、他のクラスで入っていきにくい雰囲気もあった。（E）
- 授業中私語をしても注意しないし、眠っている子に対しては注意しない先生に対して少しビックリしました。親がいたから注意しなかったのかな？子供が悪いけど、一言注意が欲しかったです。（E）
- 授業態度が悪い子が多数見受けられたのが残念です。寝ていた子もいました。（E）

- ・真面目に聞いているが今日だけなのか？各教室父兄方の理解があり、見学できてよかった（Ｓ）
- ・「テストの見直し」だったので少し残念でした。発表したり黒板に書いたりするところがあればもっと楽しかったです。（Ｓ）
- ・先生が一方的に話をしていて授業を進めるのではなく、子供の発表や意見など聞ける授業が見たい。（Ｓ）
- ・他の科の授業も見れて良かった。（Ｓ）
- ・ＬＬ教室だったのでとても静かに授業を受けていましたが、姿勢の少し悪い子もいたと思います。（Ｉ）
- ・真面目に授業を受けているのが分かり安心しました。見られているというのがあるかもしれませんが。（Ｉ ５名）
- ・楽しい授業が見られて良かったです。
- ・学生がおとなしい。活気がないと思いました。（Ｉ）
- ・授業態度が学年があがることに悪く感じられます。（３年まで）真剣に聞いて欲しいものです。（Ｃ）
- ・良かったです。このような機会はあったほうがいいです。（Ｃ）

②今後の授業参観ではどのような授業を参観したいですか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
上級生の専門科目	4	4	5	1	4	18
実験・実習	11	13	10	8	5	47
卒業研究	4	3	2	0	2	11
その他	3	0	1	0	0	4
	22	20	18	9	11	80

○理由・その他○

- ・英語（ＬＬ）の授業（３名）
- ・専門科目（自分の子供のクラス）

6. 学校に対する要望

- ・寮生活２年目ですが、寮でどのような生活をしているのか？たまには寮内見学もあれば良いのと思います。（３名）入学式当日に部屋に入っただけですので…
- ・今年度寮に入れなかったのですが、寮に空きがあると聞きました。入寮希望者が多いとも聞いているので、せっかくですから考慮して頂ければと思います。
- ・上級生になるにつれて進学や就職などの状況などの情報が欲しいかと思います。
- ・学校生活、寮生活の情報を保護者に知らせてください。寮より体調不良が多かったことのお便りがきましたが、そんな感じでしていただけるとありがたいです。
- ・寮生活の実態が分からないので個別に何かあったら連絡が欲しいです。個人面談で減点があることを知りました。分かっていたら改善するように注意したいので

こまめに知りたいです。

- ・進級（勉強）、就職について。（２名）
- ・寮の食事改善。
- ・もっと学校へ足を運ぶ機会がほしいです。（特に寮生なものですから）
- ・もう少し身なりをきちんとして欲しい。
- ・携帯サイトでＨＰがあれば台風で休校など分かりやすいと思います。
- ・専門科目で年々難しくなり進級が心配です。子供にやる気を持たせ見捨てることのないようサポートよろしくお願いします。せっかく入学できたのに卒業できなくなるのは残念です。

7. 後援会に対する要望

- ・いろいろな準備等大変だったと思います。お世話になりました。ありがとうございます。
- ・理事がクラスの父兄を案内する事にちょっと無理な面も…。
- ・このような場をありがとうございます。
- ・今日はいろいろなところを見学させていただき、去年これなかったので今回いろんな場所が分かったことが嬉しかったです。
- ・２－Ｃの折田さん２年間ありがとうございました。またしていただけたら嬉しいのですが…。
- ・お世話くださいました役員の皆様、ご苦労様でした。子供の情報だけでは不安ですので、このような会は続けて頂きたいです。クラス別の会食は情報交換ができよかったと思います。
- ・後援会便りなど兄弟でいるところは１冊でよいかと思えます。

平成20年度授業参観 アンケート（3年生）

参加者124名

1. 日程について

① 3学年同時開催はいかがでしたか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
問題ない	20	16	22	16	15	89
別々がよい	2	1	1	1	1	6
その他	0	0	0	0	1	1
	22	17	23	17	17	96

○理由・その他○

- ・全体懇談会の内容を学年懇談会に入れて学年別でした方が学年別の問題点などの報告もできてよいかと思ひます。
- ・兄弟がいるので…（3名）

② 実施時期についてはいかがでしたか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
今頃でよい	17	16	20	17	14	84
他の時期がいい	5	0	1	0	3	9
その他	0	1	2	0	0	3
	22	17	23	17	17	96

○理由・その他○

- ・5月or11月。梅雨時期は何かと心配が多い。
- ・テスト結果が分かる時期。（3名）
- ・5月頃。梅雨時期は道路のがけ崩れが心配です。梅雨は避けて欲しい。（2名）
- ・できれば金曜日が良い。帰省する際一緒に連れて帰れる。（2名）

2. 全体懇談会について

① 全体懇談会は必要だと思いますか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	17	12	15	11	11	66
不要	4	4	6	5	3	22
その他	1	1	2	1	3	8
	22	17	23	17	17	96

○理由・その他○

- ・学校の取り組み方（状況等）案内の様子等全体的なことが分かるから。（6名）
- ・学校全体のスケジュール公表、情報。（2名）
- ・年1回ぐらいは学校の様子を知る機会があったらよいと思う。
- ・よく分からない。
- ・学年懇談会をじっくりしたほうがよい。（4名）
- ・クラス懇談会でも良かったのでは？特に寮に関するこ

とは子供が入寮していないと意味無い。

- ・不要とは失礼ですが、内容的には他の手段でも知り得るのでクラス懇談会後の個人面談に時間を使えるかなと思いました。（2名）
- ・時間がもったいないので不要だと思います。学年懇談会やクラス懇談会に時間を振り分けたほうが良いのではと思います。

② 全体懇談会で取り上げて欲しかった事項

- ・寮生の保護者だけの話し合いの機会がほしいと思いました。

3. 学年懇談会について

① 学年懇談会は必要だと思いますか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
必要	17	16	18	16	16	83
不要	5	1	3	1	1	11
その他	0	0	2	0	0	2
	22	17	23	17	17	96

○理由・その他○

- ・とても分かりやすく有意義だったと思います。
- ・学年の統一が図れる。
- ・クラス懇談会で十分補える。（5名）
- ・親が問題意識を持つ意味で3年という学年が大事だと言うことがわかりました。（2名）
- ・学年で大事なことが分かる。（2名）
- ・進級のことなど分かりやすかった。
- ・単位の説明があったが、1年生のときからしなければ遅い。
- ・学年の特徴が分かるので必要だと思う。
- ・保護者の意識付けに。
- ・学年ごとの問題もあると思いますので。
- ・特に大切な3年生と言うことで必要だと思います。その他も保護者の方とも話ができてよかったです。
- ・学年によって聞きたい内容も違うと思いますので。（2名）
- ・3年次は特に進路の話など聞きたかったので良かった。（2名）
- ・学年の集まりで単位取得の話を聞き、クラスの集まりで情報化の場合はちょっと違って…とまた単位の話を聞いたので学科ごとに違うのなら始めからクラスの時だけ聞いたほうが良いと感じました。
- ・クラス懇談会の時間を長くしたほうが良い。（2名）
- ・各科目で話をされる内容と同じなので余り必要ないと思います。各科目で詳しく教えていただいたほうが良いです。
- ・クラスのことが分かる。
- ・特に大事な学年なので留年・退学の状況を聞くことは

必要です。

② 学年懇談会で取り上げて欲しかった事項

- ・麻疹、風疹予防接種は医療機関に来校してもらって集団接種の方法では検討できませんか？部活等をしていると時間が無かったりしますので…
- ・進路について。

4. クラス懇談会について

① クラス懇談会で取り上げて欲しかった事項

- ・先生の話がとても丁寧で分かりやすくたくさん情報が得られました。(M 2名)
- ・現在の状況、進路について。(E)
- ・個人面談がありがたかった (E)
- ・クラスの実情が良く分かってよかったです。(I 3名)
- ・高専は普通高校と異なる部分があり進路についても知りたい部分でした。(I)
- ・5年間同じクラスなのでもっと他の保護者の方との交流が持てればなと思いました。(C)
- ・個人面談の時間が欲しかった (C)
- ・ほとんど取り上げていただきましたので満足しました。(C)

5. 授業参観について

① 授業参観をされて感じたこと

- ・真面目に取り組んでいる様子が見ることができてよかったです。(M)
- ・難しい授業を受けているが、どれくらい理解できているのだろうと感じました。授業についていけるのかと心配になります。(M)
- ・さすがに高専の授業だけあって難しいです。子供の態度を見るのがやっとでした。(M)
- ・真面目に受けている子供と居眠りやおしゃべりをしている子がいて授業態度に開きがあるなと思いました。(M)
- ・1年に1回はあったらうれしいです。(M)
- ・先生と生徒の意見交換が全く無いのでビックリしました (E)
- ・真面目に取り組んでいた (E 2名)
- ・先生が授業参観があることをご存じなかったようですか？ (E)
- ・実験棟で先輩 (4年、5年生) の実体験を聞けてよかった。(E 3名)
- ・国語の授業だったのですが、楽しそうに授業を受けていたように思います。少し私語も多かったかな？ (学生同士の) (E)
- ・1年の頃と比べて少しは真剣さが伝わった授業でした。実験教室や卒業研究の先輩方がしっかりしていて

安心しました。(E)

- ・3年生は大変だと思いました。(E)
- ・かねての様子の一編が見られた。(E)
- ・楽しくサッカー、バスケ、バレーをしていました。(S)
- ・子供の学校での様子が見れて安心した。(S)
- ・体育も良かったのですが、できれば授業中の様子を見たかったです。(S)
- ・思ったより多い参加者がいた。(S)
- ・体育の授業参観だったので余り良くなかった。自分の子供が何の競技をしているのか分からなかった。(S)
- ・専門科目の授業を参観したいです。(S 2名)
- ・元気でした。(S)
- ・とても熱心に授業を聴いていました (I)
- ・静かに授業を受けていて安心しました。(I)
- ・引率してくださった松田先生ありがとうございました。助かりました。(I)
- ・先生のお話がとても重要でありました。いつも学校に預けっぱなしであり、子供の姿が分かり嬉しかったです。(I)
- ・今回体育だったもののびのびとした子供の姿を見ることができてよかった。(C)
- ・実験室や卒業課題等見学もできてよかったです。(C 2名)
- ・机に向かっての授業以外の参観でのびのびした子供の姿を見て健康面もチェックできたように思いました。(C)
- ・運動系より専門的な教科を参観したかったです。(C 4名)
- ・体育の授業と言うことでそれぞれのびのびしていたがこれでいいのか？と不安な気持ちもあります。(C)
- ・普段は見ることのできない実験室等専門の分野を見学で着てよかったです。(C 2名)
- ・子供の授業の様子を見ることができず残念だった。(C)

② 今後の授業参観ではどのような授業を参観したいですか？

	機械	電気	制御	情報	土木	計
上級生の専門科目	3	7	7	8	5	30
実験・実習	17	11	13	6	9	56
卒業研究	0	1	0	0	1	2
その他	0	1	1	2	0	4
	20	20	21	16	15	92

○理由・その他○

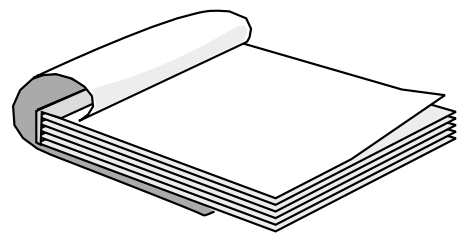
- ・専門の授業 (2名)
- ・体育 (2名)
- ・本日の見学でこれから進んでいく子供の授業が少し理解できたように思います。

6. 学校に対する要望

- ・寮生活の起きている問題等保護者に教えていただきたい。
- ・寮生は部活の後始末（片付け等）で寮の点呼等に遅れる場合があるように聞きます。その場合、ペナルティ（減点）扱いになると聞いていますが、部活等の場合は考慮して欲しい。
- ・就職した人の話。進学した人の話。
- ・学生に不祥事などがあった場合学校側から保護者への連絡が欲しいと思います。
- ・要望ではありませんが、また授業参観に参加していただきたいと思います。子供の教育しっかりと考えていただきたい。
- ・授業参観という形もあるが、学校開放の日を作り、自由に見学できれば良い。
- ・普通高校と違い学校の様子を知る機会が少ないので少々不安になります。少なくとも子供を3年生までは今日のような懇親会や面談があればありがたいです。（遠方の方には申し訳ありませんが…）
- ・進級や就職などの情報が速く欲しいです。子供は学校で話題になって分かっているつもりでいますが、親としては情報が入りにくいので…（3名）
- ・日課や行事を早い時期に知らせて欲しい。（今回は早かったので良かったです。）年間行事に記載してほしい。
- ・2学期の早い時期に個人面談を設けて欲しい。（3年生なので進路が不安）

7. 後援会に対する要望

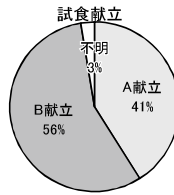
- ・野球部でしたが、後援会がなかったので少しさびしいでした。でも色々してくださる監督さんには感謝感謝でした。
- ・今日はみっちり参観したのでじっくりアンケートを書く暇が無く残念。
- ・今日のような会を開くには大変なご苦勞があると思いますが、また次回もよろしくお願い致します。



☆寮食アンケート☆

試食献立

A献立	32
B献立	44
不明	2
合計	78

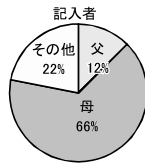


※未記入(不明)はB献立に含む

A献立

記入者

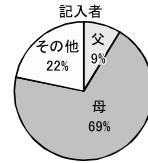
父	4
母	21
その他	7
合計	32



B献立

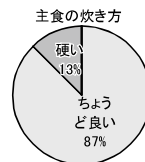
記入者

父	4
母	32
その他	10
合計	46



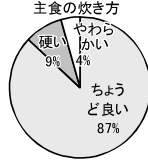
主食の炊き方

ちょうど良い	28
硬い	4
やわらかい	0
合計	32



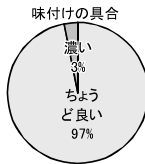
主食の炊き方

ちょうど良い	40
硬い	4
やわらかい	2
合計	46



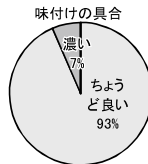
味付けの具合

ちょうど良い	31
濃い	1
薄い	0
合計	32



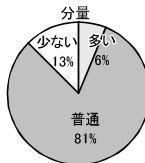
味付けの具合

ちょうど良い	43
濃い	3
薄い	0
合計	46



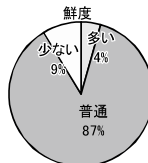
分量は

多い	2
普通	26
少ない	4
合計	32



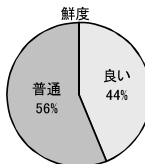
分量は

多い	2
普通	40
少ない	4
合計	46



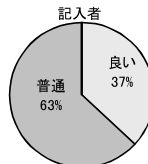
鮮度は

良い	14
普通	18
悪い	0
合計	32



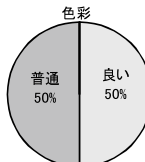
鮮度は

良い	17
普通	29
悪い	0
合計	46



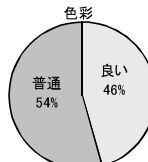
色彩は

良い	16
普通	16
悪い	0
合計	32



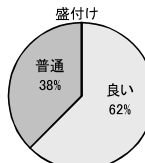
色彩は

良い	21
普通	25
悪い	0
合計	46



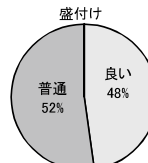
盛付けは

良い	20
普通	12
悪い	0
合計	32



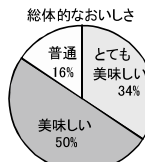
盛付けは

良い	22
普通	24
悪い	0
合計	46



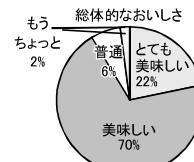
総合的なおいしさは

とても美味しい	11
美味しい	16
普通	5
もうちょっと	0
おいしくない	0
合計	32



総合的なおいしさは

とても美味しい	10
美味しい	32
普通	3
もうちょっと	1
おいしくない	0
合計	46



ご意見・ご感想

A献立

- 子供には量が少ない気がします。
- 私達には丁度良い量ですが、男の子には少し足りないような気がしました。というより、帰省の際にチラッと子供が漏らしました。
- いつもお世話になりありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願い致します。
- 美味しくいただきました。(2名)
- おかずのおかわりもできたらいいですね。
- いつも子供に美味しいご飯を作ってくださりありがとうございます！唐揚げがとても美味しかったです。ドレッシングやふりかけも選べていいですね！！
- 美味しかったです。ごちそうさまでした。野菜(国産)を多くしてバランスよく魚も酢の物もしていただければと思います。子供は美味しいのでおかずのおかわりもできれば嬉しいのに、たまにおかずが足りないかなぁと言っています。子供も美味しく食べているようで嬉しいです。これからも安心して食べれるものをよろしくをお願いします。バランスの良い食事をお願いします。ありがとうございます。
- おかわりの白飯用にふりかけ等準備いただく余裕はございませんでしょうか？

B献立

- 粒マスタードドレッシングは味が今一美味しくなかった。ジャガイモとえんどうが全く食材的に馴染んでいない。
- とりは味が良かったが切ってなくて食べにくかった。アスパラは冷凍ですか？筋があって美味しくない。
- 値段の割には頑張ってらっしゃるかも…
- スナックえんどうゆがきすぎて色悪。味も台無しでした。
- 味付けが少し濃い感じがしました。
- 野菜類が少ない感じがしました。
- いつも子供たちに食事を作っていただきありがとうございます。ご飯が少しパサつく感じがしました。味は良かったです。
- 中年(保護者の年齢層)には味が濃いと思われますが、育ち盛りの子供たちにはこれくらいが良いと思います。
- 240円でこれだけ美味しい食事あり難いです。付け合せの野菜もう少し量を増やして欲しい。果物や乳製品を取り入れた献立もあるのでしょうか？子供も休日に帰ってきた時「寮食はとても美味しい」と笑顔で言っているのととても感謝します。勉強、部活に頑張れるのも三度の食事のおかげです。これからもよろしくお願い致します。
- いつもお世話になります。ご飯のおかわりありがとう

ございます。

- 子供(男の子)には量が少ないかかもしれないと思いました。(3名)
- いつもありがとうございます。
- 鶏肉を少し切ってあったら食べやすい。(女子はかぶりつくのかな?)
- 子供から聞いて話ですが、普段の食事が最初の頃に比べてだんだん質が落ちてきているとの事でした。(せっかく作っていただいて失礼ですが…)あと今日のメニューはAもBも鶏肉料理でしたが、鶏肉が食べれない生徒はどうするのでしょうか？
- 朝食の和食メニューを考えて和食を食べるようにしてほしいです。
- 今朝のニュースでアメリカのトマトのサルモネラ菌感染をやっていました。生野菜の方が美味しいですが少し心配。
- 味が濃くも無く、ちょうど良くとても美味しかったです。色合いも食材も自宅ではなかなかこれほど工夫して出せる物ではないので子供がとても喜んでます。これからもどうぞよろしくお願い致します。
- いつも美味しい料理をありがとうございます。
- ごちそうさまでした。大変なお仕事ですが、よろしくをお願いします。



編 集 後 記

「高専だより」第59号をお届けいたします。

保護者の皆様に学生生活支援の現状の一端を知っていたらと、今号は「学生生活支援の諸活動」を特集しました。諸活動といってもそのほんの一部です。知りたい情報はいろいろおありのことと思います。高専だよりを充実させるためにも、ご意見・ご希望をお寄せいただければ幸いです。

現在学校では校舎の改修工事が進行中で、新しい教育・研究環境が整いつつあります。次号でお知らせする予定です。今後の学校運営全般につきましてもご支援のほどよろしくお願い致します。

ところで、突然のことでしたが、本文中の記事にもありますように、5月に機械工学科の中島正弘教授が他界されました。

先生は本年度の教育功労者選考委員会において、教育功労者（本科及び専攻科学生の内・国際学会発表を通じた能力開発）に選ばれたことを皆様にお伝えするとともに、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

最後になりましたが、発行に当たりましては、限られた期間の中で快く原稿執筆をお引き受けいただいた執筆者各位に対して、委員一同厚く御礼を申し上げます。

「高専だより」専門委員会委員

委 員 長	山下 登	（一般教育科文系）
委 員	嶋根 紀仁	（一般教育科理系）
	塚本 公秀	（機械工学科）
	奥 高洋	（電気電子工学科）
	福添 孝明	（電子制御工学科）
	新徳 健	（情報工学科）
	疋田 誠	（土木工学科）
担当事務	小田原正享	（入試広報係長）

「鹿児島高専だより」第59号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会
発 行 鹿児島工業高等専門学校
〒899-5193
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1